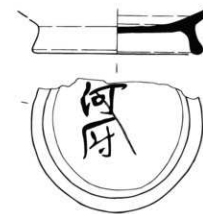


平成19年度水戸市内遺跡発掘調査報告書



2010

水戸市教育委員会

平成19年度水戸市内遺跡発掘調査報告書

2010

水戸市教育委員会



大串遺跡（第 8 地点）第 1 号住居跡遺物検出状況



荷鞍坂遺跡（第 1 地点）円墳周溝検出状況



赤塚遺跡（第4地点）先土器時代剥片



大籠町遺跡（第6地点）弥生土器壺

軍民坂遺跡（第3地点）「河厨」銘墨書須恵器有台坏



台渡里遺跡（35次）「厨□」銘墨書須恵器無台坏



水戸城跡（第15次）軒棧瓦



水戸城跡（第14次）色絵蝶に花菖蒲文長皿

ごあいさつ

歴史的文化遺産のひとつである埋蔵文化財は、工事や開発などにより一度破壊されると二度と原状に復することができないため、私たちが大切に保存しながら後世へ伝えていかなければならない貴重な財産です。近年の大規模開発等による都市化の様相が強まる中で、埋蔵文化財の現状保存は非常に困難になりつつありますが、本市においてもその意義や重要性を踏まえ、文化財保護法及び関係法令に基づいた保護保存に努めているところです。

本書は、平成19年度に水戸市内において実施した国・県費補助による試掘・確認調査、本発掘調査、立会調査の報告書です。

平成19年度に実施した試掘・確認調査は実に64件に及び、個人住宅建築に伴う記録保存を目的とした本発掘調査は3件実施しており、県内でもトップクラスの件数といえます。本書には、これらの調査によって得られた先土器時代から江戸時代に及ぶ数々の興味深い成果を盛り込みました。

赤塚遺跡では、先土器時代に遡ると考えられる石器が数点出土するとともに縄文時代の土坑群や古墳時代中期の竪穴住居跡が数軒確認されました。

荷鞍坂遺跡では、円筒埴輪や形象埴輪を伴う円溝の周溝が確認され、酒門台古墳群を構成する古墳が広く台地上に展開していたことが明らかとなりました。

軍民坂遺跡では、遺物包含層から須恵器の有台坏の底裏に「河原」と墨書きされたものが出土しました。当遺跡は奈良・平安時代には常陸国那賀郡河内郷に位置しており、近隣には河内駅家があったことから、河内駅家もしくは郷内に厨家に関連する施設が存在したことを示唆する興味深い文字資料です。

町付遺跡では、古代常陸国那賀郡衛である台渡里廃寺跡（長者山地区）と那賀郡衛の別院とみられる大申遺跡（第7地点）を結ぶ連絡道とみられる直線道路が確認されました。

水戸城跡では、旧弘道館の敷地内において近世の遺構が確認され、七面製陶所産の陶器や旧弘道館に葺かれていた瓦が多数出土し、近世水戸城の空間利用のあり方が明らかとなりました。

それぞれの調査面積・期間はささやかなものですが、その成果を一つ一つ積み重ねることにより、水戸の歴史をより豊かなものにし、「歴史都市・水戸」にふさわしい、郷土の歴史的景観を活かしたまちづくりの一助となることを願ってやみません。

最後になりましたが、調査に当たり多大な御理解と御協力をいただきました事業者・土地所有者の皆様、並びに種々の御指導・御助言をいただきました文化庁記念物課、茨城県教育庁文化課、水戸市史跡等整備検討専門委員の皆様方に心から感謝を申し上げます。そしてここに刊行する本書が、かけがえのない郷土の文化財に対する意識の高揚と、学術研究等の資料として、広く御活用いただけることを期待し、ごあいさつといたします。

平成22年3月

水戸市教育委員会
教育長 鯨岡 武

例 言

1. 本書は平成19年度に国・県費の補助を受けて水戸市教育委員会が直営事業として実施した水戸市内に所在する遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査対象となった遺跡は、下記のとおりである。
赤塚遺跡・疋遺跡・有賀宿遺跡・池上遺跡・薄内遺跡・大串遺跡・大塚新地遺跡・大鋸町遺跡・加倉井原遺跡・蔵田千軒遺跡・軍民坂遺跡・下遠田遺跡・小林遺跡・三本松古墳群・下荒句遺跡・下本郷遺跡・宿西遺跡・新田遺跡・台渡里遺跡・滝澤北遺跡・東照宮境内遺跡・遠台遺跡・長嶋遺跡・南台遺跡・荷坂坂遺跡・西原古墳群・東組遺跡・東割遺跡・間江宿遺跡・舞台遺跡・文京2丁目遺跡・堀遺跡・町付遺跡・水戸城跡・南仲坪遺跡・宮西遺跡・向原遺跡・元石川大谷原遺跡・谷田古墳群・横宿遺跡・米沢町遺跡・竜岡遺跡・若林遺跡・渡里町遺跡
3. 上記の遺跡のほかに、国指定史跡「吉田古墳」、茨城県指定史跡「台渡里廃寺跡(長者山地区)」および大串遺跡(第7地点)、七面製陶所跡、日新塾跡において、保存目的の確認調査を行ったが、吉田古墳については、『吉田古墳Ⅲ 一史跡整備計画に伴う吉田古墳群第1号墳の第4・5次発掘調査報告書』に調査成果を掲載している。台渡里廃寺跡(長者山地区)、大串遺跡(第7地点)、七面製陶所跡、日新塾跡については、平成20年度以降も継続して確認調査を行うため、これらの調査成果については、平成21年度以降に刊行を予定している正式報告書において公表する。

4. 調査にあたった組織は以下のとおりである。

(平成19年度)

調査担当者	川口武彦	水戸市教育委員会文化振興課文化振興係文化財主事
	関口慶久	水戸市教育委員会文化振興課文化振興係文化財主事
	新垣清貴	水戸市教育委員会文化振興課文化振興係埋蔵文化財専門員
	渥美賢吾	水戸市教育委員会文化振興課文化振興係埋蔵文化財専門員
	木本孝周	水戸市教育委員会文化振興課文化振興係埋蔵文化財専門員
事務局	鯨岡武	水戸市教育委員会教育長
	小澤邦夫	水戸市教育委員会教育次長
	仲田立	水戸市教育委員会文化振興課長
	中里誠志郎	水戸市教育委員会文化振興課長補佐
	宮崎賢司	水戸市教育委員会文化振興課文化財係長
	緑川義規	水戸市教育委員会文化振興課文化財係主事

(平成20年度)

整理担当者	川口武彦	水戸市教育委員会文化振興課大串貝塚ふれあい公園文化財主事
	色川順子	水戸市教育委員会文化振興課大串貝塚ふれあい公園埋蔵文化財専門員
事務局	鯨岡武	水戸市教育委員会教育長
	内田秀泰	水戸市教育委員会教育次長
	仲田立	水戸市教育委員会文化振興課長
	中里誠志郎	水戸市教育委員会文化振興課長補佐
	宮崎賢司	水戸市教育委員会文化振興課文化財係長
	萩谷慎一	水戸市教育委員会文化振興課文化財係主査
	緑川義規	水戸市教育委員会文化振興課文化財係主事
	関口慶久	水戸市教育委員会文化振興課文化財係文化財主事
	渥美賢吾	水戸市教育委員会文化振興課文化財係文化財主事
	金子千秋	水戸市教育委員会文化振興課文化財係埋蔵文化財専門員
	五上義隆	水戸市教育委員会文化振興課大串貝塚ふれあい公園所長
	飛田邦夫	水戸市教育委員会文化振興課大串貝塚ふれあい公園嘱託員
	山戸祐子	水戸市教育委員会文化振興課大串貝塚ふれあい公園嘱託員
	大津郁子	水戸市教育委員会文化振興課大串貝塚ふれあい公園埋蔵文化財専門員

(平成21年度)

整理担当者	川口武彦	水戸市教育委員会文化振興課大串貝塚ふれあい公園文化財主事
-------	------	------------------------------

色川順子	水戸市教育委員会文化振興課大申貝塚ふれあい公園埋蔵文化財専門員
事務局 鯨岡 武	水戸市教育委員会教育長
内田秀泰	水戸市教育委員会教育次長
中里誠志郎	水戸市教育委員会文化振興課長
五上義隆	水戸市教育委員会文化振興課補佐
萩谷慎一	水戸市教育委員会文化振興課文化財係長
緑川規規	水戸市教育委員会文化振興課文化財係主事
関口慶久	水戸市教育委員会文化振興課文化財係文化財主事
渥美賢吾	水戸市教育委員会文化振興課文化財係文化財主事
米川暢敬	水戸市教育委員会文化振興課文化財係文化財主事
金子千秋	水戸市教育委員会文化振興課文化財係埋蔵文化財専門員
宮崎賢司	水戸市教育委員会文化振興課大申貝塚ふれあい公園所長
山戸祐子	水戸市教育委員会文化振興課大申貝塚ふれあい公園嘱託員
大津郁子	水戸市教育委員会文化振興課大申貝塚ふれあい公園埋蔵文化財専門員
荒崎周平	水戸市教育委員会文化振興課大申貝塚ふれあい公園埋蔵文化財専門員

5. 発掘調査と整理作業には以下の者が参加した。

発掘調査参加者

中尾麻由実（筑波大学大学院人文社会科学研究所大学院生）、岡見知麻（東京学芸大学学部生）、石川 勉、石崎寿子、石崎洋子、榎澤由紀江、海老原四郎、岡野政雄、小野瀬智工、小山司農夫、加藤利男、川又恵美子、河原井俊吉郎、黒須秀昭、久保木きよ子、久保田馨、栗原芳子、鈴木潤一、高柳悦子、高安幸直、飛田とし子、富田 仁、中山忠雄、野原 猛、花田繁二郎、廣水一真、福原雅美、三浦健太、皆川明子、皆川幸子、村上巧児、矢ノ倉史夫、山崎武司、渡辺恵子

整理作業参加者

安島町子、飯田貴代子、小澤弥代、柏千枝子、斎藤千左乃、杉崎明美、鈴木加代子、須藤裕美、田上雪枝、橋本祥子、人見よね子、平根真由美、広瀬文子、深澤貞子、三浦悦子

6. 本書の執筆は各調査担当者が分担して行ない、全体の編集には川口・色川があたった。出土遺物については図化および観察表作成、解説文執筆を色川・川口が担当し、石器および奈良・平安時代の遺物解説文執筆については川口と渥美が、中・近世の遺物解説文執筆については関口が補佐した。水戸城跡出土の近世瓦については、木本肇周氏（牛久市教育委員会生涯学習課非常勤特別学芸員）に解説文執筆をお願いした。執筆分担はそれぞれ文末に明記した。

7. 本書に関わる資料は、水戸市教育委員会が保管している。

8. 遺構の写真撮影は調査担当者が行ない、遺物の写真撮影は川口が行った。

9. 発掘調査から本書の刊行に至るまで、下記の方々・諸機関より御指導・御教示・御協力を賜った。記して深く謝意を表す次第です（五十音順・敬称略）。

【個人】 青山俊明、荒井秀規、飯島一生、石川 功、稲田健一、井上説子、今尾文昭、大塚初重、大橋泰夫、大森隆志、岡本東三、川崎純徳、川尻秋生、河野一也、瓦吹 堅、黒澤彰哉、小坪のり子、越川欣和、小杉山大輔、後藤一成、後藤孝行、後藤道雄、斎藤弘道、坂井秀弥、佐々木義則、鈴木素行、清野孝之、曾根俊雄、高島英之、田中 裕、長谷川 聡、畑野経夫、日高 慎、吹野富美夫、松本太郎、水野順敏、三井 猛、宮内良隆、山路直充、山中菊乃、山中敏史、横倉要次、吉村武彦

【機関】 文化庁文化財部記念物課、伊藤平左衛門事務所、茨城県教育庁文化課、茨城県偕楽園弘道館事務所、株式会社日本窯業史研究所、明治大学古代学研究所、有限会社三井考測、株式会社浦井工務店、荻谷建設株式会社、東新建設株式会社、株式会社キガ

凡 例

1. 遺構平面図・断面図の縮尺は統一していない。縮小率は各図面に示したスケールを参照願いたい。

2. 遺跡の位置図のうち、第1図は川口が（茨城県教育委員会編 2001『茨城県遺跡地図』）をスキャナーを用いて読み込んだ画像をデジタルトレースし、1:60,000の大きさに縮小したものである。個別の遺跡位置図は、（井上・夢沼・仁平・根本 1999『水戸市埋蔵文化財分布調査報告書 平成10年度版』水戸市教育委員会）および（細谷・佐藤・川井・根本・

市毛 1994 『内原町の遺跡—内原町遺跡分布調査報告書—』内原町史編さん委員会)の地図をスキャナーで読み込み、画像としたものに加筆した。

4. 水戸城跡(第13・15次調査)の調査位置図は、茨城県弘道館事務所から委託を受けて測量調査を実施した有限会社三井考測により作成された遺跡調査測量図を使用させていただいた。
5. 遺構断面図及び土層堆積図の標高は、その都度図中に示している。
6. 本書中の色調に関する表現は『新版標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修 2005年版)に従った。
7. 引用・参考文献は、一括して本書の最後に提示した。
8. 表紙に使用した遺物の実測図は、軍民坂遺跡(第3地点)出土の墨書土器である。実測及び浄書は色川が行った。

目 次

あいさつ

例言・凡例・目次

第1章 平成19年度の発掘調査と概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

第2章 開発に伴う試掘調査

2-1	赤塚遺跡(第4地点)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10
2-2	薄内遺跡(第1地点)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	14
2-3	大串遺跡(第8地点)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15
2-4	大塚新地遺跡(第2地点)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	17
2-5	大塚新地遺跡(第5地点)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	18
2-6	大鋸町遺跡(第6地点)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19
2-7	大鋸町遺跡(第7地点)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	22
2-8	大鋸町遺跡(第8地点)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	23
2-9	加倉井原遺跡(第4地点)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	25
2-10	蔵田千軒遺跡(第2地点)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	26
2-11	軍民坂遺跡(第3地点)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	28
2-12	下荒匂遺跡(第4地点)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	30
2-13	下荒匂遺跡(第5地点)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	32
2-14	周知外(藤井町地内)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	32
2-15	新田遺跡(第1地点)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	34
2-16	台渡里遺跡(第34次)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	36
2-17	台渡里遺跡(第35次)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	37
2-18	台渡里遺跡(第40次)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	40
2-19	東照宮境内遺跡(第1地点)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	41
2-20	長嶋遺跡(第2地点)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	42
2-21	荷鞍坂遺跡(第1地点)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	43
2-22	西原古墳群(第13地点)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	45
2-23	東組遺跡(第1地点)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	47
2-24	開江宿遺跡(第1地点)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	49
2-25	舞台遺跡(第4地点)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	50
2-26	堀遺跡(第11地点)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	51
2-27	堀遺跡(第12地点)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	52
2-28	町付遺跡(第1地点)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	55
2-29	水戸城跡(第10次)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	56
2-30	水戸城跡(旧弘道館)(第13・15次)・・・・・・・・・・・・・・・・・・	60
2-31	元石川大谷原遺跡(第1地点)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	68

2—32	若林遺跡(第2地点)・・・・・・・・・・・・・・・・	69
2—33	渡里町遺跡(第4地点)・・・・・・・・・・・・・・・・	70
2—34	渡里町遺跡(第7地点)・・・・・・・・・・・・・・・・	71
第3章 個人住宅建築に伴う本発掘調査		
3—1	大串遺跡(第8地点)・・・・・・・・・・・・・・・・	72
3—2	大沼町遺跡(第7地点)・・・・・・・・・・・・・・・・	74
第4章 開発に伴う工事立会調査		
4—1	周知外(城東3丁目179番地)・・・・・・・・・・	84
4—2	水戸城跡(14次)・・・・・・・・・・・・・・・・	85
引用・参考文献・・・・・・・・・・・・・・・・		93

目次

第1図	調査対象となった遺跡の位置・・・・・・・・・・	4	第33図	軍民坂遺跡(第3地点)のトレンチ配置・・・・	28
第2図	遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置(1)・・	5	第34図	軍民坂遺跡(第3地点)トレンチ1・・・・	28
第3図	遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置(2)・・	6	第35図	軍民坂遺跡(第3地点)出土遺物・・・・	29
第4図	遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置(3)・・	7	第36図	下荒句遺跡(第4地点)の位置・・・・・・・・	30
第5図	遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置(4)・・	8	第37図	下荒句遺跡(第4地点)のトレンチ配置・・・・	30
第6図	遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置(5)・・	9	第38図	下荒句遺跡(第4地点)出土遺物・・・・	30
第7図	赤塚遺跡(第4地点)の位置・・・・・・・・・・	10	第39図	下荒句遺跡(第4地点)トレンチ3掘削状況・土層断面・・	31
第8図	赤塚遺跡(第4地点)のトレンチ配置・・・・・・・・	11	第40図	下荒句遺跡(第5地点)の位置・・・・・・・・	32
第9図	赤塚遺跡(第4地点)出土遺物(1)・・・・・・・・	12	第41図	下荒句遺跡(第5地点)のトレンチ配置・・・・	32
第10図	赤塚遺跡(第4地点)出土遺物(2)・・・・・・・・	13	第42図	下荒句遺跡(第5地点)出土遺物・・・・	32
第11図	薄内遺跡(第1地点)の位置・・・・・・・・・・	14	第43図	周知外(藤井町地内)の位置・・・・・・・・	33
第12図	薄内遺跡(第1地点)のトレンチ配置・・・・・・・・	15	第44図	周知外(藤井町地内)のトレンチ配置・・・・	33
第13図	大串遺跡(第8地点)の位置・・・・・・・・・・	15	第45図	周知外(藤井町地内)出土遺物・・・・	33
第14図	大串遺跡(第8地点)のトレンチ配置・・・・	16	第46図	新田遺跡(第1地点)の位置・・・・・・・・	34
第15図	大串遺跡(第8地点)トレンチ1遺構検出状況・・	16	第47図	新田遺跡(第1地点)のトレンチ配置・・・・	34
第16図	大塚新地遺跡(第2・5地点)の位置・・・・・・・・	17	第48図	新田遺跡(第1地点)トレンチ2・5遺構検出状況・・	35
第17図	大塚新地遺跡(第2地点)のトレンチ配置・・・・	17	第49図	台渡里遺跡(第34・35・40次)の位置・・・・	36
第18図	大塚新地遺跡(第5地点)のトレンチ配置・・・・	18	第50図	台渡里遺跡(第34次)のトレンチ配置・・・・	37
第19図	大塚新地遺跡(第5地点)出土遺物・・・・	18	第51図	台渡里遺跡(第35次)のトレンチ配置・・・・	38
第20図	大沼町遺跡(第6地点)の位置・・・・・・・・	19	第52図	台渡里遺跡(第35次)出土遺物・・・・	39
第21図	大沼町遺跡(第6地点)のトレンチ配置・・・・	20	第53図	台渡里遺跡(第40次)のトレンチ配置・・・・	40
第22図	大沼町遺跡(第6地点)出土遺物・・・・・・・・	21	第54図	東照宮境内遺跡(第1地点)の位置・・・・	41
第23図	大沼町遺跡(第7・8地点)の位置・・・・・・・・	22	第55図	東照宮境内遺跡(第1地点)のトレンチ配置・・・・	41
第24図	大沼町遺跡(第7地点)のトレンチ配置・・・・	23	第56図	長嶋遺跡(第2地点)の位置・・・・・・・・	42
第25図	大沼町遺跡(第8地点)のトレンチ配置・・・・	24	第57図	長嶋遺跡(第2地点)のトレンチ配置・・・・	42
第26図	加倉井原遺跡(第4地点)の位置・・・・・・・・	26	第58図	長嶋遺跡(第2地点)出土遺物・・・・	42
第27図	加倉井原遺跡(第4地点)のトレンチ配置・・・・	26	第59図	荷鞍坂遺跡(第1地点)の位置・・・・・・・・	43
第28図	蔵田千軒遺跡(第2地点)の位置・・・・・・・・	26	第60図	荷鞍坂遺跡(第1地点)のトレンチ配置・・・・	44
第29図	蔵田千軒遺跡(第2地点)のトレンチ配置・・・・	27	第61図	西原古墳群(第13地点)の位置・・・・・・・・	45
第30図	蔵田千軒遺跡(第2地点)のトレンチ内遺構検出状況・・	27	第62図	西原古墳群(第13地点)のトレンチ配置と隣接古墳の位置関係・・	46
第31図	蔵田千軒遺跡(第2地点)出土遺物・・・・・・・・	27	第63図	西原古墳群(第13地点)出土遺物・・・・	47
第32図	軍民坂遺跡(第3地点)の位置・・・・・・・・	28	第64図	東組遺跡(第1地点)の位置・・・・・・・・	47

第 65 図	東組遺跡 (第 1 地点) のトレンチ配置	48	第 87 図	若林遺跡 (第 2 地点) の位置	69
第 66 図	開江宿遺跡 (第 1 地点) の位置	49	第 88 図	若林遺跡 (第 2 地点) のトレンチ配置	69
第 67 図	開江宿遺跡 (第 1 地点) のトレンチ配置	50	第 89 図	渡里町遺跡 (第 4・7 地点) の位置	70
第 68 図	舞台遺跡 (第 4 地点) の位置	50	第 90 図	渡里町遺跡 (第 4 地点) のトレンチ配置	70
第 69 図	舞台遺跡 (第 4 地点) のトレンチ配置	51	第 91 図	渡里町遺跡 (第 7 地点) のトレンチ配置	71
第 70 図	舞台遺跡 (第 4 地点) 出土遺物	51	第 92 図	大串遺跡 (第 8 地点) の位置	72
第 71 図	堀遺跡 (第 11・12 地点) の位置	51	第 93 図	大串遺跡 (第 8 地点) 第 1 号住居跡	72
第 72 図	堀遺跡 (第 11 地点) のトレンチ配置と遺構検出状況	52	第 94 図	大串遺跡 (第 8 地点) 出土遺物	73
第 73 図	堀遺跡 (第 12 地点) のトレンチ配置と遺構検出状況	53	第 95 図	大串町遺跡 (第 7 地点) の位置	74
第 74 図	町付遺跡 (第 1 地点) の位置	55	第 96 図	大串町遺跡 (第 7 地点) の遺構配置と 1~3 号遺構土層断面	75
第 75 図	町付遺跡 (第 1 地点) のトレンチ配置	55	第 97 図	大串町遺跡 (第 7 地点) 5~8 号遺構・1 号遺構ピット土層断面	76
第 76 図	水戸城跡 (第 10 次) の位置	56	第 98 図	大串町遺跡 (第 7 地点) 1 号遺構ピット土層断面・立面	77
第 77 図	水戸城跡 (第 10 次) のトレンチ配置	57	第 99 図	大串町遺跡 (第 7 地点) 出土遺物 (1)	79
第 78 図	水戸城跡 (第 10 次) トレンチ・2 平面・土層断面	58	第 100 図	大串町遺跡 (第 7 地点) 出土遺物 (2)	80
第 79 図	水戸城跡 (第 10 次) 出土遺物	58	第 101 図	真知外 (城東 3 丁目 179 番地) 立会調査地点の位置	84
第 80 図	水戸城跡 (第 13・15 次) の位置	60	第 102 図	真知外 (城東 3 丁目 179 番地) 立会調査出土遺物	84
第 81 図	水戸城跡 (第 13・15 次) 調査区的位置	61	第 103 図	水戸城跡 (第 14 次) 立会調査地点の位置	85
第 82 図	水戸城跡 (第 13 次) トレンチ内遺構配置・土層断面	62	第 104 図	水戸城跡 (第 14 次) 立会調査出土遺物	86
第 83 図	水戸城跡 (第 13・15 次) 出土遺物 (1)	64			
第 84 図	水戸城跡 (第 13・15 次) 出土遺物 (2)	65			
第 85 図	水戸城跡 (第 13・15 次) 出土遺物 (3)	66			
第 86 図	元石川大谷原遺跡 (第 1 地点) のトレンチ配置	68			

写真目次

写真 1	トレンチ 7 縄文時代上坑群 (北から)	12	写真 24	トレンチ 5 竪穴住居跡検出状況 (西から)	48
写真 2	トレンチ 6 竪穴住居跡 (西から)	12	写真 25	トレンチ 2-002 号遺構調査状況 (西から)	52
写真 3	トレンチ 6 東端溝跡 (南から)	12	写真 26	トレンチ 2-001 号遺構検出状況 (西から)	52
写真 4	トレンチ 1 遺構検出状況 (西から)	16	写真 27	トレンチ 2 遺構検出状況 (北東から)	54
写真 5	トレンチ 1 遺構検出状況 (東から)	16	写真 28	トレンチ 2 遺構検出状況 (西から)	54
写真 6	トレンチ 1 第 1 号住居跡検出状況 (北から)	21	写真 29	トレンチ 2 竪穴遺構検出状況 (西から)	54
写真 7	トレンチ 1 第 1 号溝跡検出状況 (北から)	21	写真 30	トレンチ 2 道路状遺構検出状況 (南から)	55
写真 8	トレンチ 3 第 5 号住居跡検出状況 (南から)	22	写真 31	トレンチ 3 竪穴住居跡検出状況 (西から)	55
写真 9	トレンチ 3 第 2 号住居跡検出状況 (西から)	22	写真 32	トレンチ 1 遠景 (南から)	59
写真 10	トレンチ 1 遺構検出状況 (南から)	25	写真 33	トレンチ 1 遺構検出状況 (東から)	59
写真 11	トレンチ 2 溝跡検出状況 (南から)	25	写真 34	トレンチ 1-Pn1 土層断面 (南から)	59
写真 12	トレンチ 3 遺構検出状況 (南から)	25	写真 35	トレンチ 1-Pn2 土層断面 (南から)	59
写真 13	トレンチ 4 遺構検出状況 (西から)	25	写真 36	トレンチ 1-Pn3 土層断面 (南から)	59
写真 14	トレンチ 3 堀跡検出状況 (東から)	31	写真 37	トレンチ 2 遺構検出状況 (西から)	59
写真 15	トレンチ 3 堀跡断面 (東から)	31	写真 38	1 号遺構完備状況 (西から)	63
写真 16	トレンチ 2 竪穴・集石検出状況 (北から)	35	写真 39	2 号遺構完備状況 (南から)	63
写真 17	トレンチ 5 竪穴検出状況 (南から)	35	写真 40	3 号遺構完備状況 (西から)	63
写真 18	1 区掘削状況 (西から)	39	写真 41	4 号遺構完備状況 (東から)	63
写真 19	5 区溝跡検出状況 (南東から)	39	写真 42	5 号遺構完備状況 (西から)	63
写真 20	4 区ピット群検出状況 (西から)	39	写真 43	第 1 号住居跡遺物検出状況 (東から)	74
写真 21	円墳周溝検出状況 (西から)	45	写真 44	第 1 号住居跡遺物検出状況 (南から)	74
写真 22	隣接地古墳墳丘 (南東から)	45	写真 45	7 号跡土層断面 (西から)	74
写真 23	トレンチ 2 性格不明土坑検出状況 (南東から)	48	写真 46	第 1 号住居跡土層断面 (東から)	74

写真 47	1号遺構検出状況（南東から）	82	写真 59	3号遺構土層断面（東から）	83
写真 48	1号遺構土層断面（西から）	82	写真 60	4号遺構土層断面（東から）	83
写真 49	1号遺構土層断面近景（西から）	82	写真 61	6号遺構土層断面（南東から）	83
写真 50	1号遺構西壁土層断面（東から）	82	写真 62	8号遺構土層断面（南東から）	83
写真 51	1号遺構西壁土層断面近景（東から）	82			
写真 52	1号遺構完掘状況（東から）	82			
写真 53	1号遺構完掘状況（南東から）	82			
写真 54	1号遺構 P3 土層断面（西から）	82			
写真 55	1号遺構 P5 土層断面（東から）	83			
写真 56	1号遺構 P32 土層断面（東から）	83			
写真 57	1号遺構 P33 土層断面（東から）	83			
写真 58	2号遺構土層断面（西から）	83			

表目次

第 1 表	開発に伴う試掘・確認調査一覧	1	第 7 表	土器・陶磁器・瓦観察表	87
第 2 表	個人住宅建築に伴う本発掘調査一覧	3	第 8 表	石器観察表	92
第 3 表	開発に伴う工事立会調査一覧	3	第 9 表	鉄器・鉄滓観察表	92
第 4 表	大串遺跡（第 8 地点）出土遺物総量	73			
第 5 表	大館町遺跡（第 7 地点）土坑・ピット一覧	78			
第 6 表	大館町遺跡（第 7 地点）出土遺物総量	81			

第1章 平成19年度の発掘調査と概要

平成19年度の水戸市内遺跡発掘調査は、46遺跡（周知外2地点含む）66地点がその対象となった。その内訳は、開発に係わる試掘・確認調査64件であった。

開発に係わる試掘調査では、18遺跡25地点で遺構が検出され、25遺跡34地点で遺物が出土した（第1表・第2表）。これらのうち、61件については、事業計画と試掘・確認調査によって得られた成果を比較したところ、工事を実施した場合の遺跡への影響が軽微であると判断されたため、工事立会あるいは、慎重工事の扱いとなり、本調査の実施が必要であると判断されたものは3件であった。

本調査の対象となった3件のうち、台渡里遺跡（第34次）については、検出された遺構・遺物が質・量ともに充実しており、1冊の報告書として刊行すべき内容であることから、本書では第2表に調査の概要のみを記し、詳細については別途、刊行を予定している報告書に収録する。大串遺跡（第8地点）と大鋸町遺跡（第7地点）の調査成果については本書に収録した。また、工事立会の扱いとなり、立会調査の際に遺物が出土した地点が3箇所ある（第3表）。遺構・遺物が出検されなかった遺跡（地点）の詳細な位置は第2～6図のとおりである。

第1表 開発に伴う試掘・確認調査一覧

No	遺跡名	調査地	調査期間	調査原因	調査面積 (㎡)	調査担当者	遺構	遺物
1	小塚遺跡 (第4地点)	河和山3丁目2542-1外	1次 12月18日～19日 2次 1月15日～16日	宅地造成工事	177.0	川口武彦、新沼清貴	○	○
2	戸遺跡 (第7地点)	河和山1丁目1610-2	5月8日	個人住宅建築	3.0	新沼清貴	—	—
3	有賀町遺跡 (第1地点)	有賀町1270	6月4日	個人住宅建築	3.0	関口慶久	—	—
4	池上遺跡 (第1地点)	大塚町字池上1958-8	11月1日	宅地造成工事	33.0	新沼清貴	—	—
5	薄内遺跡 (第1地点)	六反田町字薄内861-2	9月27日	通信基地局建築	36.0	新沼清貴	○	○
6	大塚遺跡 (第8地点)	電崎町字原1077-3	4月27日	個人住宅建築	33.15	川口武彦	○	○
7	大塚新地遺跡 (第2地点)	大塚町544-6	4月19日	個人住宅建築	28.35	新沼清貴	—	△
8	大塚新地遺跡 (第3地点)	大塚町544-7	5月21日	個人住宅建築	2.0	新沼清貴	—	—
9	大塚新地遺跡 (第4地点)	大塚町544-8	6月20日	個人住宅建築	8.0	新沼清貴	—	—
10	大塚新地遺跡 (第5地点)	大塚町544-1	6月20日	個人住宅建築	9.5	新沼清貴	—	△
11	大鋸町遺跡 (第6地点)	元古田町2338-1	10月2日～3日	宅地造成工事	167.5	新沼清貴	○	○
12	大鋸町遺跡 (第7地点)	元古田町2350-2	11月19日	個人住宅建築	22.2	新沼清貴	○	○
13	大鋸町遺跡 (第8地点)	元古田町2349-1、2350-1、2351	2月25日～26日	宅地造成工事	116.8	関口慶久、新沼清貴	○	○
14	加倉井原遺跡 (第3地点)	加倉井町字原1363	7月26日	個人住宅建築	8.0	新沼清貴	—	—
15	加倉井原遺跡 (第4地点)	加倉井町1319-1	11月27日	個人住宅建築	8.0	新沼清貴	—	△
16	横田平軒遺跡 (第2地点)	標調町字九ノ割6002-2	9月21日	個人住宅建築	11.45	新沼清貴	○	○
17	甲沢坂遺跡 (第3地点)	上田町字宇南台3667-1	1月17日～18日	個人住宅建築	6.0	新沼清貴	○	○
18	下瀬田遺跡 (第1地点)	五平町318-1、323-1	7月18日	個人住宅建築	6.5	新沼清貴	—	—
19	小林遺跡 (第3地点)	小林町字根崎1509-2	8月1日	個人住宅建築	4.0	新沼清貴	—	—
20	二本松古墳跡 (第2地点)	田島町字終巻372-4	12月11日	個人住宅建築	9.0	川口武彦、新沼清貴	—	—
21	下長町遺跡 (第3地点)	双葉台4丁目243-107、110	4月18日	個人住宅建築	7.0	新沼清貴	—	—
22	下長町遺跡 (第4地点)	双葉台4丁目238	11月19日	樹木の伐根、盛土	39.0	関口慶久	○	△
23	下長町遺跡 (第5地点)	双葉台4丁目243-92外	12月25日	個人住宅建築	6.0	川口武彦、新沼清貴	—	△

24	下木原道路 (第2地点)	千波町字東久保14-19	2月22日	個人住宅建築	4.0	川口武彦	—	—
25	岡知井 (藤井町地内)	藤井町字南柳形1946	9月28日	通信基地局建設	24.0	新田清貴	—	△
26	切西道路 (第2地点)	横瀬町3095-1, 3093-1	8月1日	個人住宅建築	4.5	新田清貴	—	—
27	新田道路 (第1地点)	全園町1366-1	8月27日～8月30日	吃水槽建設	8.0	川口武彦	○	○
28	新田道路 (第2地点)	全園町1366-1	8月28日～8月30日	道路建設	1.0	川口武彦	—	—
29	台渡里道路 (第34次)	渡里町字宿屋敷3028-8	4月4日～4月5日	個人住宅建築	98.24	川口武彦, 瀧美賢吾	○	○
30	台渡里道路 (第35次)	渡里町2812-1～3011	5月27日～5月28日	公共下水道管理設	18.0	新田清貴	○	○
31	台渡里道路 (第40次)	渡里町字親久保2771-12	3月19日	個人住宅建築	24.71	川口武彦	○	—
32	築田北道路 (第1地点)	横瀬町字一ノ瀬901-1, 903-1, 904-2	9月21日	個人住宅建築	37.0	新田清貴	—	—
33	東照宮境内道路 (第1地点)	宮町2-4	1次 9月14日 2次 10月17日	マンション建築	99.5	瀧美賢吾, 関口慶久	—	△
34	遠台道路 (第2地点)	杉崎町2102	7月30日	個人住宅建築	4.0	新田清貴	—	—
35	遠台道路 (第3地点)	中瀬町737-8	3月17日	個人住宅建築	3.6	川口武彦, 新田清貴	—	—
36	長船道路 (第2地点)	大足町1044-1外	2月21日	個人住宅兼店舗建築	45.0	川口武彦	—	△
37	南台道路 (第1地点)	上田町4150	4月14日	個人住宅建築	14.25	新田清貴, 関口慶久	—	—
38	荷取坂道路 (第1地点)	西門町242-1	8月27日～8月28日	コンビニエンスストア建築	220.5	新田清貴, 瀧美賢吾	○	○
39	西原古墳跡 (第13地点)	渡里町字野木3370-6, 3370-7	2月28日	個人住宅建築	21.88	川口武彦, 瀧美賢吾	○	○
40	東原道路 (第1地点)	元吉田町379-1外	1次 2月19日～2月20日 2次 3月12日	物販店舗建築	497.0	川口武彦, 新田清貴, 木本孝博	○	○
41	東別道路 (第10地点)	東野町字北割59-5, 59-6	5月14日	個人住宅建築	4.0	新田清貴	—	—
42	東別道路 (第11地点)	東野町118-5	5月14日	個人住宅建築	4.0	新田清貴	—	—
43	関江新道路 (第1地点)	関江町字宮久保1219-3	7月5日	個人住宅建築	10.5	新田清貴	—	○
44	関江新道路 (第2地点)	関江町字長田1600	11月2日	個人住宅建築	4.0	新田清貴	—	—
45	舞台道路 (第4地点)	三浦町86-2	9月28日	通信基地局建設	21.25	新田清貴	○	○
46	文京2丁目道路 (第1地点)	文京2丁目1986	7月27日	個人住宅建築	39.0	関口慶久	—	—
47	飯沼跡 (第9地点)	渡里町字高野台3309-2の一部 (区画No.8)	3月4日～6日	個人住宅建築	21.0	川口武彦, 瀧美賢吾	○	○
48	飯沼跡 (第11地点)	渡里町3293-1, 3294-1	6月15日	個人住宅建築	23.0	新田清貴	○	○
49	飯沼跡 (第12地点)	飯町396-1	1月29日	個人住宅建築	65.8	関口慶久, 木本孝博	○	○
50	町付道路 (第1地点)	西門町638-1	11月19日～11月20日	共同住宅建築	122.5	新田清貴	○	○
51	水戸坂跡 (第10次)	三の丸2-9-22(水戸2中)	1次 8月20日～22日 2次 9月12日	受水槽増設工事	106.0	関口慶久, 新田清貴, 川口武彦	○	○
52	水戸坂跡 (第13次)	三の丸1-6-29(旧弘道館)	8月31日～9月4日	配管改築工事	3.3	関口慶久	○	○
53	南州河道路 (第4地点)	加倉井町字山田332-3	8月23日	個人住宅建築	4.0	新田清貴	—	—
54	宮内道路 (第1地点)	東永塚2227-3, 2228-4	1月7日	個人住宅建築	4.0	川口武彦, 新田清貴	—	—
55	向原道路 (第5地点)	中瀬町字向原533-3	7月5日	個人住宅建築	1.25	新田清貴	—	—
56	元石川大谷原道路 (第1地点)	元石川町字大谷原2265外	1次 10月24日・25日・29日・31日 2次 11月1日・2日・5日	宅地造成工事	920.0	川口武彦	○	○

57	吾田古墳部 (第6地点)	酒門町 567-1	7月18日	共同住宅建築	45.0	新田清貴	—	—
58	吾田古墳部 (第7地点)	酒門町字ひた塚 990-7	12月10日	個人住宅建築	9.7	川口武彦、新田清貴	—	—
59	横宿遺跡 (第2地点)	元吉田町 2649-63	4月17日	個人住宅建築	2.5	新田清貴	—	—
60	米沢町遺跡 (第9地点)	千波町字中道南 1502-8	5月14日	個人住宅建築	11.75	新田清貴	—	—
61	草間遺跡 (第2地点)	三國町字竜間 1108-424	4月24日	個人住宅建築	2.0	新田清貴	—	—
62	若林遺跡 (第2地点)	見川5丁目 1232, 1233	4月9日～4月10日	共同住宅建築	87.0	新田清貴、木本孝則	—	○
63	渡里町遺跡 (第4地点)	渡里町 2373-3	11月13日, 12月10日	個人住宅建築	17.0	新田清貴	○	○
64	渡里町遺跡 (第7地点)	渡里町字八幡前 2598-4	3月24日	個人住宅建築	2.0	川口武彦	—	○

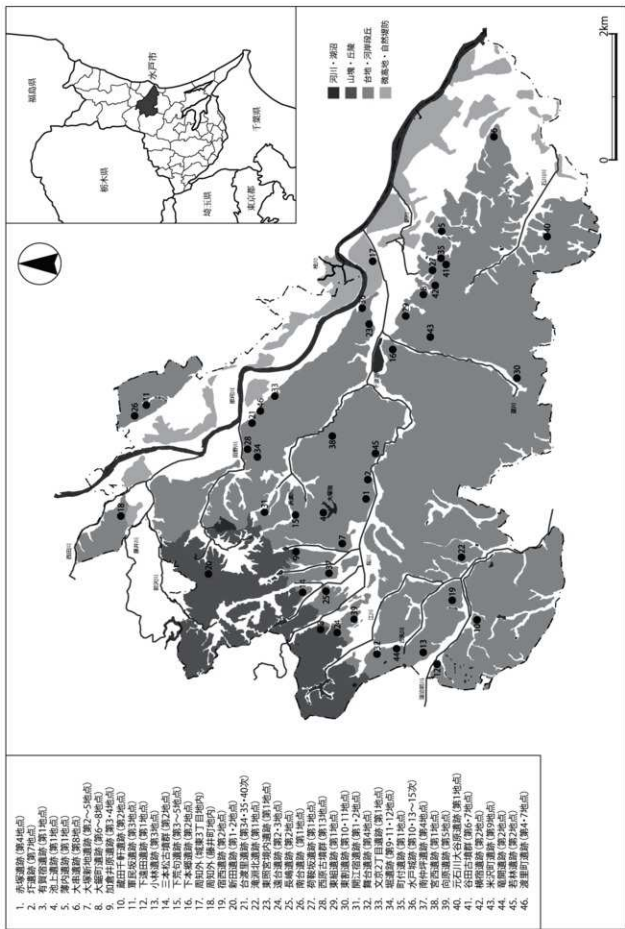
※ 遺物欄の○は遺構確認面や遺構履上中からの出土遺物、△は表土・掘乱層中からの出土遺物を示す。

第2表 個人住宅建築に伴う本発掘調査一覧

No	遺跡名	調査地	調査期間	調査面積 (㎡)	調査担当者	遺構	遺物
1	台渡里遺跡 (第34次)	渡里渡里町字宿屋敷 3028-8	4月6日～6月 18日	176.0	川口武彦、藤実賢 吉、木本孝則	掘穴住居跡2(古後1、奈・平 1)、土坑1(奈・平)、掘立柱 建物跡1(奈・平)、時期不明 土坑多数	土師器、須恵器、鉄鏝(無頭鬚柱五角 形鏝)
2	大甲遺跡 (第8地点)	塩崎町字原 1077-3	5月21日～ 5月25日	5.0	川口武彦	掘穴住居跡1(古前)	縄文土器、土師器、軽石
3	大瀬町遺跡 (第7地点)	元吉田町 2350-2	1月31日～ 2月22日	89.25	堀口慶久、新田清 貴	溝跡2、土坑6、ピット36	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器 (奈良・平安)、青磁、鉄釘、不明鉄製 品、鉄滓

第3表 開発に伴う工事立会調査一覧

No	遺跡名	調査地	調査期間	調査原因	調査面積 (㎡)	調査担当者	遺物
1	周知外(城東3 丁目地内)	城東3丁目 177-1, 177-4, 178 1, 179	4月28日	宅地造成工事	176.0	堀口慶久	陶磁器(近世・近代)
2	水戸堀跡 (第14次)	三の丸 2-1-315	12月14日 1月18日	建物解体工事	—	堀口慶久	陶磁器(近世・近代)
3	水戸堀跡 (第15次)	三の丸 1-6-29(旧弘道館)	2月13日	排水管改修工 事	—	堀口慶久	陶磁器(近世・近代)、瓦(近世・近代)



第1図 調査対象となった遺跡の位置



7号遺跡 (第7地点)



有賀宿遺跡 (第1地点)



池上遺跡 (第1地点)



大塚新地遺跡 (第3・4地点)

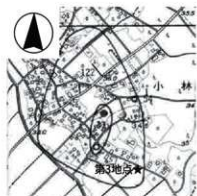


加倉井原遺跡 (第3地点)



下達田遺跡 (第1地点)

第2図 遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置 (1)



小林遺跡 (第3地点)



下本郷遺跡 (第2地点)



宿西遺跡 (第2地点)



新田遺跡 (第2地点)



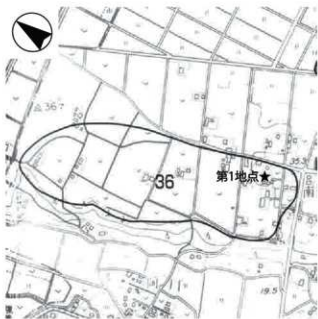
遠台遺跡 (第2・3地点)



湯淵北遺跡 (第1地点)



文京2丁目遺跡 (第1地点)

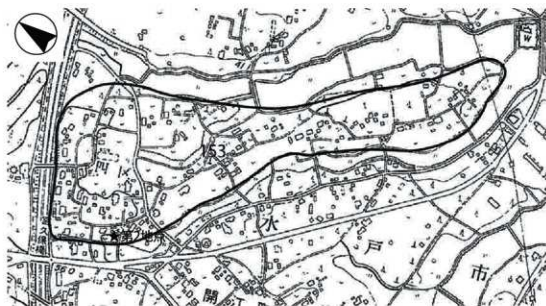


南台遺跡 (第1地点)

第3図 遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置 (2)



東割遺跡 (第10・11地点)



開江宿遺跡 (第2地点)

第4図 遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置 (3)



南仲坪遺跡 (第4地点)



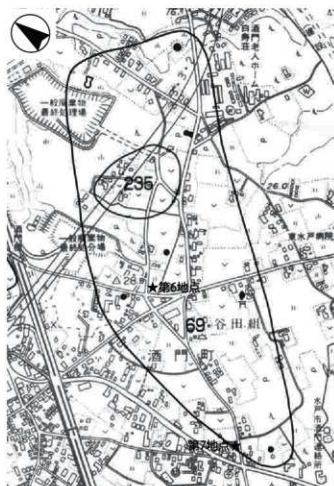
宮西遺跡 (第1地点)



向原遺跡 (第5地点)



横宿遺跡 (第2地点)



谷田古墳群 (第6・7地点)

第5図 遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置 (4)



米沢町遺跡 (第9地点)



三本松古墳群 (第2地点)



電開遺跡 (第2地点)



下荒匂遺跡 (第3地点)

第6図 遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置 (5)

第2章 開発に伴う試掘調査

試掘調査は、周知の遺跡の範囲内において実施するが、範囲外であっても現地踏査の結果、遺物が採集される場合、地形等から遺跡の存在が予測される場合、開発面積が広大である場合には、周知の範囲外においても試掘調査を実施した。

試掘調査は、開発予定地内に数㎡の大きさのトレンチ（試掘溝）を設定し、重機（バックホウ）および人力により、関東ローム層上面まで掘削し、遺構・遺物の有無について確認した。遺構が否かの判断が困難な場合には、サブトレンチ等を設定し、精査により遺構の確認を行った。また、遺跡の時期や遺構の正確を判断するために、サブトレンチを設定し、部分的に掘り下げた場合もある。

遺物は表面採集遺物、トレンチ一括遺物、遺構確認面一括遺物、遺構出土遺物に区分し、取り上げを行った。

2-1 赤塚遺跡（第4地点）

所在地 水戸市河和田3丁目2542-1外
開発面積 248.0㎡
調査期間 平成19年12月18日～12月19日（1次）
平成20年1月15日～1月16日（2次）
調査原因 宅地造成工事
調査担当 川口武彦・新垣清貴

調査概要 開発対象地は原因者の所有地である山林と原因者が水戸市公園緑地課と公園としての利用契約を締結している所有地であり、後者については、試掘調査に際して公園緑地課による公園占有許可が必要となることから、調査を2次に分けて最初に山林部分を調査し、年明けに公園部分を調査することにした。第1次調査では西側の山林部分にトレンチを9箇所設定し、第2次調査では東側の公園内にトレンチ8箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第8図）。

（1）第1次調査のトレンチ

トレンチ1 17m×1.5m。地表下50cm前後で関東ローム層上面が検出され、古墳時代中期と考えられる竪穴住居跡1軒、時期不詳の土坑1基、近世以降の溝跡が1条確認された。遺物は竪穴住居跡の覆土上面から土器が多数出土した。

トレンチ2 10m×1.5m。地表下20cmで関東ローム層上面が検出され、古墳時代中期と考えられる竪穴住居跡が1軒確認された。本来の以降確認面からは40cm以上の削平を受けているとみられる。遺構確認面から土器が多数出土した。

トレンチ3 7m×1m。地表下40cmで関東ローム層上面が検出され、トレンチ2において確認された竪穴住居跡の延長部分が確認された。トレンチ2に比べて遺構覆土の遺存状況は良好である。

トレンチ4 9m×1m。地表下50cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ5 6m×1m。地表下50cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構は確認されなかった。表土中より、縄文土器片、古墳時代の土器片が出土した。

トレンチ6 18m×1.5m。地表下50cmで関東ローム層上面が検出された。時期不詳の溝跡と古墳時代中期の竪穴住居跡1軒が確認された。竪穴住居跡の覆土上面より土器が多数出土した。

トレンチ7 8m×2m。地表下50cmで関東ローム層上面が検出された。縄文時代中期の土坑群が無数に切り合った状況で確認され、関東ローム層はほとんど残存していない状況であった。覆土上面から縄文時代中期の土器片とともに先土器時代の剥片が出土した。

トレンチ8 6m×1.5m。地表下20cmで関東ローム層が検出されたが、遺構・遺物は確認されなかった。既にハー



第7図 赤塚遺跡（第4地点）の位置



第8図 赤塚遺跡（第4地点）のトレンチ配置

ドローム層まで削平を受けている。

トレンチ9 8m × 1m。地表下20cmで関東ローム層が検出されたが、遺構・遺物は確認されなかった。既にハードローム層まで削平を受けている。

(2) 第2次調査のトレンチ

トレンチ10 6m × 1.5m。地表下110cmで関東ローム層上面が検出されたが、湧水が著しく遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ11 7m × 1.5m。地表下110cmで関東ローム層上面が検出されたが、湧水が著しく遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ12 7m × 1.5m。地表下110cmで関東ローム層上面が検出されたが、湧水が著しく遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ13 10m × 1.5m。地表下110cmで関東ローム層上面が検出されたが、湧水が著しく遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ14 4m × 1.5m。地表下110cmで関東ローム層上面が検出されたが、湧水が著しく遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ15 3m × 1m。地表下110cmで関東ローム層上面が検出されたが、湧水が著しく遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ16 10m × 2m。本トレンチは、地表面に時期や性格不明の土塁状の高まりと堀状の窪みが認められる

ことから、その性格を解明するためにこの土塁状の高まりと堀状の窪みに直交する形で設定した。調査の結果、地表下40cmで関東ローム層上面が検出された。また、この土塁状の高まりと堀状の窪みについては、大規模な切り土ではないが、僅かに台地縁を削り、人工的に地形を改変していることが窺えた。周辺では湧水が見られることも考慮し、中世の城館跡に関連する堀と考えるよりも、水路のような性格を持っていると考えたい。堀状の窪みの底面からは19世紀代に比定できる陶磁器片が数点出土した。



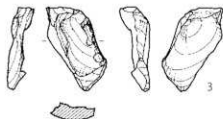
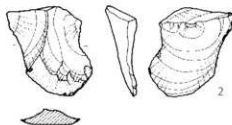
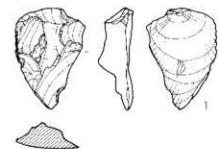
写真1 トレンチ7縄文時代土坑群（北から）



写真2 トレンチ6竪穴住居跡（西から）



写真3 トレンチ6東端溝跡（南から）

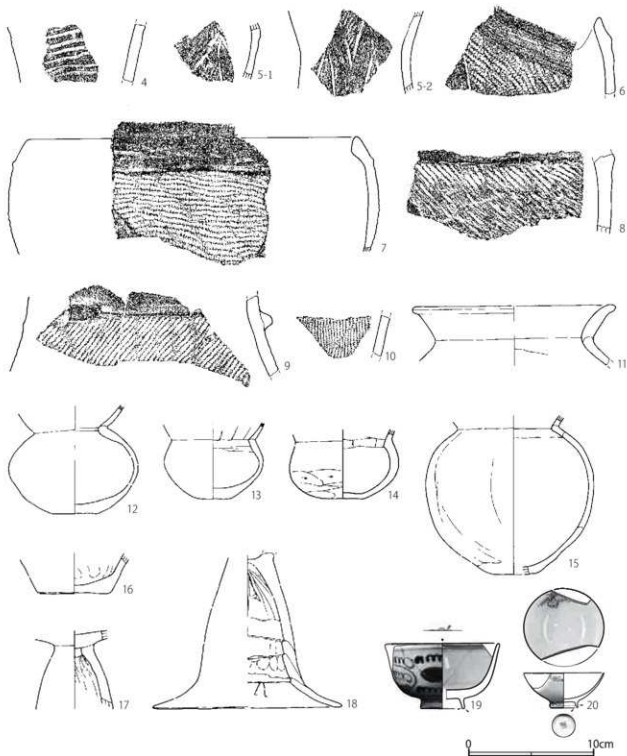


第9図 赤塚遺跡(第4地点)出土遺物(1)

トレンチ 17 21m × 1m。本トレンチもトレンチ 16 と同様、地表面に時期や性格不明の土塁状の高まりが認められることからその性格解明のために土塁状の高まりに直交する形でトレンチを設定した。地表下 100cm で関東ローム層上面が検出され、自然地形が緩やかに傾斜する状況であることが確認された。(川口・新垣)

(3) 出土遺物

1～3は先土器時代のもとのみられる剥片である。いずれもトレンチ 7 の縄文時代の土坑群の確認面から出土したものである。本来はローム層中に含まれていたものが、縄文時代の土坑群の掘削に伴い、原位置を失ったもの



第 10 図 赤塚遺跡(第 4 地点)出土遺物(2)

とみられる。1は剥片である。背面には複数の切り合う剥離面がみられ、その切り合い関係から反時計回りの方向に打面を90°転位させていく過程で生じた剥片とみられる。左側縁には微細な剥離痕がみられるが、人為的なものか、新規破損によるものかは判別できない。打面は複数の剥離面が切り合う切り打面である。2も剥片である。背面下半部に自然面が残されており、相互に切り合う2枚の大きな剥離面が観察される。その切り合い関係から、時計回りの方向に打面を90°転位させていく過程で生じた剥片とみられる。打面は一枚の剥離面から構成される単剥離面打面である。3は折断剥片である。左側面には腹面側から背面側に向かう折断面がみられ、背面には複数の相互に切り合う剥離面がみられるが、器体の下半部が折断により失われているため、剥片剥離過程の復原は困難である。打面は一枚の剥離面から構成される単剥離面打面である。1～3いずれも石材には硬質頁岩が利用されているが、1と2が艶のないチョコレート色をしていることから、同一母岩の可能性のあるのに対し、3は艶のある灰色の硬質頁岩であり、別の母岩とみられる。この他にもう1点頁岩製の折断剥片があるが、小片であるため、図化は見送った。(川口)

4～10は縄文土器である。4は深鉢形土器で、底部付近の破片である。半截竹管状工具の外側を器壁に当て、押しながら器内を削り取るようにして、太沈線文が施されている。5は小型の深鉢形土器である。口縁部付近は隆起線文、胴部は沈線文で鋸歯状文が施文され、区画内には単節斜縄文RLが充填されている。6～8は深鉢形土器あるいは鉢形土器である。6は波状口縁を呈し、文様が隆起線文と沈線文により区画されている。7・8は文様が隆起線文により区画されている。9は両耳甕形土器と考えられる。10は単節斜縄文RLが斜位に施文されている。4は早期中葉「田戸下層式」、5～9は中期後葉「加曾利E4式」、10は「加曾利E5式」に相当する。

11～18は土師器である。11は甕形土器、12は埴形土器、13・14は小型の甕形土器、15は甕形土器、17・18は高環形土器である。時期は古墳時代中期前半に位置付けられる。

19は磁器の碗で、丸碗Xである。推定生産地は在地産、推定年代は19世紀以降とみられる。20は磁器の小環で、薄手酒環である。推定生産地は瀬戸・美濃、推定年代は19世紀以降とみられる。(色川)

(4) 確認された埋蔵文化財の取扱い

以上が調査の概要である。最終的な調査面積は合計177.0㎡であった。

調査の結果、進入道路敷設予定部分で先土器時代・縄文時代・古墳時代の遺構・遺物が多数確認され、茨城県埋蔵文化財発掘調査等取扱基準に照らし合わせた結果、本件は原則Ⅲの(1)道路建設(改良工事を含む)に該当することから、進入道路部分については記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。(川口・新垣)

2-2 薄内遺跡(第1地点)

所在地 水戸市六反田町字薄内861-2番地

開発面積 36.0㎡

調査期間 平成19年9月27日

調査原因 通信基地局建設

調査担当 新垣清貴

調査概要 開発対象地のうち、鉄塔建設予定部分に2本のトレンチを設定し(第12図)、重機により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの詳細

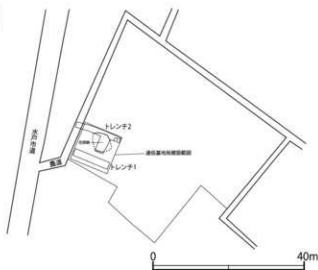
トレンチ1 8m×1.5m。地表下30cmで関東ローム層上面が検出され、耕作土より奈良・平安時代以降の土師器・須恵器片が出土したが、遺構は確認されなかった。

トレンチ2 当初は12m×1.5mのトレンチであったが、遺構が確認され、その規模を把握するためにT字状に交差する形新たに3m×2mの拡張を行った。地表下30cmで関東ローム層



第11図 薄内遺跡(第1地点)の位置

上面が検出され、弥生時代後期から古墳時代前期初頭頃の土器を包含する住居跡とみられる遺構が確認された。平面形は小判形で、南北方向に4mの大きさを測る。東西方向はトレンチの外に広がっているため、詳細な大きさは不明であるが、3m程度とみられる遺構の詳細確認のため、サブトレンチを20cm幅で設定し、部分的に掘削を行ったところ、弥生時代後期の土器片のほか、古墳時代前期初頭とみられる土師器片も出土した。遺構確認面から床面までの深さは30cmほどである。床面には顕著な硬化面は認められなかった。耕作土より奈良・平安時代以降の土師器・須恵器片が出土したが、遺構は確認されなかった。



第12図 薄内遺跡（第1地点）のトレンチ配置

(2) 確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構が確認されたため、事業者と保存について協議を重ねたが、鉄塔の設置箇所は変更できないうえに30cm以上の保護層の確保も困難であるとの結論に達したことから、記録保存による本発掘調査が相当であるとした。

その後、平成20年1月10日～1月26日の期間に毛野考古学研究所による本発掘調査が行われ、試掘調査で確認されていた竪穴住居跡のほかに古墳時代後期の竪穴住居跡1軒、土坑2基、ピット2基が確認された。遺物は先土器時代の剥片、縄文時代前・中期の土器・剥片、弥生時代前・中期・後期の土器・アメリカ式石畿、古墳時代前・後期の土師器が出土した（日沖・石丸・川口・色川・新垣・渥美 2008）。なお、試掘調査で出土した遺物については本発掘調査の出土遺物と接合する可能性が高いため、本発掘調査の報告書に収録した。（新垣・川口）

2-3 大串遺跡（第8地点）

所在地 水戸市塩崎町字原 1077-3 番地
 開発面積 33.15 ㎡
 調査期間 平成 19 年 4 月 27 日
 調査原因 個人住宅建築
 調査担当 川口武彦
 調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分および浄化槽埋設部分に2本のトレンチを設定し（第14図）、重機により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの詳細

トレンチ1 9.5m×1.9m。地表下50～70cmで関東ローム層上面が検出され、奈良・平安時代の掘立柱建物跡を構成するとみられる柱穴4基と時期不明のピット10基が確認された（第15図・写真4・5）。掘立柱建物跡については、トレンチ1の東方に延びており、桁行は4間以上と推定されるが、トレンチ2では柱穴が一切確認されていないことから、梁行2間程度とみられる。現状では4×2間程度の建物として理



第13図 大串遺跡（第8地点）の位置



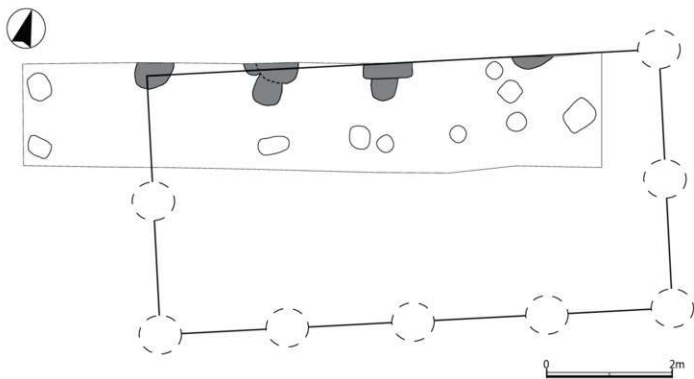
第14図 大串遺跡（第8地点）のトレンチ配置



写真4 トレンチ1 遺構検出状況（西から）



写真5 トレンチ1 遺構検出状況（東から）



第15図 大串遺跡（第8地点）トレンチ1 遺構検出状況

解しておく。柱間は桁行・梁行ともに2.1m（7尺）。遺物は出土していない。

トレンチ2 5.05m × 2m。地表下50～70cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構・遺物ともに確認されなかった（写真6）。

トレンチ3 2.5m × 2m。地表下60cmで竪穴住居跡とみられるプランが1基確認された。遺構確認面からは刷毛目を持つ土師器片が出土していることから、古墳時代前期末の竪穴住居跡とみられる。当遺跡ではこれまで7地点において発掘調査が行われており、古墳時代前期末の竪穴住居跡は17軒確認されている。本住居跡もその集落の一部を構成するものであろう。

（2）確認された埋蔵文化財の取扱い

申請建物部分および浄化槽埋設部分より遺構が確認されたため、事業者と保存について協議を重ねた。その結果、申請建物部分については30cm以上の保護層を確保できるが、浄化槽の埋設箇所の変更は困難であるとの結論に達したことから、浄化槽の埋設箇所から確認された古墳時代前期末の竪穴住居跡を対象とした記録保存による本発掘調査が相当であるとした。

その後、平成19年5月21日～25日に浄化槽埋設部分で確認された竪穴住居跡を対象とした記録保存の本発掘調査を実施した。調査の詳細は本書「3-1 大串遺跡（第8地点）」を参照願いたい。（川口）



第16図 大塚新地遺跡（第2・5地点）の位置

2-4 大塚新地遺跡（第2地点）

所在地 水戸市大塚町544-6番地

開発面積 289.0㎡

調査期間 平成19年4月19日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 新垣清貴

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分および浄化槽

埋設部分に3本のトレンチを設定し（第17図）、重機により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。

トレンチ1 2.5m × 1.5m。地表下20cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構は確認されなかった。遺物は現表土より古墳時代前期の土師器片が数点出土した。

トレンチ2 6m × 1.5m。地表下20cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構は確認されなかった。遺物は現表土より土師器片が数点出土した。

トレンチ3 8m × 1.5mで当初設定したが、遺構の有無をさらに確認するため、3.6m × 1mの拡張を行った。地表下20cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構は確認されなかった。遺物は現表土より土師器片が数点出土した。

（2）確認された埋蔵文化財の取扱い

遺物は現表土より数点出土したものの、遺構は確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。（新垣）



第17図 大塚新地遺跡（第2地点）のトレンチ配置

2-5 大塚新地遺跡（第5地点）

所在地 水戸市大塚町 544-1 番地

開発面積 529.13 m²

調査期間 平成 19 年 6 月 20 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 新垣清貴

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分および浄化槽埋設部分に 2 本のトレンチを設定し（第 18 図）、重機により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。

（1）トレンチの概要

トレンチ 1 2m × 1m。地表下 90 ～ 100cm で関東ローム層上面が検出されたが、遺構・遺物ともに確認されなかった。

トレンチ 2 4m × 1.5m。地表下 90 ～ 100cm で関東ローム層上面が検出されたが、トレンチャーによる攪乱が著しく、遺構は確認されなかった。遺物は攪乱層より須恵器の有台坏片が 1 点出土した。

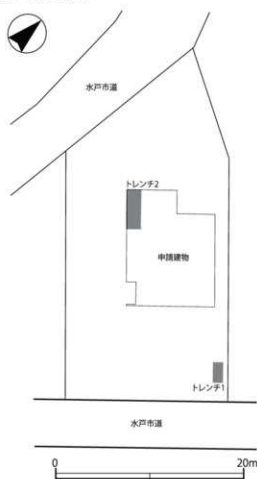
（2）出土遺物

1 は須恵器有台坏である。時期は 9 世紀前葉に位置付けられる。（色川）

（3）確認された埋蔵文化財の取扱い

遺物は攪乱層より 1 点出土したものの、遺構は確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。

（新垣） 第 18 図 大塚新地遺跡（第 5 地点）のトレンチ配置



第 19 図 大塚新地遺跡（第 5 地点）出土遺物

2-6 大鋸町遺跡 (第6地点)

所在地 水戸市元吉田町 2338-1 番地
開発面積 790 m²
調査期間 平成 19 年 10 月 2 日～10 月 3 日
調査原因 宅地造成工事
調査担当 新垣清貴
調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分および進入道路部

分に 5 本のトレンチを設定し (第 21 図)、重機により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要

トレンチ 1 29m × 1.5m。地表下 50cm で関東ローム層上面が検出された。弥生時代のもものとみられる竪穴住居跡 1 軒、古墳時代あるいは奈良・平安時代のもものとみられる竪穴住居跡 2 軒、溝跡 1 条が検出された。溝跡については、遺構の性格および構築時期・埋没時期を把握するためにサブトレンチを設定し、重機を用いて掘削した。その結果、溝跡は深さ 2.5m、上面幅 5.5m 以上を呈することが確認された。覆土中からは中世の常滑焼の瓶とみられる破片が出土したことから中世の堀跡とみられる。また、溝跡以外の遺構からも覆土上面より遺物が多数検出されている。

トレンチ 2 28m × 1.5m。地表下 50cm で関東ローム層上面が検出された。奈良・平安時代のもものとみられる竪穴住居跡 1 軒、時期不明の土坑 2 基が検出された。また、トレンチ 1 で確認された中世以降の堀跡の延長部分が確認された。各遺構からは多数の遺物が出土した。

トレンチ 3 31m × 1.5m。地表下 50cm で関東ローム層上面が検出された。奈良・平安時代のもものとみられる竪穴住居跡 1 軒、時期不明のピット 1 基が検出された。トレンチ最東端では、トレンチ 1・2 で確認された中世以降の堀跡の延長部分が確認された。各遺構からは多数の遺物が出土した。

トレンチ 4 10m × 2m。地表下 50cm で関東ローム層上面が検出されたが、現代の攪乱が著しく、遺構・遺物ともに確認されなかった。

トレンチ 5 10m × 2m。地表下 50cm で関東ローム層上面が検出された。奈良・平安時代のもものとみられる竪穴住居跡 1 軒、トレンチ 1～3 で確認された中世以降の堀跡の延長部分が確認された。各遺構からは多数の遺物が出土した。

(2) 出土遺物

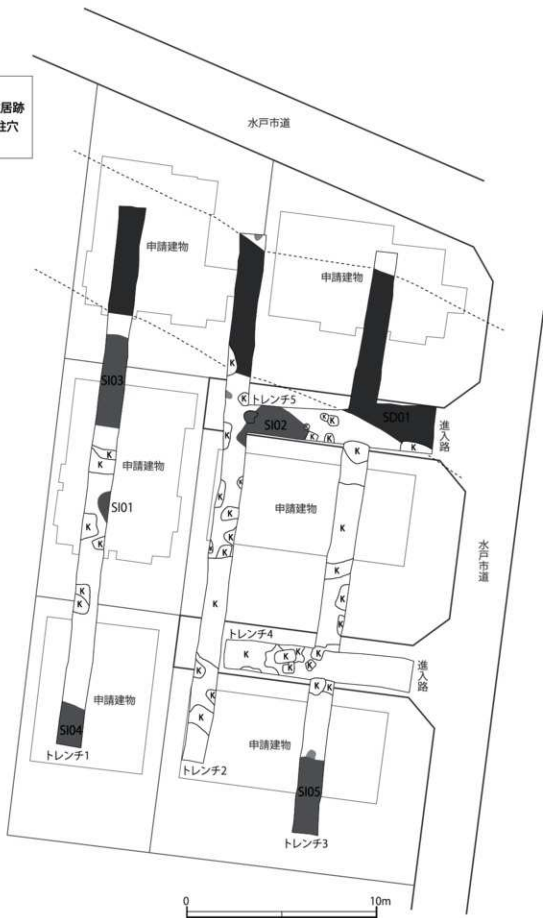
1～8は、遺構確認面において第 1 号住居跡 (S101) の範囲内から検出されたものである。住居跡覆土の遺物として捉えられるものであろう。1は複合口縁を呈し、複合部は無文、3段である。複合部下端に棒状工具による刺突文が施されている。口唇部には棒状工具による刻みが施され、頸部は付加条第 2 種 (LR × R) による縄文が施文されている。2は口縁部に付加条第 1 種付加 2 条 (LR + 2R) による縄文を施文し、その下端に縄文原体による刺突文が列状に施されている。頸部は下向きの連弧文が施文されている。櫛歯状工具の歯数は 6 本。刻みのある貼付文が 2 個 1 組で施されている。3～8は胴部の破片である。3～5は付加条第 2 種による羽状縄文が施されている。6は付加条第 1 種付加 2 条、7は付加条第 1 種付加 1 条、8は R を Z 巻きした原体 (軸不明) による縄文が施されている。

1は「東中根式」、2は所謂「二軒屋式」である。2は、鈴木正博氏による所謂「二軒屋式」の「Ⅱ段階」に相当する。貼付文がみられることを指標にすれば、同じ「Ⅱ段階」とされる兼王院東遺跡 (井上 1990) よりも新しいと考えられる。第 1 号住居跡出土の土器群は、羽状縄文の破片が存在することから、「東中根式」の「東中根清水」(鈴木 (正) 1982) に相当すると推定され、「十王台式」が成立する前段階に位置付けられる。

9～13は遺構外出土の弥生土器である。9は単純口縁を呈し、口縁部には付加条第 1 種付加 2 条 (RL + 2L・LR + 2R) による羽状縄文、帯状に施文された各縄文の下端には縄文原体による刺突文が列状に施されている。口唇部

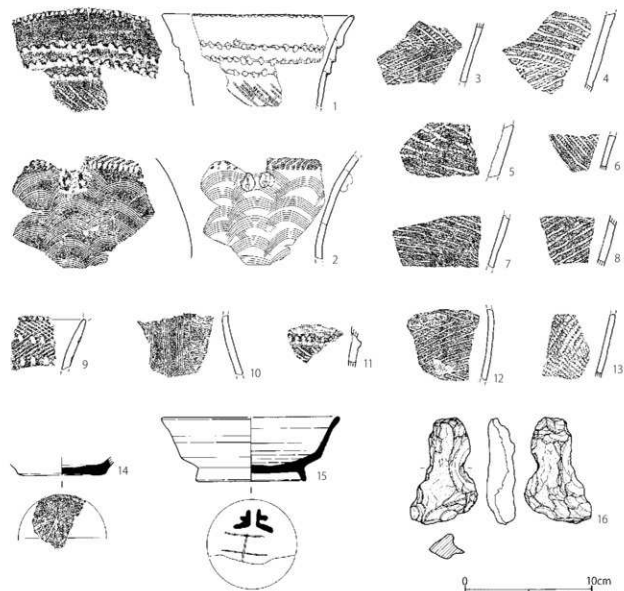


第 20 図 大鋸町遺跡 (第 6 地点) の位置



第 21 図 大鋸町遺跡 (第 6 地点) のトレンチ配置

は縄文原体による刻みが施文されている。10は縦位区画が3条を単位とする。横位区画は直状文と波状文。櫛歯状工具の歯数は4本。11は胴部の破片である。縄文原体による刻みが施された隆帯が2条以上巡り、以下にLを



第22図 大鋸町遺跡(第6地点)出土遺物



写真6 トレンチ1第1号住居跡検出状況(北から) 写真7 トレンチ1第1号溝跡検出状況(北から)



写真8 トレンチ3第5号住居跡検出状況(南から) 写真9 トレンチ5第2号住居跡検出状況(西から)

S巻きたる原体(軸不明)による縄文が施文されている。

9は所謂「二軒屋式」、10・11は「十王台式」、12・13は弥生時代後期中葉から後葉に位置付けられる。10は横位区画が波状文と直状文という属性の組合せから、「大畑類型」(鈴木(素)2002)に属する。「大畑類型」は、「十王台式」の成立期の土器群である「薬王院式」以後、「武田式」以前に位置付けられている。

14は須恵器無台坏である。時期は9世紀に位置付けられる。15は須恵器有台坏である。底面に墨書「北」とヘラ記号がみられる。遺構確認面において第2号住居跡(S102)の範囲内から検出されたもので、住居跡覆土の遺物として捉えられるものであろう。時期は9世紀前葉に位置付けられる。16は縄文時代の打製石斧である。表裏両面に自然面が残されていることから、素材には礫が利用されていることが読み取れる。二次加工は周囲から中心に向かって施されており、器体の中央部には着柄に係わる抉りが作り出されている。(色川・川口)

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い

多数の遺構・遺物が確認されたことから、事業者と保存について協議を重ねたが、宅地部分については盛土を行い30cm以上の保護層を確保できるが、進入道路部分については茨城県埋蔵文化財発掘調査等取扱基準に照らし合わせると、原則Ⅲの(1)道路建設(改良工事を含む)に該当することから、進入道路部分については記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。(新垣)

2-7 大鋸町遺跡(第7地点)

所在地 水戸市元吉田町2350-2番地
 開発面積 240㎡
 調査期間 平成19年11月19日
 調査原因 個人住宅建築
 調査担当 新垣清貴
 調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分にトレンチを

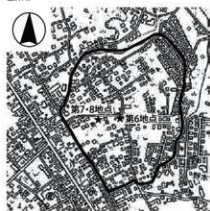
1本設定し(第24図)、重機により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの詳細

トレンチ1 14.8m×1.5m。地下50cmで関東ローム層上面が検出され、第6地点の調査で確認された中世の溝跡の延長部分が検出された(第24図)。表土および溝跡の覆土上面からは多数の遺物が出土した。

(2) 確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構・遺物が確認されたことから、事業者と保存について協議を重ねたが、申請建物については地帯力が弱く、



第23図 大鋸町遺跡(第7・8地点)の位置

パイル工法を採用せざるを得ないとの結論に達したことから、中世の溝跡を対象とした記録保存による本発掘調査が相当であるとした。

その後、平成20年1月31日～2月22日に浄化槽埋設部分で確認された中世の溝跡を対象とした記録保存の本発掘調査を実施した。調査の詳細は本書「3-2 大鋸町遺跡（第7地点）」を参照願いたい。（新垣）

2-8 大鋸町遺跡（第8地点）

所在地 水戸市元吉田町 2349-1, 2350-1, 2351 番地

開発面積 1,651.57 m²

調査期間 平成20年2月25日～2月26日

調査原因 宅地造成工事

調査担当 関口慶久・新垣清貴

調査概要 開発対象地は第7地点に隣接しており、第7地点の調査で確認された中世の堀跡が延長していることは明白であった。ただし、溝跡の南側の遺構展開状況については未知であったため、この度の試掘調査では、溝跡の延長部分およびその南側における埋蔵文化財の有無の確認を目的として実施した。トレンチは道路部分にトレンチを2本（トレンチ1・2）、3区画の分譲予定地について1区画毎に3m×3mのトレンチを3本（トレンチ3～5）設定し（第25図）、重機により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。

（1）トレンチの詳細

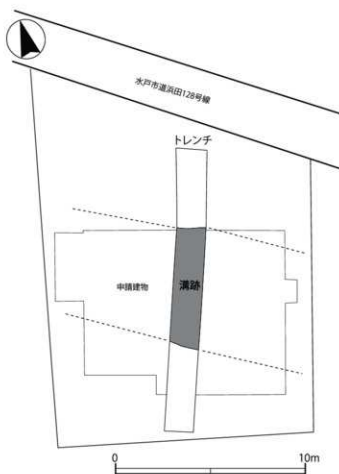
トレンチ1 7.4m×1m。地表下30～40cmで関東ローム層上面が検出され、8世紀後半の竪穴住居跡および9世紀初頭の竪穴住居跡、中世末～近世初頭の大型土坑、時期不明の土坑1基およびピット7基が検出された（第25図）。遺構確認面からは奈良・平安時代のもともみられる土師器・須恵器が出土した。

トレンチ2 41.2m×2m。地表下40cmで関東ローム層上面が検出され、中世の堀跡が2条確認された。南側の溝跡が第7地点の本発掘調査で検出された1号遺構、北側の溝跡が第7地点の本発掘調査で検出された2号遺構に対応するものとみられる（第25図）。遺構確認面からは奈良・平安時代のもともみられる土師器・須恵器が出土した。

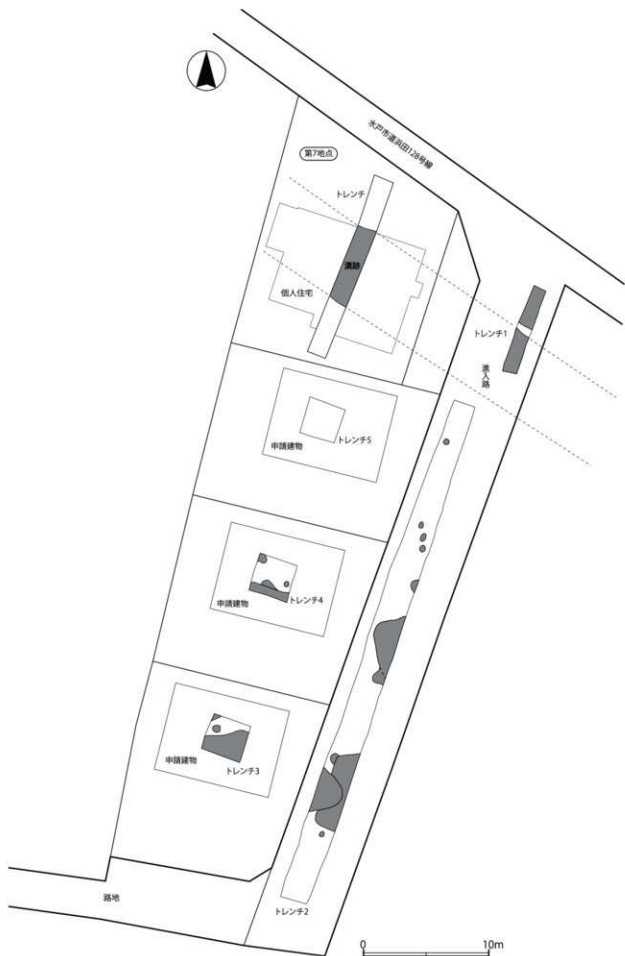
トレンチ3 3m×3m。地表下50cmで関東ローム層上面が検出され、奈良・平安時代の竪穴住居跡2軒、時期不明のピット1基が検出された（第25図）。遺構確認面からは奈良・平安時代のもともみられる土師器・須恵器が出土した。

トレンチ4 3m×3m。地表下40cmで関東ローム層上面が検出され、奈良・平安時代の土坑3基およびピット1基が検出された（第25図）。南側の土坑についてはボーリングステッキによる探査の結果、深さが80cmに達することが判明している。遺構確認面からは奈良・平安時代のもともみられる土師器・須恵器が出土した。

トレンチ5 3m×3m。地表下40cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構・遺物は確認されなかった（第25図）。



第24図 大鋸町遺跡（第7地点）のトレンチ配置



第 25 図 大鋸町遺跡（第 8 地点）のトレンチ配置



写真 10 トレンチ 1 遺構検出状況（南から）



写真 11 トレンチ 2 溝跡検出状況（南から）



写真 12 トレンチ 3 遺構検出状況（南から）



写真 13 トレンチ 4 遺構検出状況（西から）

（2）確認された埋蔵文化財の取扱い

多数の遺構・遺物が確認されたことから、事業者と保存について協議を重ねたが、宅地部分については盛土を行い30cm以上の保護層を確保できるが、道路部分については茨城県埋蔵文化財発掘調査等取扱基準に照らし合わせると、原則Ⅲの（1）道路建設（改良工事を含む）に該当することから、道路部分については記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。

その後、平成20年6月23日～7月19日の期間に毛野考古学研究所による本発掘調査が行われ、試掘調査で確認されていた竪穴住居跡や溝跡、土坑のほかに溝跡が3条、竪穴住居跡2軒、掘立柱建物跡1棟、井戸跡1基等が新たに検出され、奈良・平安時代の土師器・須恵器・鉄製鎌・鉄製刀子・鉄鏃・土製紡錘車、中世陶器・北宋銭、近世陶磁器・キセル等が出土した。なお、試掘調査で出土した遺物については、本発掘調査の出土遺物と接合する可能性が高いため、本発掘調査の報告書（石丸・瀧美 2009）に収録した。（関口）

2-9 加倉井原遺跡（第4地点）

所在地 水戸市加倉井町 1319-1 番地

開発面積 424 m²

調査期間 平成19年11月27日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 新垣清貴

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分に2本のトレンチを設定し（第27図）、人力により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。



第 26 図 加倉井原遺跡（第 4 地点）の位置

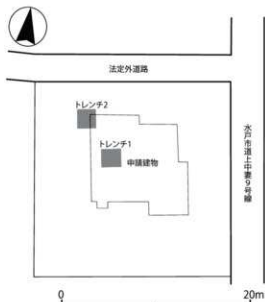
(1) トレンチの概要

トレンチ 1 2m × 2m。地表下 50cm 前後で関東ローム層上面が検出され、表土中から奈良・平安時代の土師器片、須恵器片が出土したが、遺構は確認されなかった。

トレンチ 2 2m × 2m。地表下 50cm 前後で関東ローム層上面が検出され、表土中から奈良・平安時代の土師器片、須恵器片が出土したが、遺構は確認されなかった。

(2) 確認された埋蔵文化財の取扱い

遺物は表土層より奈良・平安時代の土師器片や須恵器が少量出土したものの、遺構は確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。(新垣)



第 27 図 加倉井原遺跡（第 4 地点）のトレンチ配置

2-10 蔵田千軒遺跡（第 2 地点）

所在地 水戸市鯉淵町字九ノ割 6002-2 番地

開発面積 488.73 m²

調査期間 平成 19 年 9 月 21 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 新垣清貴

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分および浄化槽埋設部分に 2 本のトレンチを設定し（第 29 図）、重機により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。

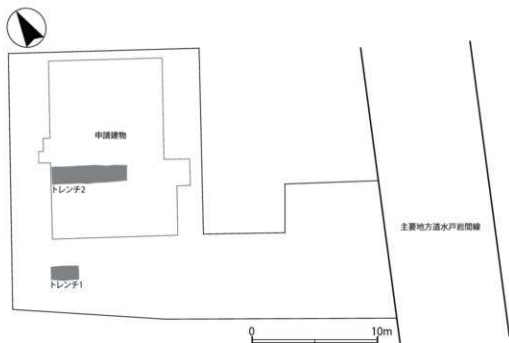
(1) トレンチの概要

トレンチ 1 2.25m × 1.2m。地表下 70cm 前後で関東ローム層上面が検出されるとともにピット 1 基が検出された（第 30 図）。遺構の性格および時期を把握するため、トレンチ内の遺構部分を掘削した結果、遺構覆土から奈良・平安時代の土師器片、須恵器片が出土したことから、奈良・平安時代のピットであることが判明した。

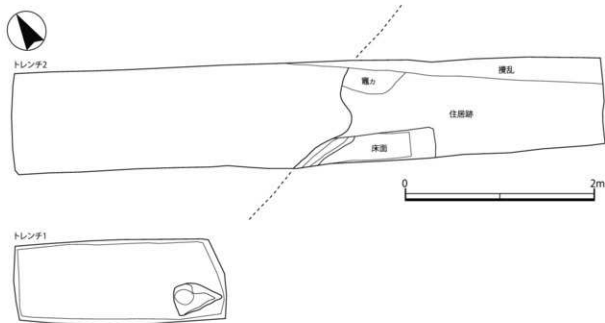
トレンチ 2 6.25m × 1.4m。地表下 70cm 前後で関東ローム層上面が検出され、竪穴住居跡とみられるプランが 1 箇所確認された（第 30 図）。遺構の性格および時期を把握するため、トレンチ内の遺構部分を掘削した結果、遺構覆土から奈良・平安時代の土師器片、須恵器片が出土したことから、奈良・平安時代の竪穴住居跡であることが判明した。



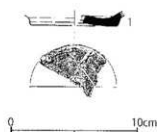
第 28 図 蔵田千軒遺跡（第 2 地点）の位置



第 29 図 蔵田千軒遺跡（第 2 地点）のトレンチ配置



第 30 図 蔵田千軒遺跡（第 2 地点）のトレンチ内遺構検出状況



第 31 図 蔵田千軒遺跡（第 2 地点）出土遺物

(2) 出土遺物

1 は須恵器無台坏である。底面にヘラ記号がみられる。時期は 9 世紀前葉に位置付けられる。(色川)

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構・遺物が確認されたが、浄化槽埋設部分で確認されたピットについては記録の作成が完了したこと、申請建物部分については 30cm 以上の保護層が確保できることから、慎重工事が相当であるとした。(新垣)

2-11 軍民坂遺跡（第3地点）

所在地 水戸市上国井町字南台3667-1番地
 開発面積 220㎡
 調査期間 平成20年1月17日～1月18日
 調査原因 個人住宅建築
 調査担当 新垣清貴
 調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分に2

本のトレンチを設定し（第33図）、人力により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 2m×2m。地表下55cmで須恵器の大表片等を多量に包含する黒色土が確認された。関東ローム層上面はその30cm下の地表下80cmの深さより検出され、複数のピットが重複して切り合うピット群が確認された（第34図）。

トレンチ2 2m×1m。地表下80cm前後で関東ローム層上面が検出され、時期不詳のピット1基が確認された。

(2) 出土遺物

1は縄文土器の口縁破片である。単節斜縄文RLを施文後、沈線文が施されている。時期は中期後葉「加曾利E3・4式」に位置付けられる。2～4は須恵器有台坏である。2は底面に墨書「河厨」とヘラ記号がみられる。5は須恵器有台盤である。6は須恵器甕で、平底である。蔵骨器の可能性があり、甕（6）の本体に有台盤（5）で蓋をする構成が考えられる。2～6は、出土状況から一括の可能性が高く、時期は8世紀末～9世紀初頭に位置付けられる。7は縄文時代の敲石である。表裏両面には敲打によって形成された剥離面が観察され、それに重複する研磨面がみられることから、敲打後に研磨作業に用いられたと考えられる。正面右側と裏面の研磨面は自然面の上に形成されており、上下左右の側縁全体に敲打痕がみられる。（色川）

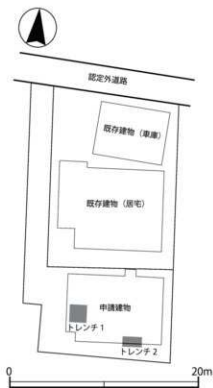
(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構・遺物が確認され、事業者と保存について協議を重ねたが、申請建物部分については、地帯力が弱く、バイル工法は回避できないとの結論に

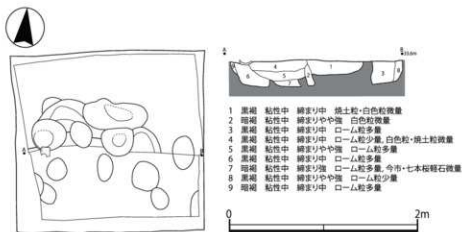


第32図 軍民坂遺跡（第3地点）の位置

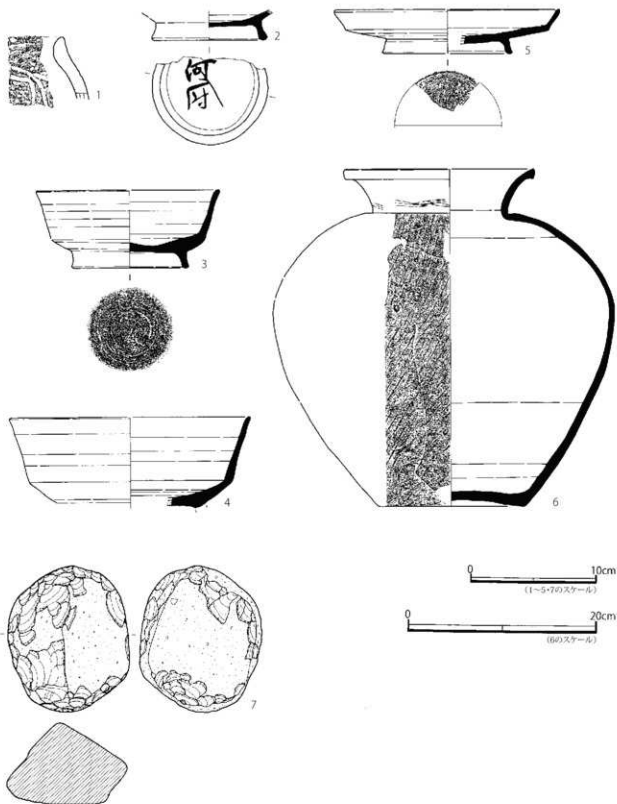
（新垣・川口）



第33図 軍民坂遺跡（第3地点）のトレンチ配置



第34図 軍民坂遺跡（第3地点）トレンチ1



第 35 図 軍民坂遺跡（第 3 地点）出土遺物

達したことから、申請建物部分を対象とする記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。

(川口)

2-12 下荒勾遺跡（第4地点）

所在地 水戸市双葉台4丁目238番地

開発面積 2,255㎡

調査期間 平成19年11月19日

調査原因 樹木の伐根、盛土

調査担当 関口慶久

調査概要 開発対象地に3本のトレンチを設定し（第37図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。

（1）トレンチの概要

トレンチ1 15m×1m。地表下50cmで関東ローム層上面が確認された。表土層から数点の土器片が出土したが、遺構は確認されなかった。

トレンチ2 14m×1m。地表下70cm前後で関東ローム層上面が検出されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ3 10m×1m。地表下50cm前後で関東ローム層上面が検出され、堀跡が確認された。堀跡が確認されたため、その規模や構築時期・性格を把握するために南北方向に直交する形でサブトレンチを追加で設定した（第37図）。その結果、堀跡は上面幅3.4m、底面幅0.25m、深さ1.8mであり、断面が箱築研状を呈することが確認された（第39図）。遺物は出土しなかったが、表土層から縄文時代中期の土器片が数点出土した。堀跡からは、遺物は出土していないが、覆土の様相および断面構造のあり方から近世以降のものと考えられる。（関口）

（2）出土遺物

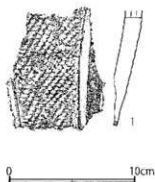
1は縄文土器である。文様が沈線文により区画されている。懸垂文間が無文の所謂「磨消縄文」。単節斜縄文RLの縄文が縦位に施されている。時期は中期後葉「加曾利E2・3式」に位置付けられる。（色川）



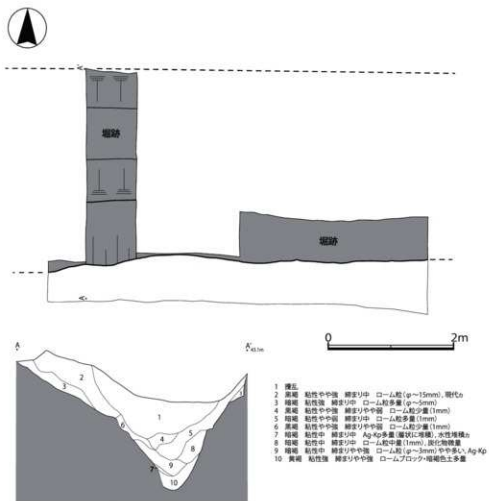
第37図 下荒勾遺跡（第4地点）のトレンチ配置



第36図 下荒勾遺跡（第4地点）の位置



第38図 下荒勾遺跡（第4地点）出土遺物



第 39 図 下荒勾遺跡 (第 4 地点) トレンチ 3 堀跡検出状況・土層断面



写真 14 トレンチ 3 堀跡検出状況 (東から)



写真 15 トレンチ 3 堀跡断面 (東から)

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構・遺物は確認されたものの、堀跡は近世以降の所産と判断され、埋蔵文化財としては取り扱えないこと、遺物についても表土層から数点出土したにとどまったことから、当該地域には埋蔵文化財は存在せず、慎重工事が相当であるとした。

(関口)

2-13 下荒勾遺跡（第5地点）

所在地 水戸市双葉台4丁目243-92番地
 開発面積 488.03㎡
 調査期間 平成19年12月25日
 調査原因 個人住宅建築
 調査担当 川口武彦・新垣清貴
 調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分および浄化槽埋設

部分に2本のトレンチを設定し（第41図）、人力により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 2m×1m。地表下70cmで関東ローム層上面が確認されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ2 2m×2m。地表下60cm前後で関東ローム層上面が検出された。表土から縄文時代中期の土器片1点が出土したが、

(2) 出土遺物

1は縄文土器である。単節斜縄文R Lと沈線文が施されている。時期は中期後葉「加曾利E式」に位置付けられる。（色川）

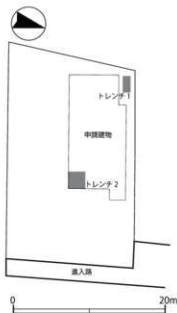
(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い

遺物は1点の縄文土器が出土したものの、表土からの出土であり、遺構も確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。（川口・新垣）

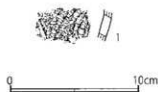


第40図 下荒勾遺跡（第5地点）の位置

遺構は確認されなかった。（川口・新垣）



第41図 下荒勾遺跡（第5地点）のトレンチ配置



第42図 下荒勾遺跡（第5地点）出土遺物

2-14 周知外（藤井町地内）

所在地 水戸市藤井町字南駒形1946番地
 開発面積 99.99㎡
 調査期間 平成19年9月28日
 調査原因 通信基地局建設
 調査担当 新垣清貴

調査概要 開発対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「十方原遺跡」に近接していることから（第43図）、埋蔵文化財の存在が予測された。開発対象地のうち、通信基地局建設予定箇所に2本のトレンチを設定し（第44図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要

トレンチ 1 8m × 1.5m。地表下 75cm で関東ローム層上面が確認された。現耕作土から弥生時代後期の土器片、奈良・平安時代の須恵器片が数点出土したが、遺構は確認されなかった。

トレンチ 2 8m × 1.5m。地表下 110cm で関東ローム層上面が確認された。現耕作土から縄文土器片、奈良・平安時代の土師器片・須恵器片が数点出土したが、遺構は確認されなかった。(新垣)

(2) 出土遺物

1 は縄文土器である。単節斜縄文 R L と沈線文が施されている。時期は中期後葉「加曾利 E 式」に位置付けられる。2 は弥生土器である。付加条第 2 種 (R × R) による縄文が施文されている。時期は「十王台式」に位置付けられる。(色川)

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い

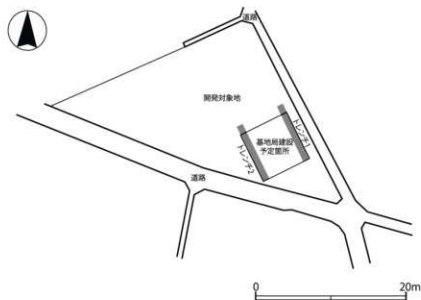
遺物は出土したものの、耕作土中からの出土であり、遺構も確認されなかったことから、当該地域には埋蔵文化財は存在せず、慎重工事が相当であるとした。(新垣)



第 43 図 周知外 (藤井町地内) の位置



第 45 図 周知外 (藤井町地内) 出土遺物



第 44 図 周知外 (藤井町地内) のトレンチ配置

2-15 新田遺跡（第1地点）

所在地 水戸市全環町 1366-1 番地
開発面積 2,300 m²
調査期間 平成 19 年 8 月 27 日～8 月 30 日
調査原因 吐水槽建設
調査担当 川口武彦
調査概要 開発対象地は山林であり、伐採等が行われていなか

たため、重機の進入が困難な状況であった。そこで開発対象地内に7箇所のトレンチを設定し（第47図）、人力により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。

（1）トレンチの概要

トレンチ1 1m×1m。地表下90cmで関東ローム層上面が確認された。縄文土器片が数点出土したが、遺構は確認されなかった。

トレンチ2 1.9m×0.9m。地表下70cmで関東ローム層上面が確認されるとともに、縄文時代早期の集石とがけ穴とみられるプランが確認された（第48図）。遺物は縄文時代早期の土器片が出土した。

トレンチ3 1m×1m。地表下70cmで関東ローム層上面が確認されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ4 1m×1m。地表下80cmで関東ローム層上面が確認されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ5 1m×1m。地表下90cmで関東ローム層上面が確認

され、縄文時代早期のがけ穴とみられるプランを確認した（第48図）。遺物は確認されなかった。
トレンチ6 1m×1m。地表下80cmで関東ローム層上面が確認されたが、遺構・遺物は確認されなかった。
トレンチ7 1m×1m。地表下90cmで関東ローム層上面が確認された。縄文土器片が数点出土したが、遺構は確認されなかった。

（2）確認された埋蔵文化財の取扱い

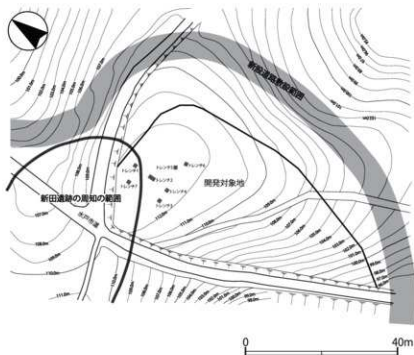
周知の範囲内から遺構・遺物が確認されたことから、事業者と保存について協議を重ねたが、吐水槽建設の代替地の確保は困難であり、吐水槽建設に伴い生じる削平土を用いて水戸市道を新設することから、工事の計画変更は困難であるとの結論に達した。そのことから、記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。

その後、平成21年5月1日～7月31日にかけて財団法人茨城県教育財団埋蔵文化財調査部による本発掘調査が行われ、竪穴住居跡3軒、がけ跡7基、陥し穴6基、土坑43基、道路跡1条、ビット群1箇所、集石7基、石器集中地点調査区3箇所が確認された。

竪穴住居跡は出土した土器から、縄文時代後期のものであることが確認されたほか、調査区の北部からは陥し穴



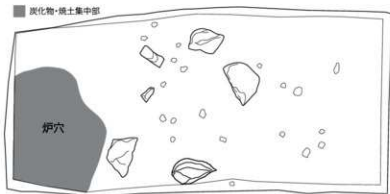
第46図 新田遺跡（第1地点）の位置



第47図 新田遺跡（第1地点）のトレンチ配置



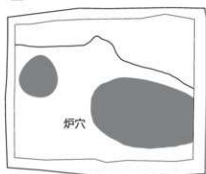
■ 炭化物・焼土集中部



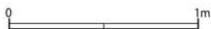
トレンチ2



■ 炭化物・焼土集中部



トレンチ5



第48図 新田遺跡（第1地点）トレンチ2・5遺構検出状況



写真16 トレンチ2 炉穴・集石検出状況（北から） 写真17 トレンチ5 炉穴検出状況（南から）

6基、中央部からは灰跡が確認された。遺物は縄文時代早期・後期の土器のほか石鏃や石匙、磨製石斧、奈良・平安時代の土師器・須恵器も出土している。（川口）

2-16 台波里遺跡 (第34次)

所在地 水戸市波里町
 字宿屋敷 3028-8 番地
 開発面積 286 m²
 調査期間 平成 19 年 4
 月 4 日～4 月 5 日
 調査原因 個人住宅建築
 調査担当 川口武彦・渥
 美賢吾

調査概要 開発対象地の
 うち、申請建物部分および
 浄化槽埋設部分、進入路掘
 削部分にトレンチおよび掘
 削区を設定し (第 50 図)、
 重機を用いて関東ローム層
 上面を目標に掘削を行っ
 た。各トレンチの詳細は下
 記のとおりである。

(1) トレンチの概要

調査区 1 (トレンチ 1・

2) 申請建物部分に 2m
 ×1m のトレンチ 2 本を設
 定したが、調査の結果、土

坑 9 基および掘立柱建物跡の柱穴 1 基が確認されたため、2 本のトレンチを 1 つの調査区に拡張した。最終的な調査面積は 58.22 m² である。地表下 30～50cm で関東ローム層上面が確認された。遺物は古墳時代・奈良・平安時代の土師器や須恵器が出土した。

トレンチ 3 4.8m × 3.4m。浄化槽埋設部分に設定した。地表下 30～40cm で関東ローム層上面が確認されるとともに掘立柱建物跡の柱穴とみられるプランが確認された。遺物は奈良・平安時代の土師器や須恵器が出土した。

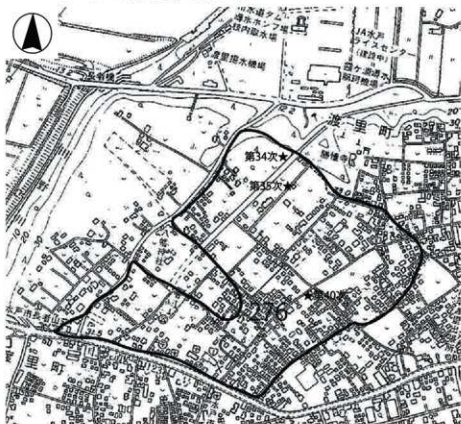
トレンチ 4 7.9m × 3m。進入路掘削部分に設定した。地表下 30～40cm で関東ローム層上面が確認された。竪穴住居跡 2 軒と土坑もしくは掘立柱建物跡の柱穴とみられるプラン 1 基が確認された。遺物は古墳時代・奈良・平安時代の土師器や須恵器が出土した。

(2) 確認された埋蔵文化財の取扱い

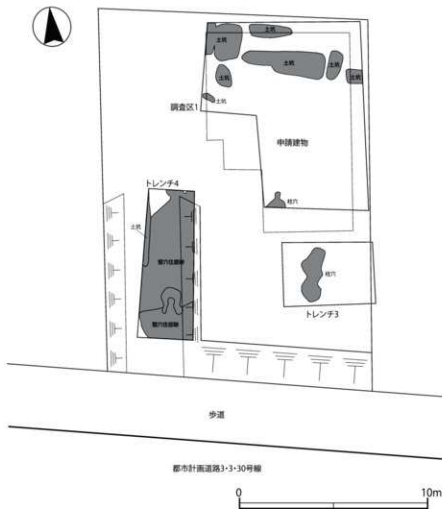
遺構・遺物が確認されたことから、事業者と保存について協議を重ねたが、開発対象地域は都市計画道路よりも高い位置にあり、第一種低層住宅エリアに該当しているため、盛り土による保護は困難であること、また、面積も狭く、浄化槽埋設箇所の計画変更も困難であること、都市計画道路よりも高い位置にあるため、進入路の掘削はやむを得ないとの結論に達した。そのことから、記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。

その後、平成 19 年 4 月 6 日～6 月 18 日にかけて水戸市教育委員会による本発掘調査が行われ、竪穴住居跡 2 (古後 1、奈・平 1)、土坑 1 (奈・平)、掘立柱建物跡 1 (奈・平)、時期不明土坑多数が確認されるとともに、古墳時代後期～奈良・平安時代の土師器、須恵器、古墳時代後期の鉄鏃 (無頭鴨袂五角形鏃) 等が出土した。詳細については、次年度以降に刊行を予定している本発掘調査報告書において提示する。

(川口・渥美・木本)



第 49 図 台波里遺跡 (第 34・35・40 次) の位置



第 50 図 台波里遺跡（第 34 次）のトレンチ配置

2-17 台波里遺跡（第 35 次）

所在地 水戸市渡里町字前原 2812-1 地先～字宿屋敷 3011 地先（市道常磐 222 号線）

開発面積 968 m²

調査期間 平成 19 年 5 月 27 日～5 月 28 日

調査原因 公共下水道管理設

調査担当 新垣清貴

調査概要 開発対象地である水戸市道常磐 222 号線、部分にトレンチおよび調査区を設定し（第 51 図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。

（1）トレンチの概要

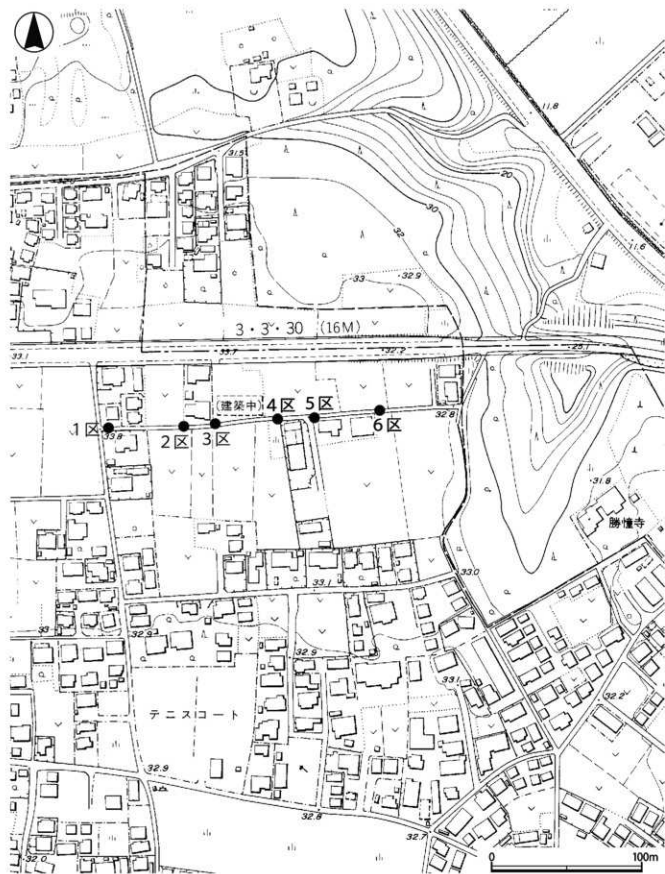
1 区 3m × 1m。地表下 80cm で関東ローム層上面が確認された。遺構・遺物は確認されなかった。

2 区 3m × 1m。地表下 140cm で関東ローム層上面が確認された。堅穴住居跡とみられるプランと土坑 1 基が確認された。

3 区 3m × 1m。地表下 100cm で関東ローム層上面が確認された。遺構・遺物は確認されなかった。

4 区 1.5m × 1m のトレンチを 2 箇所設定した。地表下 100cm で関東ローム層上面が確認された。土坑およびピット群を確認した。

5 区 3m × 1m。地表下 80cm で関東ローム層上面が確認された。遺構はトレンチに対して北西方向から南東方向に斜交する溝跡が 1 条確認された。遺物は奈良・平安時代の須恵器が出土した。



第51図 台波里遺跡（第35次）のトレンチ配置



写真 18 1区掘削状況（西から）



写真 19 5区溝跡検出状況（南東から）



写真 20 4区ビット群検出状況（西から）

6区 3m × 1m、地表下80cmで関東ローム層上面が確認された。遺物は奈良・平安時代の須恵器が出土した。（新垣）

(2) 出土遺物

1は須恵器無台環である。底面に墨書「厨口」がみられる。時期は8世紀後葉に位置付けられる。（色川）

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構・遺物が確認されたことから、事業課である水戸市下水道工事第一事務所と保存について協議を重ねたが、保存は困難であるとの結論に達したことから、記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。

その後、平成19年11月21日～平成20年1月18日にか

けて株式会社東京航業研究所による本発掘調査が行われ、古墳時代の竪穴住居跡7軒、溝跡1条、土坑2基、奈良・平安時代の掘立柱建物跡1～2棟、溝跡4条、井戸跡1基、土坑1基、中・近世の溝跡1条、井戸跡2基、土坑1基、ビット群が確認されるとともに、古墳時代後期～奈良・平安時代の土師器、須恵器、灰釉陶器などが出土した。注目される遺物としては「郡厨」、「郡」、「寺仲」、「枚井村」などの墨書土器が出土している（佐々木・林・川口・関口 2008）。（新垣）



0 10cm

第 52 図 台渡里遺跡（第 35 次）出土遺物

2-18 台渡里遺跡（第40次）

所在地 水戸市渡里町字狸久保
2771-12

開発面積 243.15 m²

調査期間 平成20年3月19日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 川口武彦

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分および浄化槽埋設部分にトレンチを3本設定し（第53図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要

トレンチの名称については、宅地造成前に実施した試掘調査（第32次調査）の番号を踏襲し、トレンチ5～7と命名した。

トレンチ5 7.5m×1m。地表下1.5～1.4mの深さより幅2.5m以上の溝跡と見られるプランが検出された。覆土にはロームブロックが多数含まれることから人為的に埋め戻されたとみられる。遺物は出土しなかった。

トレンチ6 8.5m×1m。地表下1.3mの深さより幅4.8m以上の溝跡と見られるプランが検出された。覆土にはロームブロックが多数含まれることから人為的に埋め戻されたとみられる。遺物は出土しなかった。

トレンチ7 8.5m×1mで設定したが、浄化槽部分について5.98mの拡張

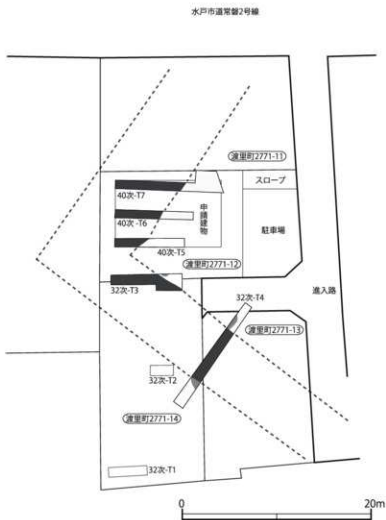
を行った。トレンチの中央から西寄り位置で地表下1mの深さより幅6m以上の溝跡と見られるプランが検出された。覆土にはロームブロックが多数含まれることから人為的に埋め戻されたとみられる。遺物は出土しなかった。

(2) 確認された埋蔵文化財の取扱い

32次調査では北西方向から南東方向に向かう溝跡が確認されていたが（川口・色川・関口・新垣 2008）、今般の試掘調査により、本地点の南西野位置で北東方向に90°向きを変えることが判明した。溝跡の上面幅は6m以上であると想定され、覆土はロームブロックを多数含むことから人為的に埋め戻されたとみられる。

溝跡が確認されたことから、事業者と保存について協議を重ねたが、人為堆積による溝跡が申請建物の部分の地下の大半に埋没しており、地耐力が弱く、バイル工法はやむを得ないとの結論に達したことから、記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとされた。

その後、平成20年4月30日～平成20年6月4日にかけて水戸市教育委員会による本発掘調査が行われ、溝跡の底面から7世紀後半の土師器や須恵器などが出土し、それに並行する横列1条と主軸の一致する7世紀後半



第53図 台渡里遺跡（第40次）のトレンチ配置

の壁穴住居跡1軒が確認されたことから、7世紀後半以前に営まれた豪族居館もしくは評段階に遡る初期官衙域である可能性が高まった。

(川口・渥美)

2-19 東照宮境内遺跡(第1地点)

所在地 水戸市宮町2-4
 開発面積 3,140.27㎡
 調査期間 平成19年9月14日(1次調査)
 平成19年10月17日(2次調査)

調査原因 マンション建設

調査担当 関口慶久・渥美賢吾

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分および駐車場部分にトレンチを設定し(第55図)、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 12m×2m。申請建物部分の南側に設定した。表土下50cmで地山が確認された。いずれも砂層かもしくは砂利層に到達しており、遺構・遺物は確認されなかった。なおこれらの砂層や砂利層は水平堆積ではなく、傾斜堆積をなしており、南西から北東に向かって傾斜堆積をしている様相が窺えた。

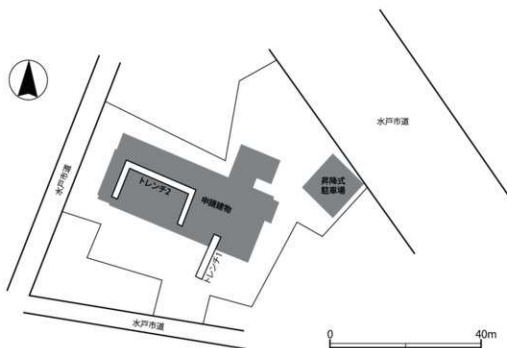
トレンチ2 申請建物部分の西側に南北10m、東西17mのコの字状のトレンチを設定した。表土下60cmで地山(砂利層)が確認された。遺構は確認されなかった。地山は第1回目の試掘調査で確認されたような傾斜堆積はみられず、水平堆積であった。遺物は表土から近世磁器片2点が出土した。

(2) 確認された埋蔵文化財の取扱い

2次におたる試掘の結果、地山は礫層に達している状況が確認された。上市台地の基本層序は、関東ローム層(層厚約2m)・茨城粘土層(層厚約1m)・上市段丘礫層(層厚約10m)・砂層の順で堆積していることが判明している。往事の生活面がどのレベルであったのかを推測する材料はないが、近代以前の盛土・硬化面等の人為堆積が全く認められないことから、現代に相応の削平が行われた可能性が高い。従って、当該地区においては、埋蔵文化財は隠



第54図 東照宮境内遺跡(第1地点)の位置



第55図 東照宮境内遺跡(第1地点)のトレンチ配置

滅しているものと判断される。1次調査では地山が傾斜堆積をなしており、2次調査では水平堆積であることが確認され、当該地域の東側に小規模な谷津が入り込む状況が想定された。上市台地におけるこれまでの試掘調査でも、箱状の小谷が入り込むなど細かな起伏が認められており、それらの自然地形を巧みに利用して水戸城・城下町を整備したことが明らかとなりつつある。今回確認された堆積状況も、上市台地の自然地形ひいては水戸城下町の成立をうかがう貴重な知見として評価されよう。以上のように遺構が確認されず、遺物も表土からの出土であったため、当該地域には埋蔵文化財は存在せず、慎重工事が相当であるとした。(関口)

2-20 長嶋遺跡(第2地点)

所在地 水戸市大足町1044-1番地外

開発面積 5,217.25㎡

調査期間 平成20年2月21日

調査原因 個人住宅兼店舗建設

調査担当 川口武彦

調査概要 開発対象地のうち、店舗建物部分および雨水浸透施設部分にトレンチを設定し(第57図)、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 6m×1.5m。関東ローム層は存在せず、表土下210cmで粘土層が確認された。湧水が著しく、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ2 24m×1.5m。関東ローム層は存在せず、表土下70～90cmで粘土層が確認された。東側部分では湧水が著しかった。西側で近現代の芋穴とみられるプランが2箇所確認されたが、遺構は確認されなかった。遺物は須恵器の底部片が表土から1点出土したにとどまった。(川口)

(2) 出土遺物

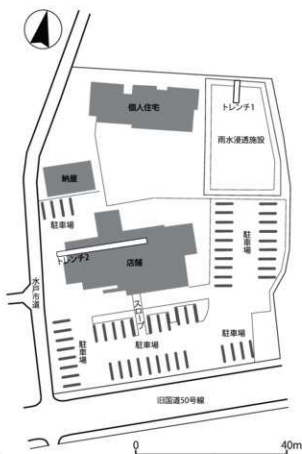
1は須恵器無台杯、2は須恵器有台杯である。時期は9世紀に位置付けられる。(色川)

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い

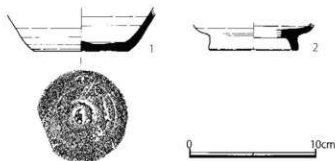
遺構は確認されず、遺物も表土から出土したにとどまったことから、慎重工事が相当であるとした。(川口)



第56図 長嶋遺跡(第2地点)の位置



第57図 長嶋遺跡(第2地点)のトレンチ配置



第58図 長嶋遺跡(第2地点)出土遺物

2-21 荷鞍坂遺跡（第1地点）

所在地 水戸市酒門町 242-1 番地

開発面積 990 m²

調査期間 平成 19 年 8 月 27 日～8 月 28 日

調査原因 コンビニエンスストア建築

調査担当 渥美賢吾・新垣清貴

調査概要 開発対象地のうち、店舗部分および浄化槽部分、土壌処理システム部分、駐車場部分にトレンチを設定し（第 60 図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要

トレンチ 1 当初は 17m × 1.5m で設定していたが、遺構の有無を確認するため、5m × 3m の拡張を行った。地表下 15cm で関東ローム層上面が確認されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ 2 12m × 1m。地表下 45～15cm で関東ローム層上面が確認されたが、遺構・遺物は確認されなかった。地形が緩やかに傾斜する状況であるため、本来の地形は谷状であったと考えられる。

トレンチ 3 25m × 1.5m。地表下 15cm で関東ローム層上面が確認され、墳丘の棚平された古墳に伴うとみられる周溝・時期不詳の土坑 1 基が確認された。古墳の周溝は幅 3m 程度で、覆土中に円筒埴輪や形象埴輪の破片を多数包含している。東側に向かうにつれて、周溝のプランは細くなっていく。

トレンチ 4 10m × 1.5m。地表下 15cm で関東ローム層上面が確認され、トレンチ 3 で確認されていた古墳の周溝が確認された。遺物は埴輪片が多数出土した。

トレンチ 5 9m × 1m。地表下 20cm で関東ローム層上面が確認され、トレンチ 3・4 で確認されていた古墳の周溝が確認された。

トレンチ 6 16m × 1.5m。地表下 50～20cm で関東ローム層上面が確認され、トレンチ 3～5 で確認されていた古墳の周溝のほか古墳の周溝を切る溝状遺構が確認された。溝状遺構の確認面には硬化面が認められることから、道路状遺構の可能性がある。

トレンチ 7 19m × 1.5m。地表下 20cm で関東ローム層上面が確認されたが、トレンチ 3～6 で確認されていた古墳の周溝が確認された。周溝の幅は西側に向かうにつれて幅が細くなる。

トレンチ 8 19m × 1.5m。地表下 15cm で関東ローム層上面が確認され、時期不詳のピット群が多数確認された。

トレンチ 9 19m × 1.5m。地表下 15cm で関東ローム層上面が確認され、時期不詳のピット群・土坑が確認された。

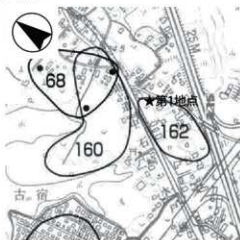
(2) 確認された埋蔵文化財の取扱い

荷鞍坂遺跡はこれまで、弥生時代後期の土師片、古墳時代・奈良・平安時代の土師器片・須恵器片、円筒埴輪片が採集されており、弥生時代以降の集落や付近に古墳が存在していた可能性も考えられていたが、具体的な性格は不明であった。

そのような中、この度の試掘調査により台地縁に外径 30m、内径 25m の墳丘が削平された円墳の周溝が確認され、近隣に営まれている酒門台古墳群を構成する古墳のひとつであったことが判明した。

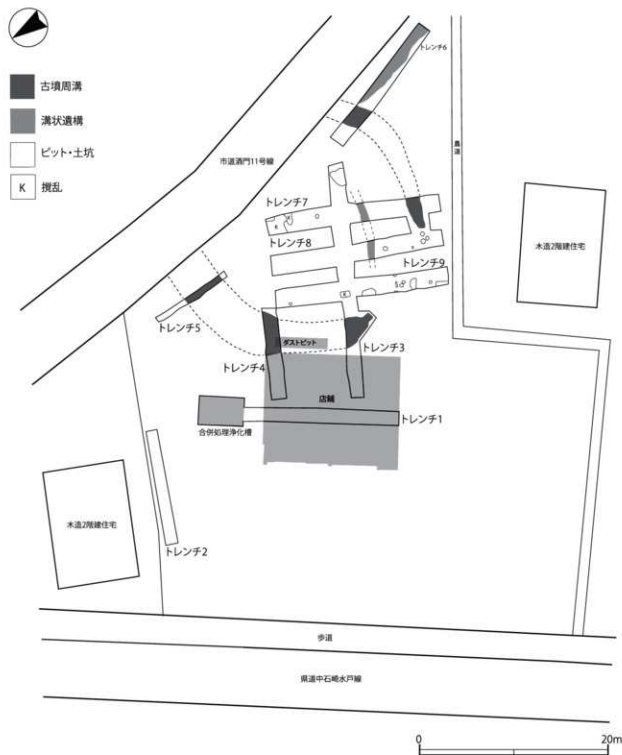
周溝内からは円筒埴輪や形象埴輪が出土していることから 6 世紀代の後期古墳であると考えられ、酒門台古墳群が遅くとも 6 世紀代から形成されていたという事実を示す資料を得ることができた。

このように遺構が確認されたため、事業者と保存について協議を重ねたが、古墳が確認された駐車場部分についても 30cm 以上の保護層の確保は困難であるとの結論に達したことから、記録保存による本発掘調査が相当であるとした。その後、平成 20 年 4 月 21 日～5 月 21 日の期間に毛野考古学研究所による本発掘調査が行われ、試掘



第 59 図 荷鞍坂遺跡（第 1 地点）の位置

調査で確認されていた円墳の周溝と道路状遺構のほか、井戸跡1基、土坑12基、ピット62基(うち掘立柱建物跡1棟、横列2条)、生垣跡2条が確認された。遺物は縄文土器(前期)・石鏃、弥生土器(後期)・紡錘車、埴輪(円筒埴輪、朝顔形円筒埴輪、形象埴輪)・鉄鏃・土師器甕、奈良・平安時代の須恵器(坏、甗)、近世陶磁器・土器・瓦・鉄製刀子・釘・銅製煙管が出土した(有山・長井・渥美 2009)。なお、試掘調査で出土した遺物については本発掘調査の出土遺物と接合する可能性が高いため、本発掘調査の報告書に収録した。(渥美)



第60図 荷鞍坂遺跡(第1地点)のトレンチ配置

2-22 西原古墳群（第13地点）

所在地 水戸市渡里町字野木 3370-6, 3370-7
 開発面積 286 m²
 調査期間 平成20年2月28日
 調査原因 個人住宅建築
 調査担当 川口武彦・渥美賢吾
 調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分にト

レンチを設定し（第62図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

（1）トレンチの概要

12.5m × 2m で設定していたが、東側については幅1.5m となった。地表下60～90cmで関東ローム層上面が確認されるとともに、幅2.0～3.0mの古墳の周溝とみられる円形状のプランが検出された。その断面構造および土層堆積状況を確認するため、部分的にサブトレンチを設定し、掘削した。その結果、周溝の深さは50cmで底面は平坦であることが確認された。覆土は2層からなり、いずれも自然堆積の様相を示していた。遺物は周溝に設定したサブトレンチ内から土師器片・須恵器片・凝灰岩片が出土した。

凝灰岩片は主体部に凝灰岩の切石等を採用した横穴式石室が採用されていることを示す資料とみることができるといふのも、昭和26年に茨城高等史学部によって行われた本古墳群の第5号墳・第6号墳の発掘調査（大森1952a, 1952b）では、凝灰岩の横穴式石室が主体部に採用されていることが確認されているからである。

今般の開発対象地の北側には、東西8.0m、南北6.0m、高さ約1.0mの古墳と見られる低墳丘が現存しており（第62図、写真22）、トレンチ内で検出された周溝がその墳丘を取り囲む様相を呈していることから、内径16.0m、外径21.0mの円墳であった可能性が高い。

（川口・渥美）

（2）出土遺物

1は須恵器無台坏である。時期は8世紀後葉に位置付けられる。2は土師器坏である。時期は7世紀中葉に位置付けられる。3は縄文時代の剥片である。打面および末端部両方に折断面を有し、打面側の折断面が腹面側から、末端部側の折断面が背面側からの加圧によるものとみられる。背面の剥離面は主要剥離面と同一方向であることから、打面を固定し、連続的に剥片剥離を行う過程で生じたものとみられる。右側縁には二次加工の可能性がある5枚の小さな剥離痕が連続的に形成されている。

（川口・色川）



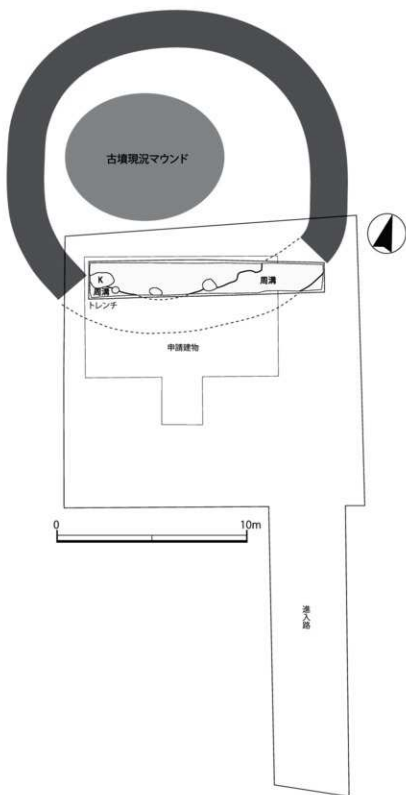
第61図 西原古墳群（第13地点）の位置



写真21 円墳周溝検出状況（西から）



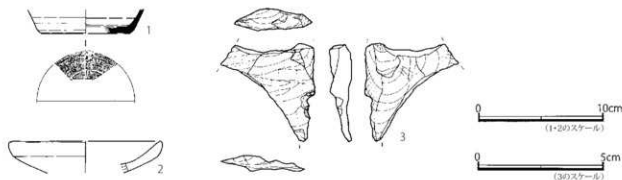
写真22 隣接地古墳墳丘（南東から）



第 62 図 西原古墳群（第 13 地点）のトレンチ配置と隣接古墳の位置関係

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い

円墳に伴うとみられる周溝が確認されたことから、事業者と保存について協議を重ねた。その結果、申請建物部分については 30cm 以上の保護層が確保できることから、工事立会が相当であるとした。(川口・渥美)



第63図 西原古墳群（第13地点）出土遺物

2-23 東組遺跡（第1地点）

所在地 水戸市元吉田町 379-1 外

開発面積 2,3255 m²

調査期間 平成20年2月19日～2月20日（1次）

平成20年3月12日（2次）

調査原因 物販店舗建築

調査担当 川口武彦・新垣清貴・木本早周

調査概要 開発対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地外であったが、計画地の大半が周知の埋蔵文化財包蔵地である「吉田古墳群」、「葉王院東遺跡」、「お下屋敷遺跡」、「水戸南高校遺跡」に隣接しているため（第64図）、埋蔵文化財専門職員による現地踏査を実施した。その結果、土器片の散布が認められ、遺構の存在が予測された。事業者に試掘調査の実施について協力を求めたところ、重機を提供するとともに、試掘調査の実施に協力する旨、了解が得られた。その後、日程調整を行い、平成20年2月19日～20日および3月12日の3日間に試掘調査を実施することとなった。トレンチは開発対象地内に11箇所設定し（第65図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。



第64図 東組遺跡（第1地点）の位置

（1）トレンチの概要

トレンチ1 25m × 1.5m。地表下70cmで関東ローム層上面が確認された。トレンチャーによる攪乱が著しく、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ2 28m × 1mで当初設定していたが、遺構が確認されたため、9m × 3.5mの拡張を行った。地表下50cmで関東ローム層上面が確認されるとともに近世陶磁器を包含する性格不明の土坑2基が確認された。

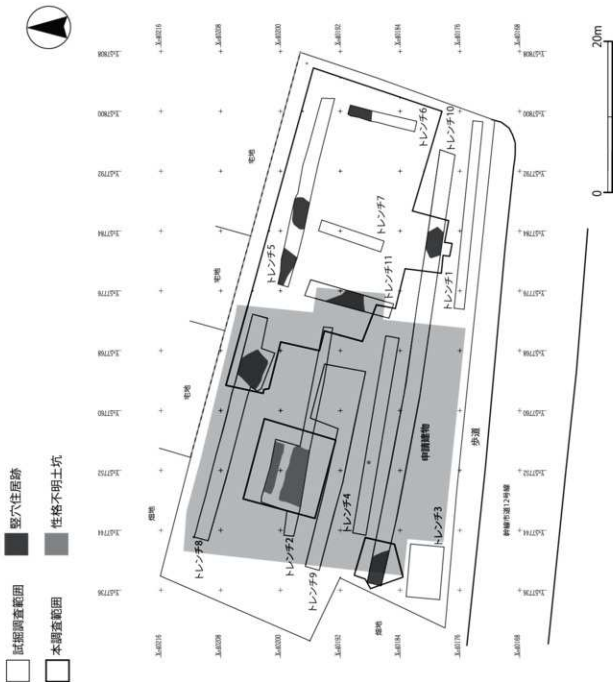
トレンチ3 7m × 4.5m。地表下40cmで関東ローム層上面が確認された。トレンチャーによる攪乱が著しく、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ4 26m × 4.5m。地表下40cmで関東ローム層上面が確認された。トレンチャーによる攪乱が著しく、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ5 26m × 1.5m。地表下40cmで関東ローム層上面が確認されるとともに、奈良・平安時代の土師器・須恵器を含む竪穴住居跡2軒が検出された。

トレンチ6 9m × 1.5m。地表下60cmで関東ローム層上面が確認されるとともに、竪穴住居跡1軒が検出された。

トレンチ7 9m × 1.5m。地表下40cmで関東ローム層上面が確認された。トレンチャーによる攪乱が著しく、遺構・遺物は確認されなかった。



第 65 図 東組遺跡 (第 1 地点) のトレンチ配置



写真 23 トレンチ 2 性格不明土坑検出状況 (南東から) 写真 24 トレンチ 5 竪穴住居跡検出状況 (西から)

トレンチ8 31m×2mで当初設定していたが、遺構が確認されたため、5m×2mの拡張を行った。地表下40cmで関東ローム層上面が確認されるとともに竪穴住居跡1軒が確認された。

トレンチ9 27m×2mで当初設定していたが、遺構の有無を確認するために8m×4mの拡張を行った。地表下40cmで関東ローム層上面が確認された。トレンチャーによる攪乱が著しく、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ10 58m×1.5m。地表下40～90cmで関東ローム層上面が確認されるとともに、竪穴住居跡2軒が確認された。

トレンチ11 12m×2m。地表下40cmで関東ローム層上面が確認されるとともに、竪穴住居跡1軒が確認された。

(2) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

以上の試掘結果に基づき、事業者と協議を重ねた結果、遺構の保存は困難であるとの結論に達したことから、記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。その後、平成20年3月21日から4月25日の期間に有限会社毛野考古学研究所による本発掘調査が実施された。本発掘調査では、試掘調査で確認されていた竪穴住居跡7軒、性格不明土坑2基のほかに竪穴住居跡7軒が確認された。遺物は縄文土器、打製石斧、弥生土器(後期)、土師器(古墳前・奈良・平安)、須恵器(奈良・平安)、土師質土器(中・近世)、陶磁器(中・近世)等が出土した(南田・園美 2009b)。なお、試掘調査で出土した遺物については本発掘調査の出土遺物と接合する可能性が高いため、本発掘調査の報告書に収録した。(山口・木本)

2-24 開江宿遺跡(第1地点)

所在地 水戸市開江町字宮久保1219-3

開発面積 215.37㎡

調査期間 平成19年7月5日

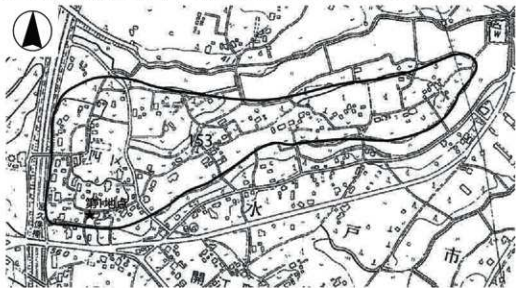
調査原因 個人住宅建築

調査担当 新垣清貴

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分にトレンチを1本設定し(第67図)、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 7m×1.5m。地表下60cmで関東ローム層上面が確認された。表土中より縄文時代中期の土器片が出土したが、遺構は確認されなかった。トレンチ東側において鹿沼軽石層のブロックが混入したローム土がみられ、西側に向かって褐色土面が確認された。その性格を把握するため、任意にサブトレンチを設定し、やや深めに掘削



第66図 開江宿遺跡(第1地点)の位置

した。その結果、関東ローム層上面は東側よりも100cm下がる状況が確認され、緩やかに傾斜する地形であることが判明した。また、現時での地形環境からも当該地域は埋没谷であったと考えられる。

(2) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺物は縄文時代中期の土器片が表土中から出土したものの、遺構は確認されなかったことから慎重工事が相当であるとした。(新垣)

2-25 舞台遺跡 (第4地点)

所在地 水戸市三湯町 86-2

開発面積 99.99㎡

調査期間 平成19年9月28日

調査原因 通信基地局建設

調査担当 新垣清貴

調査概要 開発対象地のうち、鉄塔部分建設部分にトレンチを3本設定し(第69図)、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 8.5m×1.5m。地表下50cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、覆土中に古墳時代終末期の土器・須臾器を含む竪穴住居跡とみられるプランが確認された。その性格を把握するために、北側の壁に沿って東西方向にサブトレンチを設定し、遺構の底面まで掘削した結果、柱穴とみられる円形のプランが2基確認されるとともに平坦な硬化面が確認された。以上の状況から、当該遺構は竪穴住居跡である可能性が高いと判断され、SI01と銘々した。

トレンチ2 5m×1m。地表下50cmの深さで関東ローム層上面が確認されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

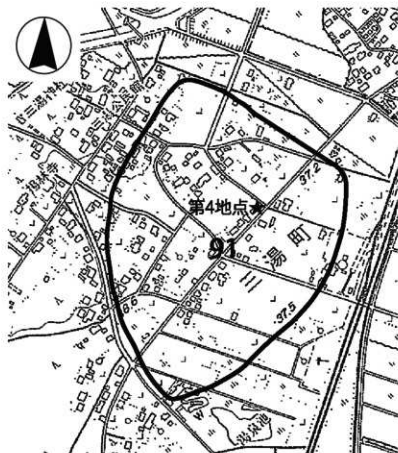
トレンチ3 3.5m×1m。地表下50cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、トレンチ1で確認されたSI01の延長部分が確認された。(新垣)

(2) 出土遺物

1は第1号住居跡(SI01)の床面直上から検出された土器器坏である。時期は7世紀中葉に位置付けられる。(色川)



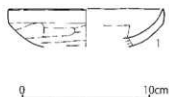
第67図 開江宿跡(第1地点)のトレンチ配置



第68図 舞台遺跡(第4地点)の位置



第69図 舞台遺跡（第4地点）のトレンチ配置



第70図 舞台遺跡（第4地点）出土遺物

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

鉄塔建設部分から古墳時代終末期の竪穴住居跡が1軒確認されたことから、事業者と保存について協議を重ねた。その結果、今般の通信基地局の建設計画を中止することの結論に達したことから、竪穴住居跡は保存されることになった。（新垣）

2-26 堀遺跡（第11地点）

所在地 水戸市渡里町 3293-1, 3294-1
 開発面積 320.27㎡
 調査期間 平成19年6月15日
 調査原因 個人住宅建築
 調査担当 新垣清貴
 調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分および浄化槽埋設部分にトレンチを2本設定し（第72図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 10m×1.5m。地表下70cmの深さで関東ローム層上面が確認されたが近現代の攪乱が著しく、遺構は確認されなかった。表土中より平安時代の土師器片・須恵器片が出土した。

トレンチ2 8m×1m。地表下70cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、平安時代のもつみられる竪穴住居跡が2軒確認された。いずれも部分的な検出にとどまっており、全容は明らかでないが、それぞれ001と002と仮に銘した。001は東半分が攪乱により損壊を受けているため、遺存状況はあまり良くないが、北側で2.3m以上、南側において8m以上ある。確認面から9世紀以降の土師器片・須恵器片が出土した。002は北側において0.7m以上、南側において1.4m以上ある。部分的にサブトレンチを設定し、掘削した結果、床面までの深度は0.3m程度であることが確認された。周溝を伴っており、床面は硬化が著しかった。覆土中より9世紀以降の土師器片・須



第71図 堀遺跡（第11・12地点）の位置

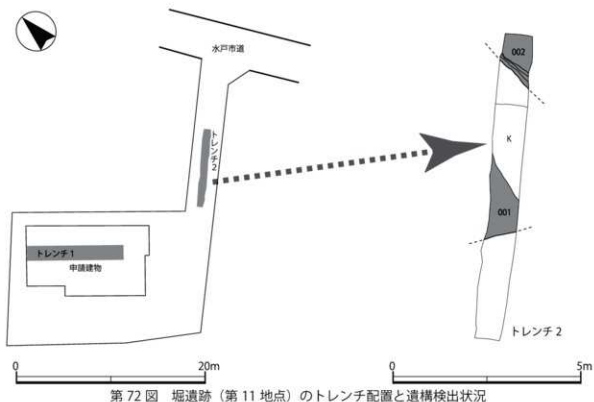


写真 25 トレンチ 2-002 号遺構調査状況（西から） 写真 26 トレンチ 2-001 号遺構検出状況（西から）

恵器片・内面研磨黒色処理土師器片が出土した。

(2) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

浄化槽埋設部分から平安時代の竪穴住居跡が2軒確認されたため、事業者とその保存について協議を重ねた。その結果、浄化槽埋設部分を開発対象地内の別地点に変更するとの結論に達した。そのことから、工事立会が相当であるとした。

(新規)

2-27 堀遺跡（第12地点）

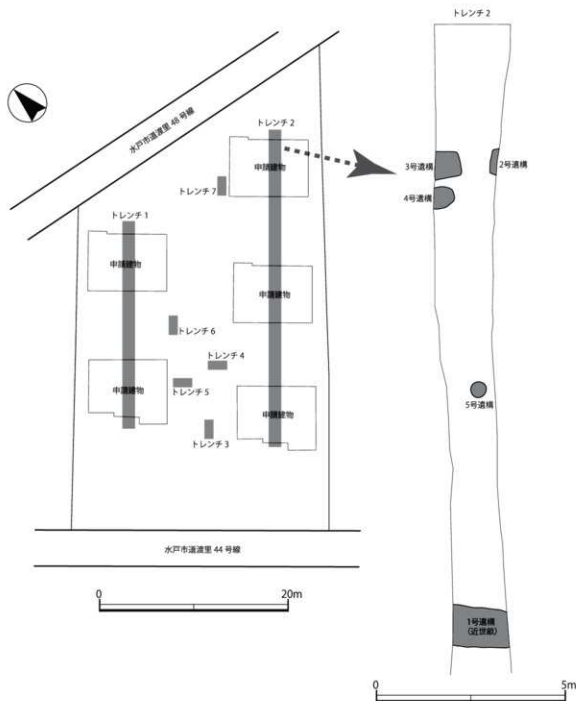
所在地 水戸市堀町 396-1 ほか
 開発面積 952.68 ㎡
 調査期間 平成 20 年 1 月 29 日
 調査原因 個人住宅建築
 調査担当 関口慶久・木本肇周

調査概要 開発対象地のうち、5棟の申請建物部分および浄化槽埋設部分にトレンチを7本設定し（第73図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 22m × 1.4m。地表下200～140cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、地表下100cmの暗褐色土層上面より近世の畝状遺構が検出されたが、関東ローム層上面では遺構は確認されなかった。表土中より土師器片が若干出土した。

トレンチ2 33.8m × 1.4m。地表下200～130cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、地表下100cmの暗褐色土層上面より近世の畝状遺構が検出された。また、関東ローム層上面では4基の遺構が確認された。



第73図 掘遺跡（第12地点）のトレンチ配置と遺構検出状況



写真 27 トレンチ 2 遺構検出状況（北東から）



写真 28 トレンチ 2 遺構検出状況（西から）

いずれもプラン確認の段階にとどめた為、性格や年代については未詳である。しかしながら、本遺跡の主体的時期は奈良・平安時代にあり、遺物も当該期の土師器・須恵器片に限られることを考慮すれば、奈良・平安時代の所産である可能性は高い。遺構の性格はプランの形状をみる限り、柱穴と思われる。特に2号遺構と3号遺構はともに方形プランを呈し、覆土の様相も近似していることから、同時期の所産と考えて良いだろう。表土中より縄文土器と土師器片が少量出土した。

トレンチ3 2m × 1m。地表下140cmの深さで関東ローム層上面が確認されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ4 2m × 1m。地表下160cmの深さで関東ローム層上面が確認されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ5 2m × 1m。地表下140cmの深さで関東ローム層上面が確認されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ6 2m × 1m。地表下200cmの深さで関東ローム層上面が確認されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ7 2m × 1m。地表下170cmの深さで関東ローム層上面が確認されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

(2) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

申請建物部分から掘立柱建物跡に関わる遺構が確認されたため、事業者とその保存について協議を重ねた。その結果、盛土により30cm以上の保護層を確保できることになったため、工事立会が相当であるとした。

(関口・木本)



写真 29 トレンチ 2 畝状遺構検出状況（西から）

2-28 町付遺跡（第1地点）

所在地 水戸市酒門町 638-1

開発面積 996.68 ㎡

調査期間 平成 19 年 11 月 19 日～11 月 20 日

調査原因 共同住宅建築

調査担当 新垣清貴

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分および浄化槽埋設部分、進入道路スロープ部分にトレンチを3本設定し（第75図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

（1）トレンチの概要

トレンチ1 20m×3m。地表下40～50cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、古墳時代前期の竪穴住居跡2軒が検出された。覆土上面からは弥生土器片、土師器片が多量に出土した。

トレンチ2 30m×1.5m。地表下50cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、道路状遺構が検出された。部分的にサブトレンチを設定し掘削した結果、道路状遺構は溝状の掘り方を持つもので、上面幅は3m、中央部分に幅1mの硬化面が広がっている状況が確認された。硬化面は10cm～20cmの厚さを持っており、最低でも2



第74図 町付遺跡（第1地点）の位置

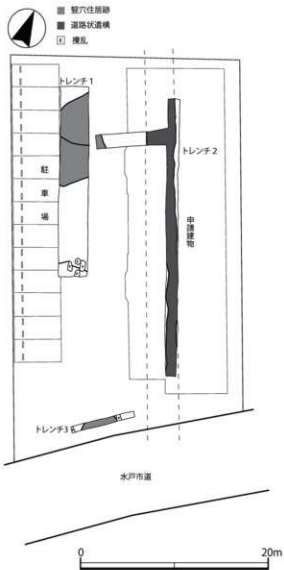


写真30 トレンチ2 道路状遺構検出状況（南から）



写真31 トレンチ3 竪穴住居跡検出状況（西から）

第75図 町付遺跡（第1地点）のトレンチ配置

度に亘る改修を受けているものとみられる。

トレンチ3 7m×1m。地表下50cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、古墳時代前期の竪穴住居跡1軒が検出された。覆土上面からは土師器片が出土した。

(2) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

以上の試掘結果に基づき、事業者と協議を重ねた結果、遺構の保存は困難であるとの結論に達したことから、記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。その後、平成20年2月12日から2月22日の期間に有限会社毛野考古学研究所による本発掘調査が実施された。本発掘調査では、試掘調査で確認されていた竪穴住居跡3軒、道路状遺構のほか、新たに竪穴住居跡5軒が確認された。遺物は弥生土器(後期)・磨製石斧(弥生後期)、土師器(古墳前・中・平安)、須恵器(奈良・平安)、勾玉(古墳前)等が出土した(南田・渥美 2009a)。なお、試掘調査で出土した遺物については本発掘調査の出土遺物と接合する可能性が高いため、本発掘調査の報告書に収録した。

(川口・新垣)

2-29 水戸城跡(第10次)

所在地 水戸市三の丸2-9-22(水戸市立第二中学校)

開発面積 41,285㎡

調査期間 平成19年8月20日～8月22日(1次)

平成19年9月12日(2次)

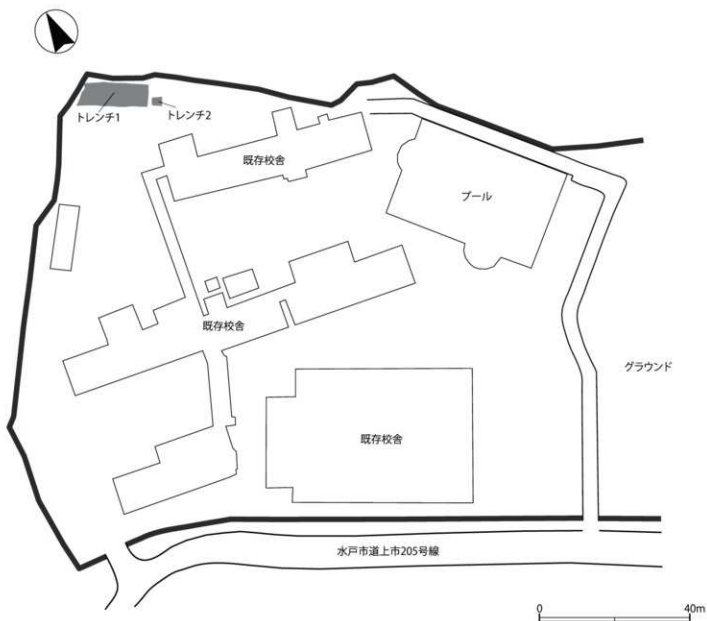
調査原因 受水槽埋設工事

調査担当 関口慶久・川口武彦・新垣清貴

調査概要 開発対象地にトレンチを2本設定し(第77図)、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。



第76図 水戸城跡(第10次)の位置



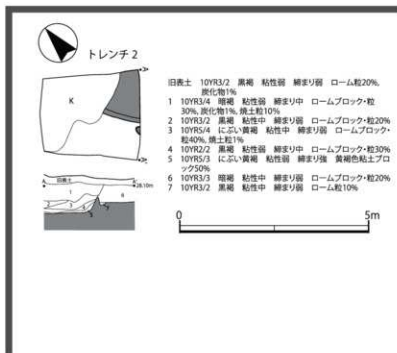
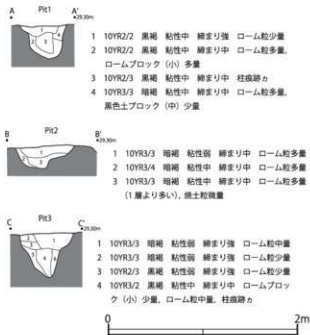
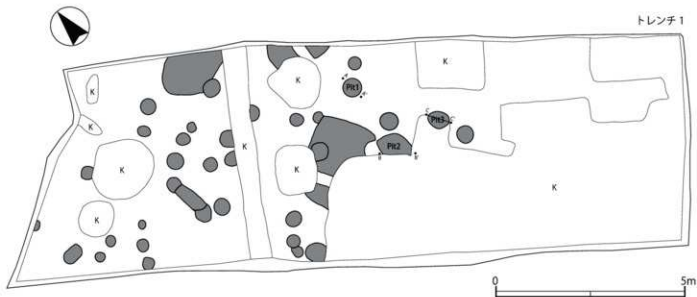
第77図 水戸城跡（第10次）のトレンチ配置

(1) トレンチの概要

トレンチ1 総面積 99.75 m²。表土直下の標高 28.6m 前後に黒褐色の硬化層が確認された。硬化層上面で遺構の確認を行ったが、確認されなかった。硬化層には古代の土師器片等が包含されており、近代にかかる遺物は確認されなかった。また硬化層にパックされる形で中世の柱穴が検出されていることから、この硬化層は近世以降の整地層と判断された。

この硬化層の下層にあたる標高 28.3m 前後で関東ローマ層上面が確認され、40基の遺構プランが検出された。大半は直径 40cm 前後の円形プランを呈しており、このうち3基について半截したところ、いずれも柱穴であることが確認された（第78図の Pit1～Pit3）。このことから、ほかの遺構についても柱穴である可能性が高い。遺構覆土からの出土遺物はなかった。

このような無数の柱穴が群をなす状況は水戸市立第二中学校校舎改築に伴う第1次調査においても確認されており、その埋没年代は中世まで遡ることが判明している。第1次調査区と本トレンチは近接していることから、今回検出されたピット群も第1次調査区で検出されたピット群と一連のものであることはほぼ疑いない。



第78図 水戸城跡 (第10次) トレンチ1・2平面・土層断面



第79図 水戸城跡 (第10次) 出土遺物

本トレンチの調査により、ピット群が二の丸曲輪の北西部一帯にまで及んでいることが判明した。本地区は二の丸曲輪の端部にあたることから、土塁や土塙など防禦施設が存在が想定されたものの、そのような遺構は確認されなかった。この状況は中世水戸城二の丸の土地利用を考える上で重要な所見である。数百～数千のピットが群として検出される状況は、八戸城をはじめ多くの中世城館に共通してみられる。これらの遺構の理解には、無数のピット群から一つでも多くの建物跡を見出す作業が欠かせない。従って、今後は第1次調査区および第2次調査区の所見とあわせて水戸城二の丸におけるピット群を詳細に分析し、土地利用の復原につなげていく必要がある。

トレンチ2 2.5m × 2.5m。表土下60cmで黒褐色土が約25cmの厚さで堆積しており、その下面から近世以前に遡るとみられる土坑とピットが各1基ずつ確認された(第78図)。遺物は出土しなかった。(関口・川口)

(2) 出土遺物

1～6は縄文土器である。1は細沈線文、2・3は太沈線文が施されている。4は口縁部で、内外面に条痕文が



写真 32 トレンチ1 遠景(南から)



写真 33 トレンチ1 遺構検出状況(東から)



写真 34 トレンチ1-Pit1 土層断面(南から)



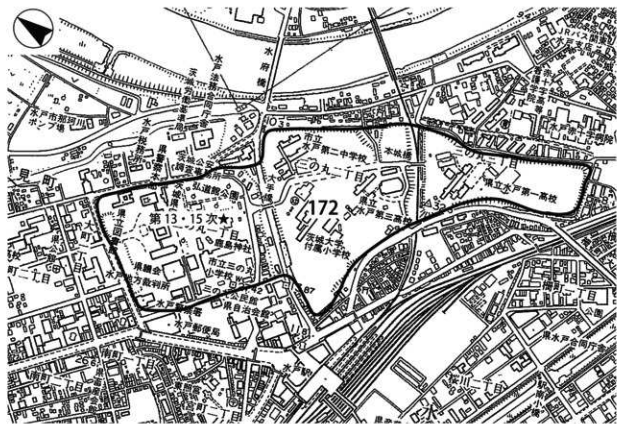
写真 35 トレンチ1-Pit2 土層断面(南から)



写真 36 トレンチ1-Pit3 土層断面(南から)



写真 37 トレンチ2 遺構検出状況(西から)



第 80 図 水戸城跡（第 13・15 次）の位置

施されている。5は胎土に繊維を含み、外面に単節斜縄文R Lが施されている。6は口縁部で、半截竹管状工具による文様が施されている。1～3は早期中葉「田戸下層式」、4は早期後葉「鶴ヶ島台式」、5は前期前半の繊維土器、6は前期後半「浮島式」に相当する。（色川）

（3）確認されたの埋蔵文化財の取り扱い

以上の試掘結果に基づき、事業者と協議を重ねた結果、遺構確認面よりも上に 30cm の保護層を確保できるとの結論に達し、遺構の保存が可能となったことから、本地点については慎重工事が相当であるとした。（関口）

2-30 水戸城跡（第 13・15 次）

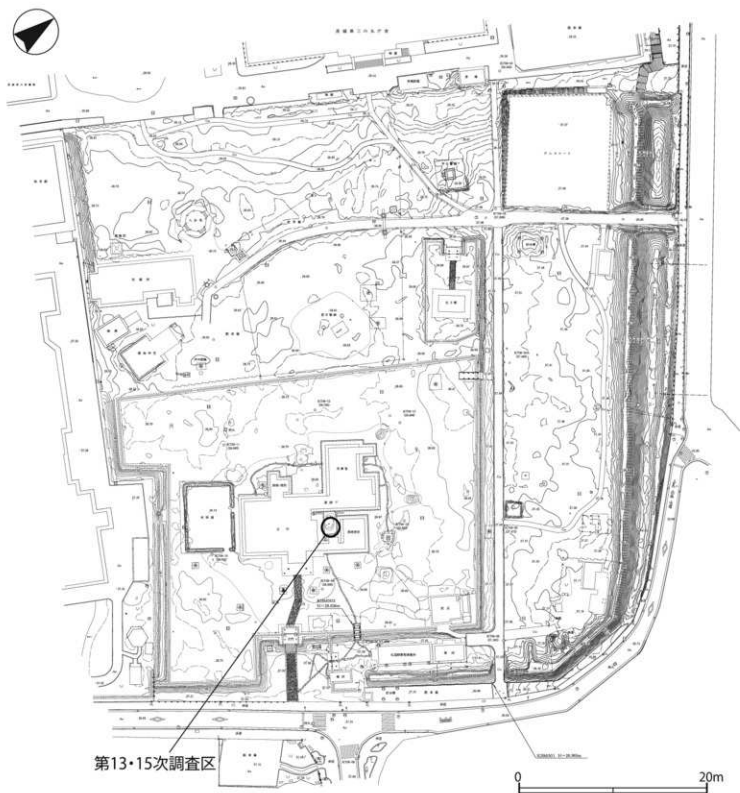
所在地	水戸市三の丸1丁目6-29（旧弘道館）
開発面積	13.6㎡
調査期間	平成19年8月31日～9月4日（第13次） 平成20年2月13日（第15次）
調査原因	便所改修工事・排水管改修工事
調査担当	関口慶久・新垣清貴

調査概要 今般の土木工事は弘道館政庁内にある老有司直所協便所改修工事および排水管の改修工事である。改修に際し、まずは新たに掘削する範囲を調査対象とするトレンチ調査を実施し（第13次）、その後に既設排水道管の撤去工事に際して立会調査（第15次）を実施することとした。調査の詳細は下記のとおりである。

（1）第13次調査の概要

トレンチをL字状に設定し（第82図）、人力により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。総面積は2.9㎡。基本層序は3層に区分された。各土層の詳細は下記のとおりである。

1層 褐色土層（10YR/6）。粘性やや弱、締まりやや強。ローム粒（1mm）微量、炭化物やや多量、砂りやや多量、



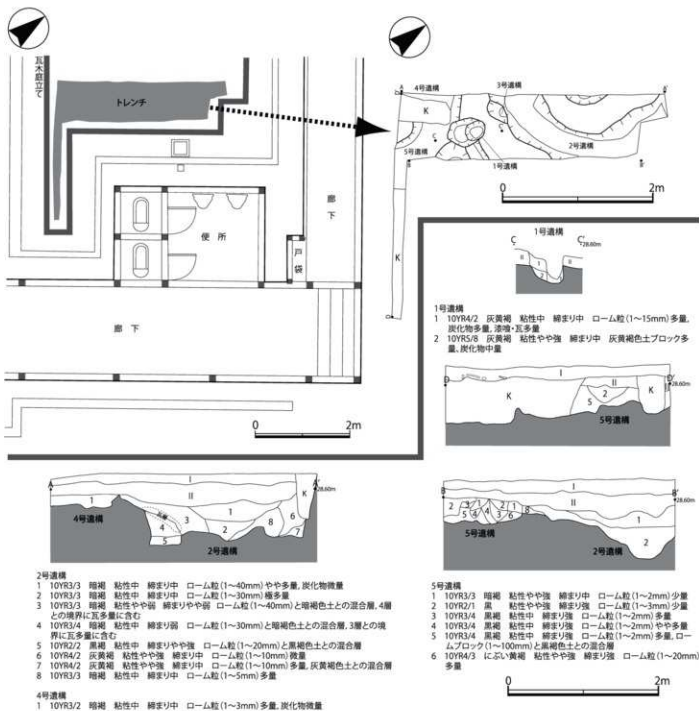
第81図 水戸城跡(第13・15次)調査区の位置

瓦多量に含む。現代の整地層。

Ⅱ層 暗褐色土層(10YR3/4)。粘性やや弱、締まりやや強。ローム粒(1mm)微量、炭化物少量含む。近代の整地層カ。

Ⅲ層 関東ローム層。近世以前。

確認面はそれぞれ異なるが、遺構は合計5基確認された。遺構の詳細は下記のとおりである。



第82図 水戸城跡(第13次)トレンチ内遺構配置・土層断面

1号遺構 確認面はII層上面である。平面プランは楕円形を呈する。ピット状の円形土坑である。柱痕等は確認されなかったもの、形状からみて柱や杭などが南方へ抜き取られたものと判断してよいだろう。II層上面で検出された遺構は本遺構のみである。

2号遺構 確認面は関東ローム層上面である。3号遺構を切っている。植栽痕とみられる。今回の調査で最も規模の大きな遺構で、推定直径は2.2mを測る。掘方底部外周が一段掘り込まれ、中央が盛り上がりながらも中心部分が凹むタイプ。植栽を移植する際にこういった形状になることが、東京都豊島区や新宿区の江戸遺跡の調査で確認されている。いわゆる抜き取り痕タイプの一形態である。

3号遺構 確認面は関東ローム層上面である。柱穴である。2号遺構にプランの半分以上を切られている。柱痕



写真 38 1号遺構完掘状況(西から)



写真 39 2号遺構完掘状況(南から)



写真 40 3号遺構完掘状況(西から)



写真 41 4号遺構完掘状況(東から)



写真 42 5号遺構完掘状況(西から)

跡は認められなかったが、形状・規模から柱穴とみられる。

4号遺構 確認面は関東ローム層上面である。5号遺構と切り合うものの、東半分が攪乱に切られていることもあり、平面プランや遺構の性格については不明である。

5号遺構 確認面は関東ローム層上面である。4号遺構と切り合う。東西両端が攪乱によって切られており、平面プランは明らかでない。掘り底面は凹凸が著しく、植栽痕と判断される。抜き取った痕跡は見いだされなため、いわゆる立ち枯れ痕と判断される。

(2) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

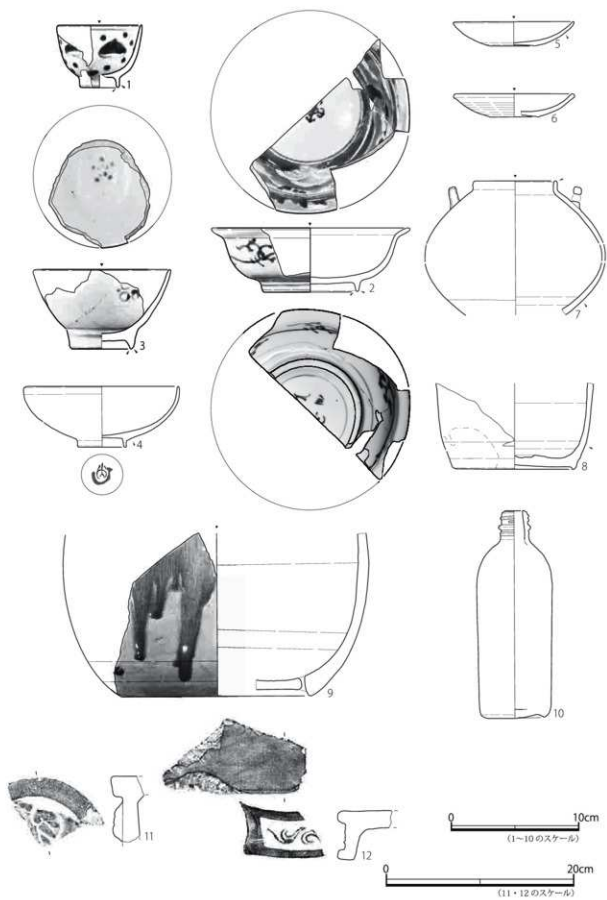
遺構・遺物が確認されたが、事業計画の変更は困難であることから、記録保存はやむを得ない状況であった。本来であれば、原因者負担による記録保存の発掘調査を実施すべきところであるが、今般の土木工事による影響が及ぶ範囲は僅か2.9㎡であり、面積も狭小であるため、試掘調査の一環で記録保存を行った。(関口)

(3) 第15次調査の概要

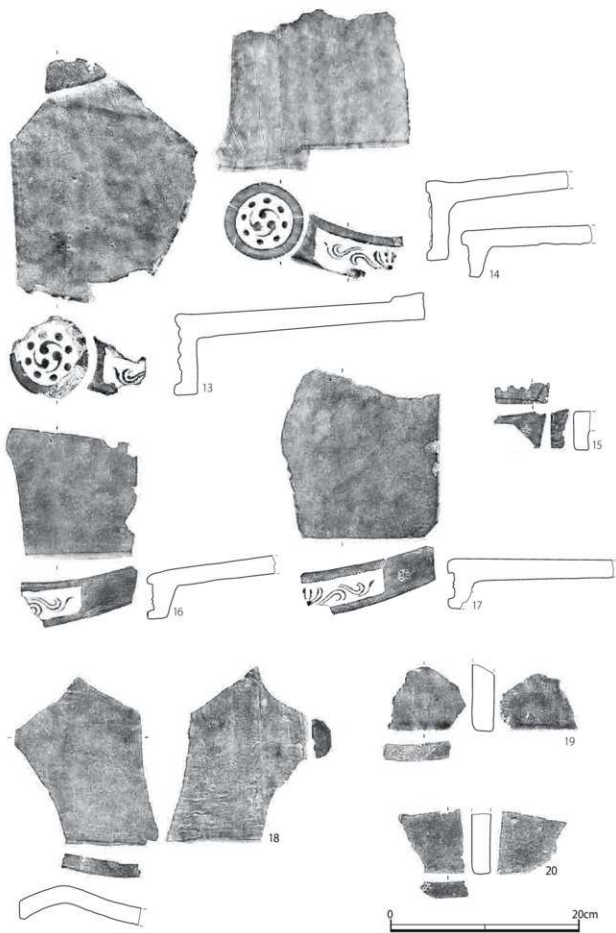
13次調査の後、平成20年2月13日に既設排水管を撤去し、新しい排水管を埋設する工事に伴い、立会調査を実施した。その結果、攪乱層や遺構の覆土と見られる土層中より13次調査の際に出土したものと同様の遺物が出土したが、狭小であったため、遺構の全容については確認できなかった。遺物の詳細については次節で解説する。

(4) 第13・15次調査出土遺物

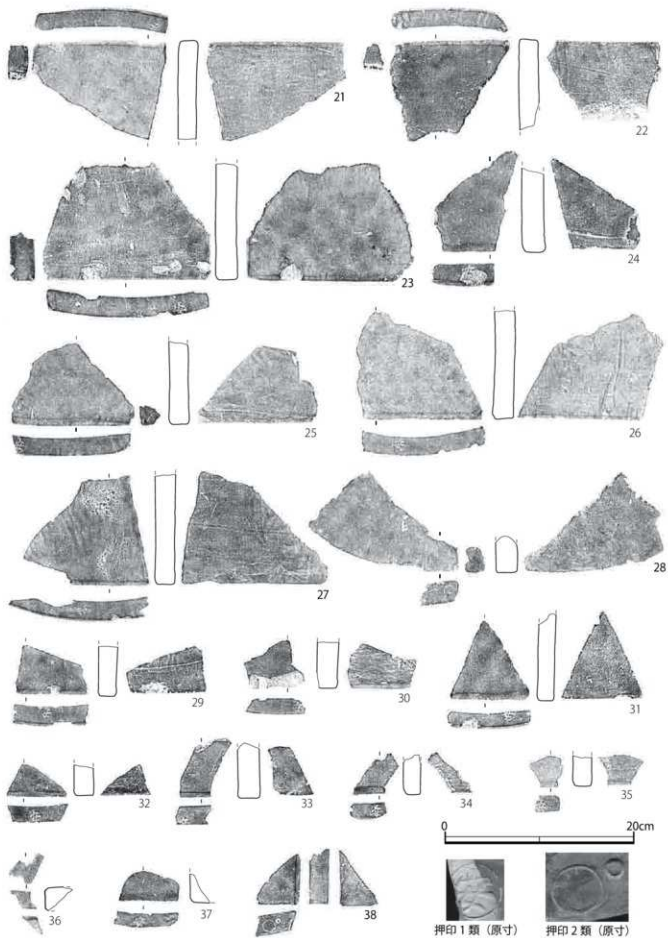
1は磁器の碗で、小碗である。推定生産地は肥前の可能性が高い。2は磁器の鉢である。推定生産地は肥前、推



第83図 水戸城跡(第13・15次)出土遺物(1)



第84図 水戸城跡(第13・15次)出土遺物(2)



第85図 水戸城跡(第13・15次)出土遺物(3)

定年代は18世紀後半以降とみられる。3は陶器の碗である。推定生産地は在地産、推定年代は19世紀以降とみられる。4は陶器の碗で、薄茶碗である。推定生産地は京都・信楽、推定年代は1690年代～1850年代とみられる。5・6は陶器の皿、7は陶器の土瓶である。推定生産地は七面製陶所の可能性が高く、推定年代は1838年以降とみられる。8は陶器の徳利で、灰軸一升徳利である。推定生産地は瀬戸・美濃、推定年代は1780年代～1860年代とみられる。9は陶器の鉢で、植木鉢と考えられる。推定生産地は在地産である。10は硝子製品である。(色川

2次)にわたる調査で多数の瓦が出土している。11は瓦当文様の2/3を欠失しているが、三ツ葉文軒丸瓦であり、銀燻しが施されている。12～17は軒棧瓦である。15は瓦当文様を欠失しているが、12～14・16・17はいわゆる江戸式の瓦当文様に類似する。13・14は軒丸瓦部の瓦当文様が残存しており、左巻き三つ巴文を中心に周縁に8つの珠文を配置する。15と17は軒平瓦部の外区外縁に押印が施されており、円の中に「安」の文字がみられる(押印1型)。18～38は棧瓦で、いずれも端面に押印を持つ。これらの押印のうち28と38以外は全て円の中に「安」の文字がみられるが、28と38は円の中に文字はない(押印2型)。また、38は円形の押印の脇に竹管状の工具によるとみられる小さな円があり、28とも異なる。水戸城跡は9地点20次にわたる調査が行われているが、出土瓦の報告例は少ない。円の中に「安」の文字を持つ同様の押印瓦は水戸市立第二中学校の校舎建替工事に伴う発掘調査(第4地点の6次・18次調査)で出土しているが(調査担当者である河野一也氏・山中菊乃氏の御教示による)、5,495㎡の調査面積に比して、出土数は少ない。他方、旧弘道館跡内で行われた第13・15次調査では僅か3.3㎡の調査で23点も出土している。この出土量の差は単なる偶然ではなく、これらの押印瓦が旧弘道館の屋根に葺くために生産されたものであり、水戸市立第二中学校敷地内に存在したとされる旧弘道館に補修瓦として転用されたことを示している可能性がある。(木本)

2-31 元石川大谷原遺跡（第1地点）

所在地 水戸市元石川町字大谷原 2265 外

開発面積 387,583.70 m²

調査期間 平成 19 年 10 月 24 日～11 月 5 日

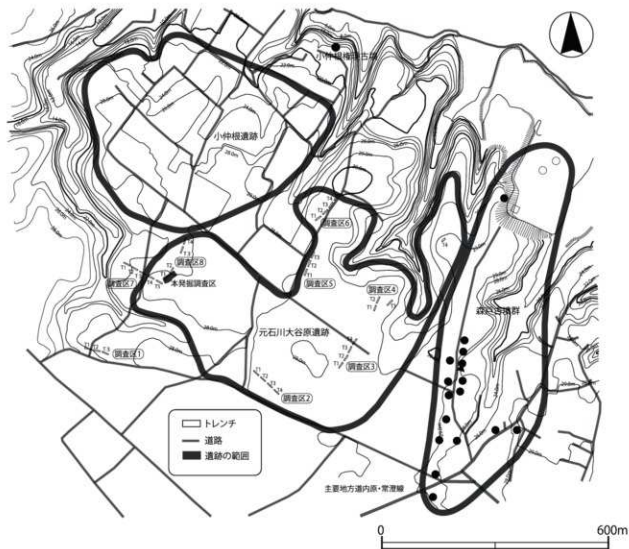
調査原因 宅地造成工事

調査担当 川口武彦

調査概要 開発対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地である「小中根遺跡」および「森戸古墳群」に近接しているが、周知の埋蔵文化財包蔵地には指定されていなかった。開発面積が広大であるため、事業者に試掘調査への協力について申し入れをしたところ、重機の提供も含めて協力が得られる事となった。開発対象地域は 8 区に区分し、15m × 2m のトレンチを合計 30 本、10m × 2m のトレンチを 1 本設定し（第 86 図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。その結果、複数のトレンチにおいて遺構・遺物が確認された。

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構・遺物が確認されたため、事業者に遺跡発見届を提出してもらい、事業者と協議・調整を行った結果、発掘調査はやむを得ないとの結論に達した。そのことから、水戸市教育委員会は大谷原遺跡発掘調査会を組織し、平成 20 年 1 月 21 日～2 月 14 日の期間に記録保存を目的とした本発掘調査を実施した。調査では、古墳時代の竪穴建物跡 2 棟、平安時代の竪穴建物跡 3 棟が確認され、先土器時代の剥片や縄文土器、土師器、須恵器、灰軸陶



第 86 図 元石川大谷原遺跡（第1地点）のトレンチ配置

器、黒書土器、鉄製鉸具、鉄製刀子、鉄製錠？、球状土錘、砥石、寛永通宝等が出土した（川口・色川・渥美・片平 2008）。なお、試掘調査で出土した遺物については、本発掘調査の遺物と接合する可能性があるため、本発掘調査の報告書に収録した。（川口）

2-32 若林遺跡（第2地点）

所在地 水戸市見川5丁目1232, 1233

開発面積 986㎡

調査期間 平成19年4月9日～4月10日

調査原因 共同住宅建築

調査担当 新垣清貴・木本孝周

調査概要 開発対象地域のうち、浄化槽部分および申請建物部分にトレンチを2本設定し（第88図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

（1）トレンチの概要

トレンチ1 5m×3m。地表下50～60cmの深さで関東ローム層上面が確認されたが、遺構は確認されなかった。遺物は耕作土中より縄文時代中期後葉加曽利E式の土器片が1点出土した。

トレンチ2 31m×2mと5m×2mのトレンチをL状に設定した。地表下50～70cmの深さで関東ローム層上面が確認された。遺構は近代以降の所産とみられる土坑1基が確認された。土坑は長軸190cm、短軸80cm、深さ70cmで覆土は締まりが強く、故意に突き固めた可能性があるが、柱痕跡や柱のアタリ痕等は確認されず、性格は不明である。遺物は耕作土中から縄文時代中期前半の阿玉台式および中期後半加曽利E式の土器片が10数点出土した。

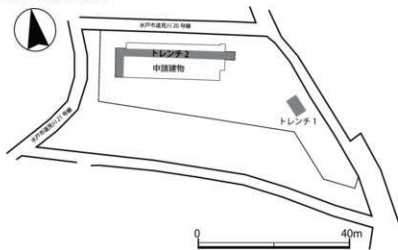
（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

2本のトレンチから遺物が出土したものの、いずれも耕作土中からの出土であり、遺構に伴うものではなかった。また、トレンチ2より土坑が確認されたが、構築時期は近代以降とみられることから、埋蔵文化財として取り扱うことは困難であった。このような状況から、当該地域には埋蔵文化財は存在せず、慎重工事が相当であるとした。

（新垣）



第87図 若林遺跡（第2地点）の位置



第88図 若林遺跡（第2地点）のトレンチ配置

2-33 波里町遺跡（第4地点）

所在地 水戸市波里町 2373-3

開発面積 270.4㎡

調査期間 平成19年11月13日、12月10日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 新垣清貴

調査概要 開発対象地域のうち、浄化槽部分および申請建物部分にトレンチを3本設定し（第90図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 8m×1m、地表下120cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、奈良・平安時代の土師器・須恵器を含むピット5基、土坑1基が確認された。

トレンチ2 7m×1m、地表下120cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、時期・性格不明のピット2基が確認された。

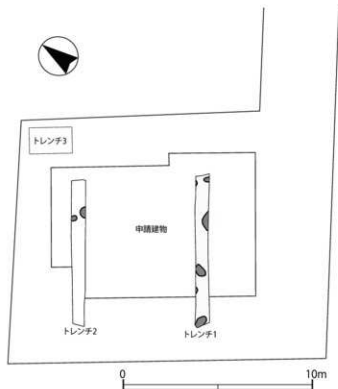
トレンチ3 2.2m×1.4m、地表下120cmの深さで関東ローム層上面が確認されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

(2) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構・遺物が確認されたが、確認深度はかなり深く30cm以上の保護層は十分に確保できるため、慎重工事が相当であるとした。（新垣）



第89図 波里町遺跡（第4・7地点）の位置



第90図 波里町遺跡（第4地点）のトレンチ配置

2-34 波里町遺跡（第7地点）

所在地 水戸市波里町字八幡前 2598-4

開発面積 331.66 m²

調査期間 平成 20 年 3 月 24 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 川口武彦

調査概要 開発対象地域のうち、浄化槽部分にトレンチを1本設定し（第91図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

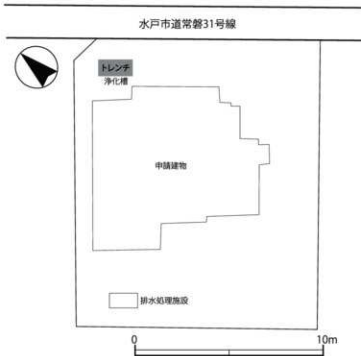
（1）トレンチの概要

2m × 1m。地表下 100cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが、遺構は確認されなかった。遺物は焼礫が 3 点出土した。

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構・遺物が確認されたが、確認深度はかなり深く 30cm 以上の保護層は十分に確保できるため、慎重工事が相当であるとした。

（川口）



第91図 波里町遺跡（第7地点）のトレンチ配置

第3章 個人住宅建築に伴う本発掘調査

第2章で報告した試掘調査のうち、個人住宅建築に伴い本発掘調査の対象となったのは台波里遺跡（第34次）と大串遺跡（第8地点）、大畷町遺跡（第7地点）の3件であった。これらのうち、台波里遺跡（第34次）については、検出された遺構・遺物が質・量ともに充実しており、1冊の報告書として刊行すべき内容であることから、本報告については次年度以降に刊行する予定である。

本発掘調査は、地下に掘削及びふ申請建物部分及び合併浄化槽埋設箇所のうち遺構が確認された箇所を対象とし、重機（バックホウ）により、関東ローム層上面まで表土を掘削し、遺構の精査を行い、確認された遺構を調査の対象とした。遺物は遺構確認面一括遺物、遺構出土遺物に区分し、取り上げを行った。

3-1 大串遺跡（第8地点）

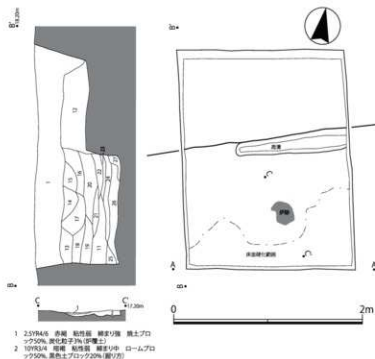
- 所在地 水戸市塩崎町字原 1077-3
 調査面積 5.0㎡
 調査期間 平成19年5月21日～5月25日
 検出遺構 竪穴住居跡1軒
 出土遺物 縄文土器・土師器・軽石
 調査担当 川口武彦
 調査概要 試掘調査の際に浄化槽埋設予定部分に設定したトレンチ3から確認された第1号住居跡を対象とした。

(1) 第1号住居跡

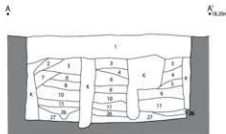
確認できた住居跡の規模は東西1.75m、南北1.25～1.5mの範囲で、遺構確認面から床面までの深さは50～60cmである（第93図）。覆土はロームブロックやローム入が堆積に



第92図 大串遺跡（第8地点）の位置

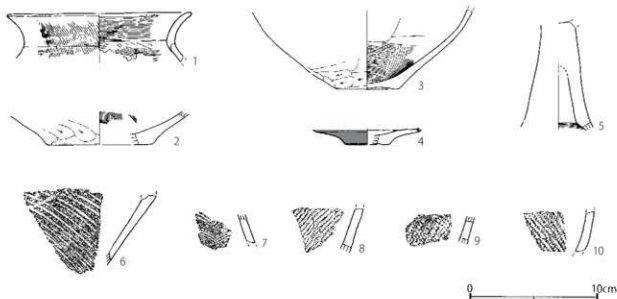


- 1 239R4/6 赤黒 粘状層 硬まり層 焼土ブロック20%、炭化粒子3%（浮遊土）
 2 109R14 均質 粘状層 硬まり層 ロームブロック20%、黒色土ブロック20%（硬り層）



- A-A' 断面土層表記
- | | | | | |
|----|---------|----|------|-----------------------------|
| 1 | 109R2/1 | 均質 | 硬まり層 | ローム粒20%（硬り土） |
| 2 | 109R2/2 | 均質 | 硬まり層 | ローム粒5% |
| 3 | 109R1/2 | 均質 | 硬まり層 | ロームブロック1%, ローム粒10% |
| 4 | 109R2/2 | 均質 | 硬まり層 | ロームブロック9%, ローム粒10% |
| 5 | 109R2/1 | 均質 | 硬まり層 | ローム粒2% |
| 6 | 109R2/3 | 均質 | 硬まり層 | ロームブロック20%, ローム粒20% |
| 7 | 109R1/2 | 均質 | 硬まり層 | ローム粒2% |
| 8 | 109R2/1 | 均質 | 硬まり層 | ローム粒20% |
| 9 | 109R2/2 | 均質 | 硬まり層 | ローム粒20%, 粘土粒1% |
| 10 | 109R2/2 | 均質 | 硬まり層 | ローム粒10% |
| 11 | 109R2/2 | 均質 | 硬まり層 | ロームブロック20%, ローム粒10% |
| 12 | 109R2/2 | 均質 | 硬まり層 | ロームブロック2%, 白色砂1%, 酸化鉄1% |
| 13 | 109R2/1 | 均質 | 硬まり層 | ローム粒20%, ロームブロック1% |
| 14 | 109R2/1 | 均質 | 硬まり層 | ローム粒10%, ロームブロック5% |
| 15 | 109R2/1 | 均質 | 硬まり層 | ローム粒20% |
| 16 | 109R2/1 | 均質 | 硬まり層 | ローム粒20% |
| 17 | 109R3/3 | 均質 | 硬まり層 | ロームブロック9%, ローム粒20%, 土層内含む |
| 18 | 109R2/1 | 均質 | 硬まり層 | ロームブロック9%, ローム粒10% |
| 19 | 109R2/3 | 均質 | 硬まり層 | ロームブロック10%, ローム粒20% |
| 20 | 109R2/2 | 均質 | 硬まり層 | ローム粒10%, 土層内含む |
| 21 | 109R2/1 | 均質 | 硬まり層 | ローム粒5% |
| 22 | 109R2/1 | 均質 | 硬まり層 | ロームブロック7%, ローム粒25% |
| 23 | 109R4/4 | 均質 | 硬まり層 | ロームブロック50% |
| 24 | 109R2/1 | 均質 | 硬まり層 | ロームブロック9% |
| 25 | 729R2/1 | 硬 | 硬り層 | 硬り層 |
| 26 | 109R4/4 | 均質 | 硬まり層 | ロームブロック30%, 黒色土ブロック9%（硬り層土） |
| 27 | 109R5/6 | 均質 | 硬まり層 | 焼土（焼土ブロック）ローム層 |

第93図 大串遺跡（第8地点）第1号住居跡



第94図 大串遺跡(第8地点)出土遺物(網部は赤彩範囲)

第4表 大串遺跡(第8地点)出土遺物総量

出土遺構	出土遺物	縄文時代(後期)			弥生時代(後期)			古墳時代(前期)			奈良・平安時代			総計					
		点 数	個 体	重 量	点 数	個 体	重 量	点 数	個 体	重 量	点 数	個 体	重 量	点 数	重 量				
SI01	土師器・甕							80		647	80				80	647			
	土師器・高坏									149	1					149			
	土師器・壺									15	1					15			
	土師器・鉢									7	1					7			
	弥生土器				3		30	3								3	30		
縄文土器	1		35	1											1	35			
トレンチ3・ 棟土	弥生土器・壺				1		6	1								1	6		
	土師器・高坏									29	1					1	29		
	土師器・甕												1		9	1	9		
	土師器・壺								5		55	5				5	55		
トレンチ3	土師器・壺	1	0	35	1	4	0	36	4	80	0	902	80	1	0	9	1	95	982

※重量の単位はg

よる埋没とみられ、23層に分層された(第93図)。焼土粒や炭化粒を含んでいる層もあることから、火災による焼失あるいは人為的放火による廃絶を疑っている可能性がある。掘り方はロームブロックを主体としており、10cm～16cmの厚さで堆積している。床面は平坦であるが、壁際から40～60cm南側に硬化している。

トレンチの中心よりやや南に寄った位置では灰跡とみられるプランが検出されており、その規模は東西24cm、南北25cmであった(第93図)。焼土ブロックが多数含まれていたが、層厚は2cmと浅く、単に廃絶時に伴う焼土が堆積していただけの可能性もある。(川口)

(2) 出土遺物

出土遺物の総量は第4表のとおりである。主体を占めるのは第1号住居跡(SI01)の時期である古墳時代前期の遺物であるが、縄文時代後期・弥生時代後期・奈良・平安時代の遺物の少量ながら出土している。

1～5は、第1号住居跡(SI01)に伴う遺物で、すべて土師器である。1は甕形土器で、内外面ともに刷毛目調整されている。4は壺形土器で、外面が赤彩されている。5は高坏形土器である。時期は古墳時代前期後半に位置付けられる。

6は縄文土器である。斜行沈線文系土器で、後期中葉「加曾利B式」に相当する。7～10は弥生土器である。7は櫛歯状工具(3本)による下向きの連丸文が施されている。8・9はRを2巻き、10はLをS巻きた原体(輪不明)による縄文が施文されている。7～10は「東中根式」に相当する。(色川)



写真 43 第 1号住居跡遺物検出状況(東から)



写真 44 第 1号住居跡遺物検出状況(南から)



写真 45 炉跡土層断面(西から)



写真 46 第 1号住居跡土層断面(東から)

3-2 大鋸町遺跡(第7地点)

所在地 水戸市元吉田町 2350-2

調査面積 89.25 ㎡

調査期間 平成 20 年 1 月 31 日～ 2 月 22 日

検出遺構 溝跡 2, 土坑 6, ビット 36

出土遺物 縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・青磁・鉄釘・不明鉄製品・鉄滓

調査担当 関口慶久・新垣清貴

調査概要 試掘調査の際に申請建物部分に設定したトレンチから確認された溝跡および土坑、ビットを対象とした。

(1) 基本層序 本地点における基本層序は下記の 2 層に区分される。

I 層 10YR2/3 黒褐 粘性中 締まり中 ローム粒(φ～2mm)多量, ロームブロック(φ～2cm)少量, 現表土。

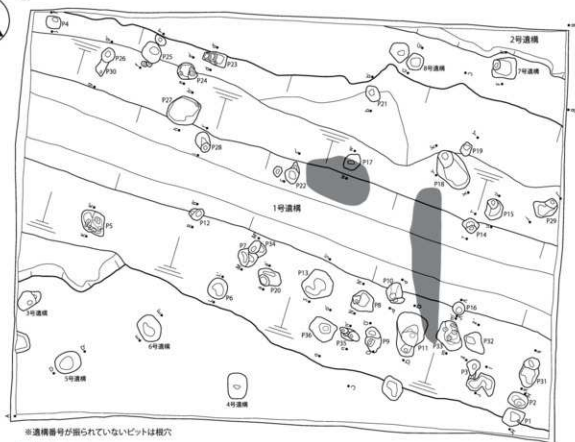
II 層 10YR2/1 黒 粘性弱 締まり中 ローム粒(φ～2mm)多量, 1号遺構の1層に近似。1号遺構の埋め戻しに伴う整地カ。

(2) 溝跡 溝跡は 2 条確認された(第 96 図)。

【1号遺構】 上面幅 6.2～4.6m, 中段幅 1.8～1.6m, 底面幅 0.8～0.6m, 深さ 1.8～1.7m。断面は築研状を呈する。調査区南西では上段部に東西 2.4m, 南北 1.0m のテラス状の平坦面がみられるのに対し, 調査区の北側では上段部に東西 3.2m, 南北 1.4m のテラス状の平坦面がみられる。上段から中段にかけてビットが 36 基みられる(第 5 表,



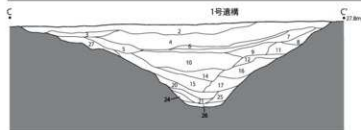
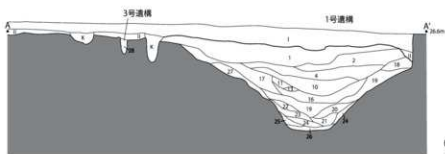
第 95 図 大鋸町遺跡(第7地点)の位置



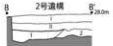
※遺構番号が振られていないピットは根穴

■ 覆土中における硬化範囲

0 2m



0 2m



- B-B'
- 1 10YR3/4 黒褐 粘性中 締まりやや弱 ロームブロック($\phi \sim 30$ mm)、ローム粒($\phi \sim 2$ mm)少量
 - 2 10YR3/4 黒褐 粘性中 締まり中 ロームブロック($\phi \sim 30$ mm)、ローム粒($\phi \sim 2$ mm)多量

A-A'およびC-C'

- | | | | |
|----------------------------|-----------------------------------|--------------------------|---|
| 1 10YR2/3 黒褐 粘性中 締まり中 | ローム粒($\phi \sim 3$ mm)中量 | 15 10YR2/2 黒褐 粘性中 締まりやや弱 | ローム粒($\phi \sim 5$ mm)多量 |
| 2 10YR3/3 暗褐 粘性中 締まりやや弱 | ローム粒($\phi \sim 1$ mm)少量 | 16 10YR3/3 暗褐 粘性やや弱 締まり中 | 暗褐色土とローム粒($\phi \sim 90$ mm)の混合層 |
| 3 10YR2/2 黒褐 粘性中 締まりやや弱 | 黒褐色土とローム粒($\phi \sim 30$ mm)の混合層 | 17 10YR3/2 黒褐 粘性やや弱 締まり中 | ローム粒($\phi \sim 50$ mm)多量 |
| 4 10YR2/2 黒褐 粘性中 締まり中 | ローム粒($\phi \sim 3$ mm)中量 | 18 10YR3/2 黒褐 粘性やや弱 締まり中 | ローム粒($\phi \sim 1$ mm)少量 |
| 5 10YR3/3 暗褐 粘性やや弱 締まり中 | ローム粒($\phi \sim 2$ mm)やや多量 | 19 10YR2/3 黒褐 粘性中 締まり中 | ローム粒($\phi \sim 3$ mm)多量、炭化物微量 |
| 6 10YR3/3 暗褐 粘性中 締まりやや弱 | ローム粒($\phi \sim 1$ mm)中量 | 20 10YR3/2 黒褐 粘性弱 締まり中 | 黒褐色土とローム粒($\phi \sim 5$ mm)の混合層 |
| 7 10YR2/3 黒褐 粘性中 締まり中 | ローム粒($\phi \sim 3$ mm)中量、硬化層 | 21 10YR3/2 黒褐 粘性弱 締まり中 | ローム粒($\phi \sim 5$ mm)多量 |
| 8 10YR2/3 黒褐 粘性中 締まり中 | ローム粒($\phi \sim 1$ mm)中量、炭化物少量 | 22 10YR3/2 黒褐 粘性弱 締まり中 | 黒褐色土とローム粒($\phi \sim 1$ mm)の混合層 |
| 9 10YR2/3 黒褐 粘性中 締まり中 | ローム粒($\phi \sim 5$ mm)中量、炭化物少量 | 23 10YR3/3 暗褐 粘性弱 締まり中 | 暗褐色土とローム粒($\phi \sim 3$ mm)の混合層 |
| 10 10YR2/2 黒褐 粘性中 締まり中 | ローム粒($\phi \sim 3$ mm)多量、炭化物少量 | 24 10YR3/3 暗褐 粘性強 締まり中 | 暗褐色土とローム粒($\phi \sim 5$ mm)の混合層 |
| 11 10YR2/3 黒褐 粘性やや弱 締まりやや弱 | 黒褐色土とローム粒($\phi \sim 5$ mm)の混合層 | 25 10YR2/3 黒褐 粘性中 締まり中 | 黒褐色土とローム粒($\phi \sim 5$ mm)の混合層 |
| 12 10YR2/3 黒褐 粘性中 締まりやや弱 | ローム粒($\phi \sim 3$ mm)少量 | 26 10YR2/2 黒褐 粘性中 締まり中 | ローム粒($\phi \sim 1$ mm)多量 |
| 13 10YR3/2 黒褐 粘性やや弱 締まりやや弱 | ローム粒($\phi \sim 3$ mm)多量 | 27 10YR3/2 黒褐 粘性やや弱 締まり中 | ローム粒($\phi \sim 10$ mm)の混合層 |
| 14 10YR2/3 黒褐 粘性やや弱 締まりやや弱 | ローム粒($\phi \sim 5$ mm)多量 | 28 10YR3/2 黒褐 粘性中 締まり中 | ローム粒($\phi \sim 2$ mm)少量、Ag Kp粒($\phi \sim 3$ mm)微量 |

第96図 大館町遺跡(第7地点)の遺構配置と1~3号遺構土層断面



- 1 109K21 溝 粘土中 継ぎ目中 ローム層 (g=2mm) 多量
- 2 109K4 溝 粘土中 継ぎ目中 ローム層 (g=4mm) 多量
- 3 109K21 溝 粘土中 継ぎ目中 中ローム層 (g=2mm) 少量、ロームブロック (g=4mm) 少量、ローム層 (g=2mm) 少量



- 1 109K21 溝 粘土中 継ぎ目中 ロームブロック (g=3mm)、ローム層 (g=2mm) 少量
- 2 109K21 溝 粘土中 継ぎ目中 中ローム層 (g=2mm) 少量、ローム層 (g=2mm) 少量
- 3 109K21 溝 粘土中 継ぎ目中 中ローム層 (g=2mm) 少量、粘粒層
- 4 109K21 溝 粘土中 継ぎ目中 中ローム層 (g=2mm) 少量、粘粒層の埋土



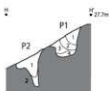
- 1 109K21 溝 粘土中 継ぎ目中 ローム層 (g=2mm) 多量
- 2 109K6 溝 粘土中 継ぎ目中 ローム層 (g=2mm) 多量、ロームブロック (g=3mm) 少量



- 1 109K21 溝 粘土中 継ぎ目中 中ローム層 (g=2mm) 少量、ロームブロック (g=3mm) 少量、粘粒層

土坑

1号遺構ピット



- P1**
- 1 109K34 溝 粘土中 継ぎ目中 ローム層 (g=2mm) 多量、Ag Ag中層
 - 2 109K4 溝 粘土中 継ぎ目中 中ローム層 (g=2mm) 少量
 - 3 109K4 溝 粘土中 継ぎ目中 ローム層 (g=2mm) 多量
 - 4 109K4 溝 粘土中 継ぎ目中 ローム層 (g=2mm) 多量

- P2**
- 1 109K21 溝 粘土中 継ぎ目中 ローム層 (g=2mm) 少量
 - 2 109K21 溝 粘土中 継ぎ目中 ローム層 (g=2mm) 少量



- 1 109K34 溝 粘土中 継ぎ目中 ローム層 (g=2mm) 多量
- 2 109K21 溝 粘土中 継ぎ目中 ローム層 (g=2mm) 少量



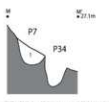
- 1 109K21 溝 粘土中 継ぎ目中 中ローム層 (g=2mm) 少量



- 1 109K21 溝 粘土中 継ぎ目中 ローム層 (g=3mm) 多量



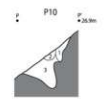
- 1 109K21 溝 粘土中 継ぎ目中 中ローム層 (g=2mm) 少量
- 2 109K21 溝 粘土中 継ぎ目中 ローム層 (g=15mm) 多量



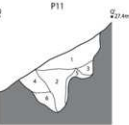
- 1 109K21 溝 粘土中 継ぎ目中 ローム層 (g=15mm) 多量



- 1 109K21 溝 粘土中 継ぎ目中 粘粒状土ローム層 (g=5mm) の埋土層
- 2 109K6 溝 粘土中 継ぎ目中 粘粒状土層



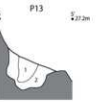
- 1 109K21 溝 粘土中 継ぎ目中 ローム層 (g=2mm) 少量
- 2 109K31 溝 粘土中 継ぎ目中 ローム層 (g=2mm) 中少量
- 3 109K31 溝 粘土中 継ぎ目中 埋土層土ローム層 (g=3mm) の埋土層



- 1 109K21 溝 粘土中 継ぎ目中 中ローム層 (g=2mm) 多量
- 2 109K21 溝 粘土中 継ぎ目中 ローム層 (g=3mm) 多量、ロームブロック (g=3mm) 少量
- 3 109K21 溝 粘土中 継ぎ目中 中ローム層 (g=2mm)、ロームブロック (g=3mm) 少量
- 4 109K21 溝 粘土中 継ぎ目中 中ローム層 (g=2mm) 多量、ロームブロック (g=3mm) 少量、Ag Ag中層
- 5 109K21 溝 粘土中 継ぎ目中 ローム層 (g=2mm) 少量
- 6 109K21 埋土層 粘土中 継ぎ目中 中ローム層 (g=3mm) 多量



- 1 109K34 溝 粘土中 継ぎ目中 ローム層 (g=2mm) 多量
- 2 109K31 溝 粘土中 継ぎ目中 ローム層 (g=15mm) 多量



- 1 109K21 溝 粘土中 継ぎ目中 中ローム層 (g=15mm) 中少量
- 2 109K21 溝 粘土中 継ぎ目中 ローム層 (g=15mm) 多量



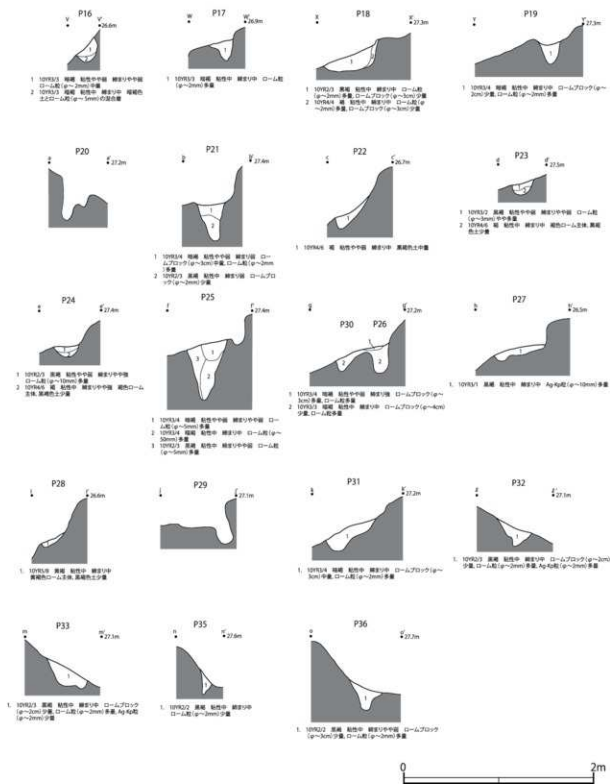
- 1 109K31 溝 粘土中 継ぎ目中 中ローム層 (g=15mm) 少量
- 2 109K21 溝 粘土中 継ぎ目中 中ローム層 (g=3mm) 少量



- 1 109K34 溝 粘土中 継ぎ目中 ローム層 (g=2mm) 多量
- 2 109K31 溝 粘土中 継ぎ目中 ローム層 (g=15mm) 多量



第 97 図 大鋸町遺跡 (第 7 地点) 5 ~ 8 号遺構・1 号遺構ピット土層断面



第98図 大蔵町遺跡(第7地点)1号遺構ビット土層断面・立面

第97・98図)。覆土は27層に区分される。調査区の中央やや東よりの位置では、覆土の14層・16層に相当する層位で硬化範囲が部分的に認められ、埋没過程で道路などとして機能していた可能性がある。

【2号遺構】大半が調査区外に延びているため、全容は不明であるが、確認できた範囲は南北1.0m、東西3.8m、深さ0.4m。断面は逆台形を呈するものとみられる。覆土は1層しか確認できていないが、基本層序のⅡ層に覆わ

第5表 大鋸町遺跡(第7地点)土坑・ピット一覧

遺構名	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺構名	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺構名	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)
3号遺構	0.52	0.32	0.52	1号遺構P10	0.44	0.34	0.14~0.34	1号遺構P24	0.44	0.34	0.10
4号遺構	0.46	0.40	0.29	1号遺構P11	0.96	0.65	0.34~0.54	1号遺構P25	0.42	0.42	0.60
5号遺構	0.54	0.44	0.73	1号遺構P12	0.30	0.26	0.38	1号遺構P26	0.32	0.26	0.26
6号遺構	0.58	0.46	0.68	1号遺構P13	0.65	0.62	0.40	1号遺構P27	0.64	0.62	0.08
7号遺構	0.48	0.44	0.11	1号遺構P14	0.34	0.28	0.12~0.24	1号遺構P28	0.42	0.30	0.06
8号遺構	0.32	0.32	0.20	1号遺構P15	0.46	0.36	0.22	1号遺構P29	0.52	0.46	0.40
1号遺構P1	0.36	0.36	0.24	1号遺構P16	0.28	0.26	0.22	1号遺構P30	0.32	0.20	0.14
1号遺構P2	0.36	0.24	0.06~0.32	1号遺構P17	0.38	0.34	0.20	1号遺構P31	0.66	0.36	0.22
1号遺構P3	0.60	0.40	0.12	1号遺構P18	0.92	0.58	0.28	1号遺構P32	0.52	0.42	0.26
1号遺構P4	0.32	0.24	0.24	1号遺構P19	0.26	0.22	0.20	1号遺構P33	0.66	0.48	0.24
1号遺構P5	0.56	0.44	0.10	1号遺構P20	0.52	0.30	0.14~0.42	1号遺構P34	0.26	0.20	0.30
1号遺構P7	0.42	0.40	0.24	1号遺構P21	0.28	0.26	0.36	1号遺構P35	0.48	0.24	0.24
1号遺構P8	0.50	0.46	0.08~0.12	1号遺構P22	0.48	0.30	0.12	1号遺構P36	0.54	0.46	0.28
1号遺構P9	0.54	0.36	0.44	1号遺構P23	0.40	0.26	0.12				

れている状況で確認されており、Ⅱ層が1号遺構の埋め戻しに伴う整地と考えられることから、1号遺構とはほぼ同時期に機能していた可能性が高い。

(3) 土坑 土坑は6基確認された(第97図)。いずれも溝跡とは重複していない状態で検出されている。

【3号遺構】 平面形は0.52m×0.32mの不整形形を呈し、深さ0.52m。

【4号遺構】 平面形は0.46m×0.4mの楕円形を呈し、深さ0.29m。

【5号遺構】 平面形は0.54m×0.44mの楕円形を呈し、深さ0.73m。覆土は3層に区分され、自然堆積とみられる。

【6号遺構】 平面形は0.58m×0.46mの楕円形を呈し、深さ0.68m。覆土は4層に区分され、3層は柱礎跡とみられ、4層は柱掘方埋土とみられることから、柱穴であったとみられる。

【7号遺構】 平面形は0.48m×0.44mの楕円形を呈し、深さ0.11m。覆土は2層に区分され、自然堆積とみられる。

【8号遺構】 平面形は0.32m×0.32mの楕円形を呈し、深さ0.2m。覆土は1層に区分され、焼土粒を微量含む。

(関口・川口)

(4) 出土遺物

1~3は縄文土器である。単節斜縄文RLと沈線文が施されている。1は中期後葉「加曾利E2・3式」、2は「加曾利E式」、3は後期前葉「堀之内1式」に相当する。

4~6は弥生土器である。4は頸部片で、櫛歯状工具(3本)による菱形文が施されている。5は指頭押捺が施された隆帯が2条以上巡り、以下にRをZ巻きした原体(軸不明)による縄文が施されている。6は単節斜縄文L・Rを施文後、半截竹管状工具による横線文、2本同時施文具による縦線文が施されている。4は「東中根2・3式」、5は「十王台式」に相当する。

7~25は須恵器である。7~13は無台円で、底面にヘラ記号がみられる。14は有台坏、15・16は蓋、17は長頸瓶、18~20は壺・瓶類、21~24は甕、25は厚底鉢である。7は9世紀前葉、8は9世紀後葉、9~11・13は9世紀、12・17は8世紀、14は7世紀後葉、15・16は8世紀後葉~9世紀前葉、25は8世紀前葉に位置付けられる。

26・27は土師器である。26は甕の把手部である。27は坏で、外面に墨書がみられ、内面は研磨黒色処理が施されている。時期は9世紀に位置付けられる。

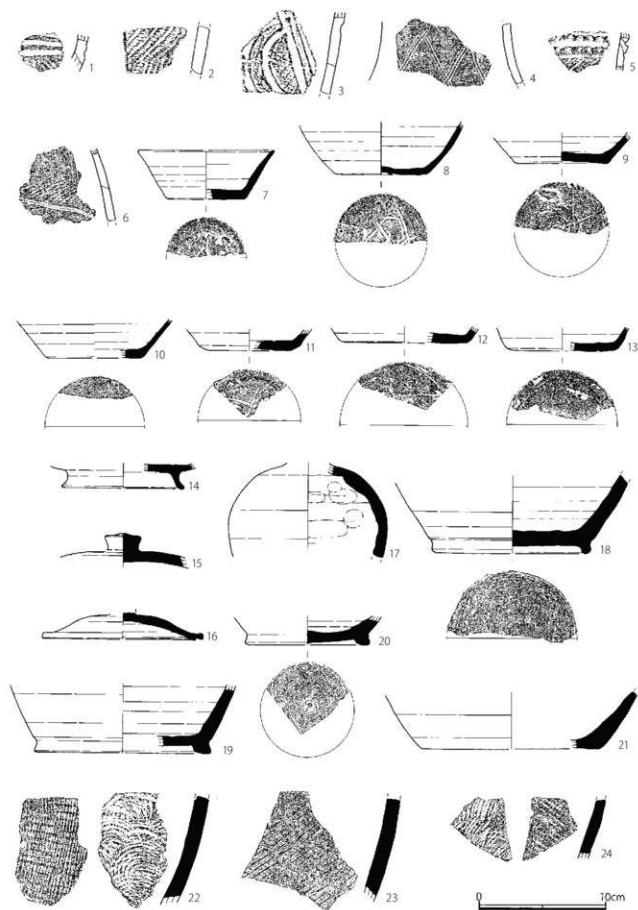
28は青磁の碗の破片である。内面に草花文が施されている。時期は中世に位置付けられる。

29は定角式磨製石斧の基部側破片である。正面中央には敲打による剝離面がみられ、折断面は裏面側からの加圧による。石材は不明。

30は断面が正方形を呈する鉄製釘である。先端部および頭部は折断により失われており、40°ほどの角度で屈曲している。31は不明鉄製品である。錘を分割したような形状を呈する板状の金属に刺金状のものが挟まれているが、機能時の姿ではない可能性が高い。32は碗状鉄滓である。遺構に伴うものではないが、近隣に鍛冶工房が存在した可能性がある。(川口・色川)

(5) 土地利用の変遷

大鋸町遺跡は、これまで6地点において発掘調査が行われており、先土器時代から近世に至るまでの土地利用が累積した遺跡として周知されている(井上 1988、斎藤・新垣 2005、佐々木・関口・大橋・林 2006)。本地点にお

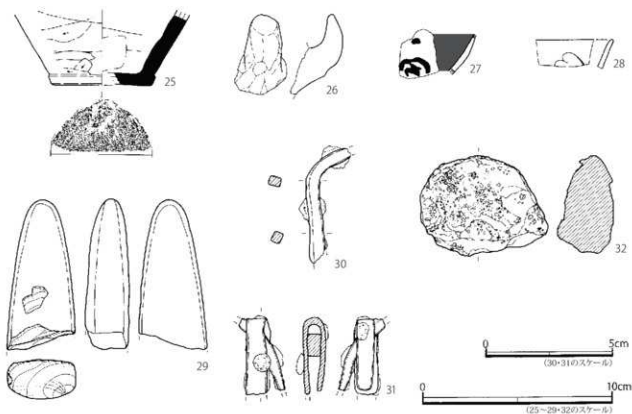


第99図 大鋸町遺跡(第7地点)出土遺物(1)

いては、検出された遺構および出土遺物から縄文時代、弥生時代、奈良・平安時代、中世、近世の土地利用があったことが確認された。中世以前及び近世の土地利用については遺構が存在せず、遺物しか出土していないため、その内容については定かではないが、既往の調査成果を振り返る限りにおいては、本地点においても中世以前と近世には集落としての土地利用が展開していた可能性が高い。

中世の土地利用に係る遺構は1号遺構と2号遺構である。また、出土遺物がないため、構築時期についてははっきりしないが、3～8号遺構についても1号遺構・2号遺構と並んでいるようにも見えることから、中世の遺構の可能性がある。中世の遺構はこれまでの調査では確認されていなかったが、大鋸町遺跡第3次調査ではカワラケや瓦質土器壺、12世紀代の白磁皿や13世紀後半～14世紀前半代に比定される龍泉窯系の青磁碗、15世紀前半の青磁碗、15世紀中葉の瓦質火鉢や16世紀中葉の菊皿、至元通宝や元祐通宝、天聖元宝等の銭が出土しており（斎藤・新垣 2005）、遺物から中世城館に関連する土地利用が存在していたことが想定されていた。このような近隣の調査地点の遺物の在り方から1号遺構と2号遺構は当遺跡が立地している吉田台地の北縁に営まれている吉田城跡に係る遺構とみて良いように思われる。吉田城跡は、鎌倉時代初期に大塚氏が初めて館を建てて吉田太郎と称したとされており、1416（応永23）年には江戸氏の支配下に入った。1590（天正18）年には江戸重通が所領没収となり、佐竹氏の支配下となる。そして1602（慶長7）年には佐竹義宣が秋田に国替となり、吉田城は廃城となる。廃城後には跡地に徳川光圀によって仏光山常照寺が創建され、現在に至っている。吉田城の主郭は現在の常照寺付近にあったと想定され、その範囲は南北150m、東西270mの範囲と推定されているが、その他の郭は大鋸町遺跡や酒門台遺跡、横宿遺跡、安楽寺遺跡、吉田神社遺跡の範囲まで広がっていた可能性が高い。文献からは以上のような城主の変遷や土地利用の変遷が知られていたが、大鋸町遺跡（第3地点）の出土品と本地点の遺構・遺物から吉田城の築城が12世紀代まで遡ること、城の範囲が大鋸町遺跡の範囲まで広がっていたことが裏付けられたことは大きな成果である。1号遺構や2号遺構が吉田城のどの郭を囲繞する溝であったのかは現状では定かではないが、今後、周辺における調査をさらに進めることにより、吉田城の構造や成り立ちを明らかにしていく必要がある。

（川口・関口）



第100図 大鋸町遺跡（第7地点）出土遺物（2）（網部は内面黒色処理）

第6表 大網町遺跡(第7地点)出土遺物総量

出土遺構	出土遺物	縄文時代			弥生時代			奈良・平安時代			中世			近世			時期不明			総破片数	総重量						
		破片数	個体	重量	破片数	個体	重量	破片数	個体	重量	破片数	個体	重量	破片数	個体	重量	破片数	個体	重量								
試・1トレンチ	縄文土器(中期)	2		38	2															2	38						
	須恵器・無付坪							1	23	1											1	23					
	須恵器・有付坪							1	6	1											1	6					
試・1トレンチ、埋土	須恵器・壺							1	12	1											1	12					
	須恵器・有付坪							7	49	7											7	49					
	須恵器・坏蓋							2	22	2											2	22					
	須恵器・壺(新内産カ)							1	23	1											1	23					
	須恵器・知留壺							1	60	1											1	60					
	須恵器・壺							7	230	7											7	230					
1号遺構	銅片(貝質百折)	1	1	7	1																	1	7				
	北方式磨製石斧・石鏃(明)	1	1	325	1																	1	325				
	縄文土器(中期)	22		379	22																	22	379				
	縄文土器(後期)	1		85	1																	1	85				
	縄文土器	2		69	2																	2	69				
	鉄片・鏡状鉄片																										
	鉄製品・釘																										
	鉄製品・不明																										
	礎																										
	弥生土器(後期)				9		97	9																			
	土師器・無付坪							31	210	31													31	210			
	土師器・有付坪							1	6	1													1	6			
	内黒土師器・無付坪							32	213	32													32	213			
	内黒土師器・有付坪							3	22	3													3	22			
	内黒土師器・甕							1	12	1													1	12			
	土師器・壺							109	758	109													109	758			
	土師器・壺(新治産カ)							91	620	91													91	620			
	土師器・壺							1	47	1													1	47			
	須恵器・無付坪							138	1244	138													138	1244			
	須恵器・無付坪(新治産カ)							2	6	2													2	6			
	須恵器・有付坪							23	398	23													23	298			
	須恵器・有付坪(新内産カ)							5	83	5													5	83			
	須恵器・坏蓋							20	293	20													20	293			
	須恵器・坏蓋(新内産カ)							6	86	6													6	86			
	須恵器・坏蓋(新治産カ)							1	20	1													1	20			
	須恵器・高鉢							6	187	6													6	187			
	須恵器・壺							1	22	1													1	22			
須恵器・長頸壺							9	252	9													9	252				
須恵器・知留壺							6	419	6													6	419				
須恵器・知留壺(新内産カ)							4	205	4													4	205				
須恵器・鉢							11	360	11													11	360				
須恵器・厚底鉢							1	121	1													1	121				
須恵器・壺							80	1942	80													80	1942				
須恵器・壺(新内産カ)							24	770	24													24	770				
須恵器・壺(新治産カ)							6	77	6													6	77				
灰輪陶器・甕							2	86	2													2	86				
青磁・甕																											
陶器・京治産・壺																											
土師質土器・小皿																											
陶器・染付甕																											
陶器・鉢																											
陶器・塗り鉢																											
瓦質土器・火鉢																											
1号遺構・P11	須恵器・無付坪								1	9	1												1	9			
	須恵器・無付坪								1	26	1												1	26			
2号遺構	須恵器・無付坪								1	5	1												1	5			
	須恵器・壺																										
総計		53	2	903	53	9	0	97	9	638	0	8,924	638	6	0	482	6	8	0	101	8	62	3	5940	62	1,472	16,327

※1 重量の単位は g

※2 土師器のうち、推定産地の記述がないものは在産

※3 須恵器のうち、推定産地の記述がないものは木葉下窯跡群産



写真 47 1号遺構検出状況（南東から）



写真 48 1号遺構土層断面（西から）



写真 49 1号遺構土層断面近景（西から）



写真 50 1号遺構西壁土層断面（東から）

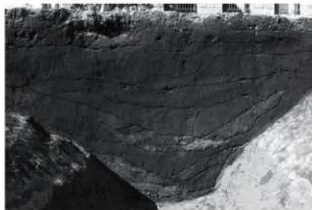


写真 51 1号遺構西壁土層断面近景（東から）



写真 52 1号遺構完掘状況（東から）



写真 53 1号遺構完掘状況（南東から）



写真 54 1号遺構 P3 土層断面（西から）



写真 55 1号遺構 P5 土層断面 (東から)



写真 56 1号遺構 P32 土層断面 (東から)



写真 57 1号遺構 P33 土層断面 (東から)

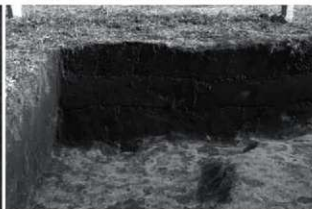


写真 58 2号遺構土層断面 (西から)



写真 59 3号遺構土層断面 (東から)



写真 60 4号遺構土層断面 (東から)



写真 61 6号遺構土層断面 (南東から)



写真 62 8号遺構土層断面 (南東から)

第4章 開発に伴う工事立会調査

工事立会調査は、周知の埋蔵文化財包蔵地内における試掘・確認調査の結果を受けて、工事立会が相当であるとされた案件について実施するが、範囲外であっても、地形等から遺跡の存在が予測される場合、開発面積が広大である場合には、事業者に協力を求めて実施した。立会調査は、事業者による工事の実施を妨げないよう配慮しながら、埋蔵文化財専門職員を掘削工事に立ち合わせ、遺物や遺構が確認された場合には検出状況の写真や簡易的な図面等による記録を作成し、遺物を回収した。

今年度は周知外1件と水戸城跡において2件の合計3件の工事立会調査を実施した。うち、水戸城跡（第15次）については、「2.30 水戸城跡（第13・15次）」において報告した。他の2件については、いずれも遺構は確認されず、遺物が出土したにとどまる。

4-1 周知外（城東3丁目179番地）

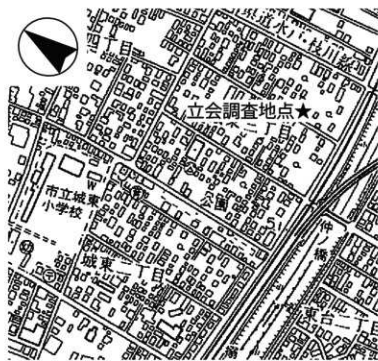
所在地 水戸市城東3丁目177-1、

177-4、178-1、179

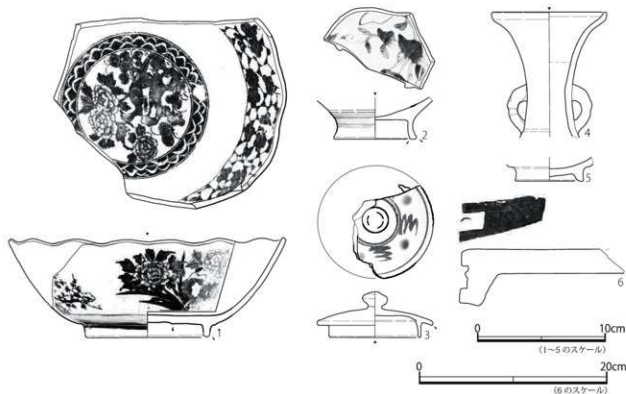
調査面積 176㎡

調査期間 平成19年4月28日

調査担当 関口慶久



第101図 周知外（城東3丁目179番地）立会調査地点の位置



第102図 周知外（城東3丁目179番地）立会調査出土遺物

調査概要 今般の土木工事は、宅地造成工事であり、進入道路部分に下水道管を埋設する際に立会った。その結果、近世～近代にかかる時期の陶磁器類や瓦が多数出土したが、いずれも表土層からの出土品であり、遺構に伴うものではなかった。

(関口)

出土遺物 1は磁器の鉢で、コバルト染付鉢ある。推定生産地は在地産の可能性が高く、推定年代は1870年代以降とみられる。2は磁器の鉢である。推定生産地は肥前の可能性が高い。3は陶器の土瓶蓋で、山水土瓶Cである。推定生産地は益子の可能性が高く、推定年代は1860年代とみられる。4は陶器の花瓶である。5は陶器の碗で、天目茶碗である。推定生産地は瀬戸・美濃、推定年代は登窯第2段階第7小期、18世紀中葉とみられる。6は軒椀瓦である。時期は江戸時代後期である。

(色川)

4-2 水戸城跡 (第14次)

所在地 水戸市三の丸2-1-315

調査期間 平成19年12月14日・平成20年1月18日

調査担当 関口慶久

調査概要 今般の土木工事は、既存建物の解体工事であり、基礎の撤去工事の際に立ち会った。その結果、近世～近代にかかる時期の陶磁器類や瓦が多数出土したが、いずれも擾乱層中からの出土品であり、遺構に伴うものではなかった。

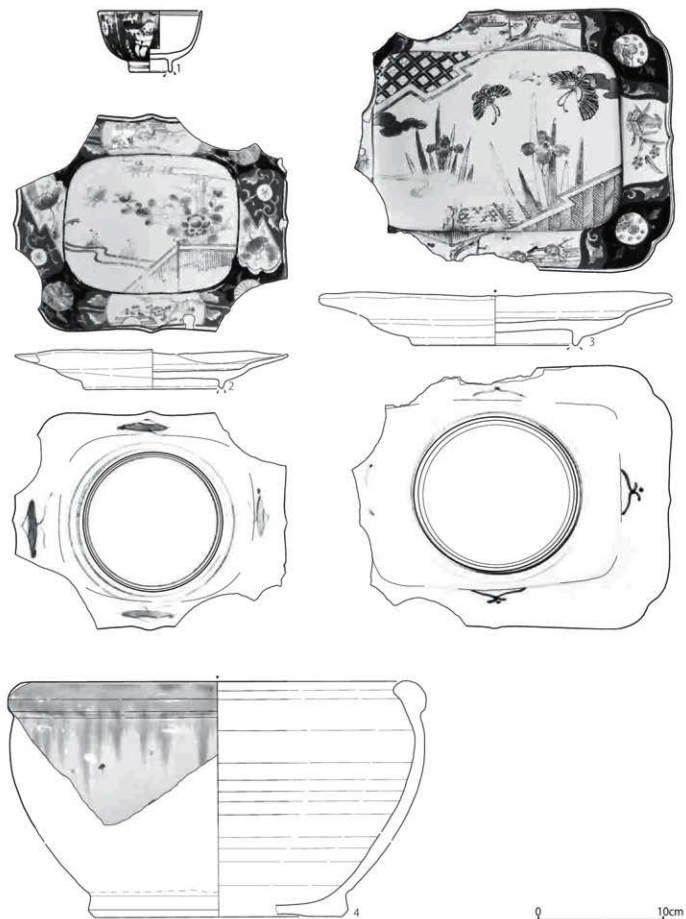
(関口)

出土遺物 1は磁器の碗で、丸碗である。推定生産地は瀬戸・美濃、推定年代は19世紀以降とみられる。2・3は磁器の皿で、長皿である。推定生産地は在地産の可能性が高く、推定年代は19世紀以降とみられる。4は陶器の鉢である。推定生産地は笠間、推定年代は1770年代以降とみられる。

(色川)



第103図 水戸城跡 (第14次) 立会調査地点の位置



第 104 図 水戸城跡（第 14 次）立会調査出土遺物

第7表 土器・陶磁器・瓦観察表

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形	法量 (cm)			観察所見	残存率	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	備考
					口径	底径	器高						
10	4	赤塚遺跡 (第4地点)	トレンチ5	縄文土器	—	—	—	大沈線文	—	砂粒(白多・黒多)	良好	にぶい・黄褐色	縄文時代早期中葉「田戸下層式」
	5	赤塚遺跡 (第4地点)	トレンチ6	縄文土器	—	—	—	縄文LⅠ、隆起線文、沈線文	—	砂粒(白多・黒・透多)	良	橙～にぶい・黄褐色	縄文時代中期後葉「加曾利Ⅴ4式」
	6	赤塚遺跡 (第4地点)	トレンチ6	縄文土器	—	—	—	縄文LⅠ、隆起線文、沈線文、波状口縁	—	砂粒(白多・黒多)	良	黒褐色・橙	縄文時代中期後葉「加曾利Ⅴ4式」
	7	赤塚遺跡 (第4地点)	トレンチ6	縄文土器	(25.8)	—	(9.1)	縄文LⅠ、隆起線文	口径13%	砂粒(白多・黒多・透多)	良好	にぶい・黄褐色	縄文時代中期後葉「加曾利Ⅴ4式」
	8	赤塚遺跡 (第4地点)	トレンチ6	縄文土器	—	—	—	縄文LⅠ、隆起線文	—	砂粒(白多・透)	良好	明赤褐色～黒褐色	縄文時代中期後葉「加曾利Ⅴ4式」
	9	赤塚遺跡 (第4地点)	トレンチ6	縄文土器	—	—	—	縄文RⅠ、隆起線文、突起あり	—	砂粒(白多・黒・透多)	良好	橙～灰黄褐色	縄文時代中期後葉「加曾利Ⅴ4式」
	10	赤塚遺跡 (第4地点)	トレンチ6	縄文土器	—	—	—	縄文RⅠ	—	砂粒(白多・透多)	良好	にぶい・黄褐色・黒褐色	縄文時代中期後葉「加曾利Ⅴ4式」
	11	赤塚遺跡 (第4地点)	トレンチ5	土器器・甕	(16.0)	—	(4.8)	外面縦位置置、内面横位置置	口径8%	砂粒(白多・黒・透多)	良好	明赤褐色	古墳時代中期前半
	12	赤塚遺跡 (第4地点)	トレンチ2	土器器・甕	—	3.6	(8.7)	外面置	底径100%	砂粒(白多・透多)	良好	黄褐色～黒褐色	古墳時代中期前半
	13	赤塚遺跡 (第4地点)	トレンチ1	土器器・小型甕	—	2.7	(6.0)	外面置置、内面口縁部横位置置、胴部置	底径100%	砂粒(白多・黒多・透多・赤)	良	橙～黄・灰黄・明黄褐色	古墳時代中期前半
	14	赤塚遺跡 (第4地点)	トレンチ1	土器器・小型甕	—	3.1	(5.5)	外面置置、内面口縁部横位置置、胴部置	底径100%	砂粒(白多・透多・赤)	良好	灰黄褐色～黒褐色	古墳時代中期前半
	15	赤塚遺跡 (第4地点)	トレンチ5	土器器・甕	—	4.1	(12.6)	外面縦位置置、内面斜位置置	底径61%	砂粒(白多・黒多・透多)	良好	にぶい・赤褐色・にぶい赤褐色～黒褐色	古墳時代中期前半
	16	赤塚遺跡 (第4地点)	トレンチ1	土器器	—	5.7	(3.2)	外面置、内面置置	底径77%	砂粒(白多・透多)	良好	明赤褐色・橙	古墳時代中期前半
	17	赤塚遺跡 (第4地点)	トレンチ1	土器器・高杯	—	—	(6.2)	外面縦位置置、内面置置	—	砂粒(白多・透多)	良好	明赤褐色	古墳時代中期前半
	18	赤塚遺跡 (第4地点)	トレンチ2	土器器・高杯	—	(14.9)	(12.3)	内外面横位置置、内面輪縁部あり	底径31%	砂粒(白多・透)	良好	明赤褐色	古墳時代中期前半
	19	赤塚遺跡 (第4地点)	トレンチ14	磁器・陶丸罎Ⅹ	(8.9)	(3.4)	5.0	輪縁成形ノ染付ノ黄付無輪、内面口縁部帯一重陶縁、足込み二重陶縁・文様あり、外面口縁部一重陶縁、花唐草文、高台部一重陶縁、高台部二重陶縁	1/2以下				有地盤。19世紀以降
	20	赤塚遺跡 (第4地点)	トレンチ14	磁器・小杯薄手酒杯	6.3	2.2	2.8	輪縁成形ノ染付ノ黄付無輪、内面刺文(土胎付)、外面刺文(土胎付)、高台部刺文、底裏部あり	1/2以上				瀬戸・美濃。19世紀以降
	19	1	大塚新地遺跡(第5地点)	トレンチ2	須恵器・有台杯	—	(9.1)	(3.6)	口ウク水鏡玉成形	底径14%	砂粒(白多)	良好	灰
22	1	大塚町遺跡(第6地点)	S101	弥生土器・甕	(15.0)	—	(7.3)	口縁部棒状工具による削み、複合口縁3段、複合部無文、複合部下縁に棒状工具による削突、付加条第2種L×R×R	口径24%	砂粒(白多・黒・透)	良好	暗灰黄・黒褐色	弥生時代後期後葉
	2	大塚町遺跡(第6地点)	S101	弥生土器・甕	—	—	(8.7)	口縁部付加条第1種L×R×R、縄文刺文による削突、棒状工具(6本)による滑風文、貼付文(削みあり)2個1組	—	砂粒(白・透)	良好	にぶい・黄褐色	弥生時代後期後葉
	3	大塚町遺跡(第6地点)	S101	弥生土器	—	—	—	付加条第2種L×L→R×R	—	砂粒(白・透)	良好	にぶい・黄褐色	弥生時代後期後葉
	4	大塚町遺跡(第6地点)	S101	弥生土器	—	—	—	付加条第2種L×L→R×Rを2巻き(輪不明)	—	泥・砂粒(白・透)	良好	にぶい・黄褐色	弥生時代後期後葉
	5	大塚町遺跡(第6地点)	S101	弥生土器	—	—	—	Rを2巻き(輪不明)→付加条第2種L×L	—	砂粒(白多・黒多)	良好	にぶい・黄褐色・橙	弥生時代後期後葉

22	6	大塚町遺跡 (第6地点)	S101	弥生土層	—	—	—	付加築第1種R1+L1	—	砂粒(白・多・黒・透多)	良好	にぶい・黄粒	弥生時代後期 後葉
	7	大塚町遺跡 (第6地点)	S101	弥生土層	—	—	—	付加築第1種R1+L1	—	砂粒(白・多)	良好	にぶい・黄粒・黒 粒	弥生時代後期 後葉
	8	大塚町遺跡 (第6地点)	S101	弥生土層	—	—	—	Rを2巻き(輪不明)	—	砂粒(白・透)	良好	暗灰・黄・にぶい 黄粒	弥生時代後期 後葉
	9	大塚町遺跡 (第6地点)	S D 0 1	弥生土層	—	—	—	口縁部縄文層体による 知み、口縁部付加築第 1種R1+L1・L R +2 R、縄文層体による 網文	—	砂粒(白・多・ 透多)	良好	黒・黒粒	弥生時代後期 後葉
	10	大塚町遺跡 (第6地点)	S D 0 1	弥生土層	—	—	—	網文土具(4本)、網 文区画3葉、横紋区画 は波状文・波状文、外 面凹凸物付着	—	砂粒(白・多・ 黒・透多)	良好	にぶい・黄粒・ にぶい・黄	弥生時代後期 後葉「十王台 式」
	11	大塚町遺跡 (第6地点)	S D 0 1	弥生土層	—	—	—	除筒(縄文層体による 知みあり)2条以上、 Lを5巻き(輪不明)	—	砂粒(白・多・ 透多)	良好	にぶい・黄粒・ 網	弥生時代後期 後葉「十王台 式」
	12	大塚町遺跡 (第6地点)	S D 0 1	弥生土層	—	—	—	Lを5巻き(輪不明) →付加築第2種R×R →Lを5巻き(輪不明)、 内外面凹凸物付着	—	砂粒(白・透 多)	良好	にぶい・黄粒	弥生時代後期 後葉
	13	大塚町遺跡 (第6地点)	S D 0 1	弥生土層	—	—	—	Rを2巻き(輪不明) →Lを5巻き(輪不明)、 内外面凹凸物付着	—	砂粒(白・多・ 透多)	良好	にぶい・黄粒・黒 透多	弥生時代後期 後葉
	14	大塚町遺跡 (第6地点)	トレンチ2	土器層・無台坪	—	(7.0)	(1.4)	ロウロ水挽き成形。底 面にへつ記号あり	底径19%	砂粒	良好	灰オリーブ	9世紀
	15	大塚町遺跡 (第6地点)	S102上	土器層・有台坪 面	(14.2)	8.7	5.1	ロウロ水挽き成形。底 面に黒書「北」・へつ 記号あり	口径34% 底径52%	骨針	良好	黄黒	9世紀前半
31	1	磯田千軒遺 跡(第2地 点)	—	須恵器・無台坪	—	(7.0)	(1.2)	ロウロ水挽き成形。底 面にへつ記号あり	底径28%	砂粒(白)	良好	灰	9世紀前半
35	1	明民取遺跡 (第3地点)	トレンチ1	縄文土層	—	—	—	縄文R1、沈線文	—	砂粒(白・黒・ 透)	良	黒・にぶい・黄粒	縄文時代中期 後葉「加曾利 E3・4式」
	2	明民取遺跡 (第3地点)	トレンチ1	須恵器・有台坪	—	9.0	(2.4)	ロウロ水挽き成形。底 面に黒書「河原」・へ つ記号あり	底径62%	骨針・砂粒(白 多)	良好	網→黒	8世紀末～9 世紀初葉
	3	明民取遺跡 (第3地点)	トレンチ1	須恵器・有台坪	(14.4)	9.2	6.2	ロウロ水挽き成形	口径10% 底径64%	骨針多・砂粒 (白多)	良好	灰オリーブ・灰	8世紀末～9 世紀初葉
	4	明民取遺跡 (第3地点)	トレンチ1	須恵器・有台坪	(18.8)	—	(7.2)	ロウロ水挽き成形	口径4%	骨針多・砂粒 (白多)	良好	灰オリーブ・灰	8世紀末～9 世紀初葉
	5	明民取遺跡 (第3地点)	トレンチ1	須恵器・有台坪	(17.8)	(10.3)	3.5	ロウロ水挽き成形	口径43% 底径23%	骨針・砂粒 (白)	良好	灰	8世紀末～9 世紀初葉
	6	明民取遺跡 (第3地点)	トレンチ1	須恵器・黄	(20.0)	15.4	35.8	外面製部縦位平行線文 明き	口径25% 底径100%	砂粒(白・多・ 透多)	良好	灰白～オリーブ 黒・灰	8世紀末～9 世紀初葉
38	1	下坂町遺跡 (第4地点)	トレンチ3	縄文土層	—	—	—	縄文R1、沈線文	—	砂粒(白・多・ 透多)	良好	にぶい・黄・黄粒	縄文時代中期 後葉「加曾利 E2・3式」
42	1	下坂町遺跡 (第5地点)	トレンチ2	縄文土層	—	—	—	縄文R1、沈線文	—	金多・砂粒(白 多・透多)	良好	網	縄文時代中期 後葉「加曾利 E1式」
45	1	明知外(藤 井町地内)	トレンチ2	縄文土層	—	—	—	縄文R1、沈線文	—	砂粒(白)	良	黄黒	縄文時代中期 後葉「加曾利 E1式」
	2	明知外(藤 井町地内)	トレンチ1	弥生土層	—	—	—	付加築第2種R×R	—	金・砂粒(透)	良	にぶい・黄	弥生時代後期 後葉「十王台 式」
52	1	竹里遺跡 (35次)	6区	須恵器・無台坪	—	—	—	ロウロ水挽き成形。底 面に黒書「厨」あり	—	砂粒(白・黒)	良	灰白・にぶい・黄 粒	8世紀後葉
57	1	長瀬遺跡(第 2地点)	トレンチ2	須恵器・無台坪	—	7.0	(3.4)	ロウロ水挽き成形	底径86%	骨針多、砂粒 (白)	良好	にぶい・網→黒	9世紀
	2	長瀬遺跡(第 2地点)	—	須恵器・有台坪	—	(7.0)	(2.2)	ロウロ水挽き成形	底径31%	砂粒(白・黒 多)	良好	灰	9世紀
63	1	西原古墳部 (第13地点)	トレンチ	須恵器・無台坪	—	(7.6)	(1.9)	ロウロ水挽き成形	底径23%	骨針、砂粒 (白・透)	良好	灰	8世紀後葉
	2	西原古墳部 (第13地点)	トレンチ	土器層・坪	(12.0)	—	(2.5)	外面口縁部横溝	口径15%	金、骨針、砂 粒(白・黒・透)	良好	にぶい・黄粒	7世紀中葉
70	1	舞台遺跡 (第4地点)	トレンチ1 S101	土器層・坪 床直	(12.2)	—	(3.0)	外面口縁部横溝・体部 隆起、内面凹凸物	口径4%	砂粒(白・多・ 黒多・透多)	良	にぶい・黄粒・黒・ 灰黄黒	7世紀中葉
79	1	水戸城跡 (10次)	—	縄文土層	—	—	—	縄文線文	—	金多・砂粒(白 多・透多)	良好	網	縄文時代早期 中葉「田戸子 形式」

79	2	水戸城跡 (10次)	—	縄文土器	—	—	—	太沈縄文	—	金多・砂粒(白多・黒多・透多)	良好	灰黄緑～暗灰黄	縄文時代早期 中葉「田戸下 層式」
	3	水戸城跡 (10次)	—	縄文土器	—	—	—	太沈縄文、内面割線	—	砂粒(白多)	良好	暗灰黄	縄文時代早期 中葉「田戸下 層式」
	4	水戸城跡 (10次)	—	縄文土器	—	—	—	内外面条筋文、外面沈 線文・刺突文(円形竹 管状工具)・屈化物付筒	—	繊維、砂粒(白多・黒・透多)	良	にぶい・黄緑	縄文時代早期 後葉「鶴ヶ島 層式」
	5	水戸城跡 (10次)	—	縄文土器	—	—	—	縄文土器上	—	繊維、砂粒、 砂粒(白多・ 透多)	良	灰黄緑～黒	縄文時代前期 前半の繊維土 器
	6	水戸城跡 (10次)	—	縄文土器	—	—	—	半截竹管状工具	—	砂粒(白・透)	良好	にぶい・黄緑	縄文時代前期 後半「浮島式」
	83	1	水戸城跡 (13・15次)	15次カク ラン	磁器・陶 小碗	(6.8)	(3.2)	4.9	輪軸成形/染付/贅付 無軸、外面口縁部一重 閉線、草花文、高台脇 一重閉線、高台部二重 閉線	1/2以下			
2		水戸城跡 (13・15次)	15次カク ラン	磁器・鉢	(15.0)	(7.3)	4.9	輪軸成形/染付/折縁、 贅付無軸、内面口縁部 墨弾きで波文・一重閉 線、青海波文・波文・ 屈文、見込み二重閉線・ 五弁花文、裏文様草文 文、腹部一重閉線、高 台二重閉線、底裏一重 閉線・筋「天明年製」	1/2以下				肥前、18世紀 後半以降
3		水戸城跡 (13・15次)	15次イコ ウ	陶器・甕	(11.0)	5.0	6.2	輪軸成形/陶胎染付/ 贅付無軸、内面口縁部 一重閉線、見込み五弁 花文、外面梅花文、高 台脇一重閉線、高台部 一重閉線、貫入あり	1/2以下				在地産、19世 紀以降
4		水戸城跡 (13・15次)	15次イコ ウ	陶器・甕 薄茶碗	(12.4)	3.9	4.8	輪軸成形/透明軸/底 部無軸、底裏閉線あり、 貫入あり	1/2以上				京都・奈良、 1690年代～ 1850年代
5		水戸城跡 (13・15次)	15次イコ ウ	陶器・皿	(9.8)	3.6	2.0	輪軸成形/透明軸/底 部無軸	1/2以下				七面製陶所市、 1838年以降
6		水戸城跡 (13・15次)	15次イコ ウ	陶器・皿	(9.6)	(4.0)	1.9	輪軸成形/鉄軸/底部 筋拭き取り、内面見込 方輪下牙痕あり	1/2以下				七面製陶所市、 1838年以降
7		水戸城跡 (13・15次)	15次カク ラン	陶器・土瓶	(6.6)	—	[10.6]	輪軸成形/縁軸/外面 腹部以下無軸、口内面 内面無軸、二耳筋付残 存上	1/2以下				七面製陶所市、 1838年以降
8		水戸城跡 (13・15次)	15次イコ ウ	陶器・徳利 灰軸一舟徳利	—	9.5	[6.8]	輪軸成形/灰軸/底部 筋拭き取り、内面無軸	1/2以下				瀬戸・美濃、 1780年代～ 1860年代
9		水戸城跡 (13・15次)	15次イコ ウ	陶器・鉢 楠木鉢か	—	(14.8)	[12.9]	輪軸成形/灰軸、縁軸 染し掛け、底部穿孔2ヶ 所	1/2以下				在地産
10		水戸城跡 (13・15次)	15次カク ラン	ガラス	1.6	4.7	16.5	緑色透明/回転キヤッ プ/1～6mmの氣泡を 含む	完形				
84	11	水戸城跡 (13・15次)	13次表土	軒丸瓦	外区径 (13.2)	内区径 (10.7)	重量 175	三ツ葉菊文	—				江戸時代後期
	12	水戸城跡 (13・15次)	15次カク ラン	軒丸瓦	全長 (8.4)	厚さ (7.3)	重量 305	江戸式	—				江戸時代後期
	13	水戸城跡 (13・15次)	15次カク ラン	軒丸瓦	外区径 (8.4)	内区径 (6.1)	重量 1,366	左巻き三つ巴文を中心 に周縁に8つの珠文を 配置、江戸式	—				江戸時代後期
	14	水戸城跡 (13・15次)	15次カク ラン	軒丸瓦	外区径 (8.2)	内区径 (6.1)	重量 1,078	左巻き三つ巴文を中心 に周縁に8つの珠文を 配置、江戸式	—				江戸時代後期
	15	水戸城跡 (13・15次)	13次表土	軒丸瓦	全長 (2.1)	厚さ (4.3)	重量 62	「安」の押印あり	—				江戸時代後期
	16	水戸城跡 (13・15次)	15次カク ラン	軒丸瓦	全長 (14.0)	厚さ (1.9)	重量 647	江戸式	—				江戸時代後期
	17	水戸城跡 (13・15次)	15次カク ラン	軒丸瓦	全長 (18.2)	厚さ (1.9)	重量 966	江戸式、「安」の押印 あり	—				江戸時代後期
	18	水戸城跡 (13・15次)	13次表土	瓦	全長 (6.7)	厚さ (1.8)	重量 583	「安」の押印あり	—				江戸時代後期
	19	水戸城跡 (13・15次)	13次カク ラン	瓦	全長 (6.7)	厚さ (2.2)	重量 141	「安」の押印あり	—				江戸時代後期
	20	水戸城跡 (13・15次)	13次表土	瓦	全長 (6.8)	厚さ (2.0)	重量 117	「安」の押印あり	—				江戸時代後期

85	21	水戸城跡 (13・15次)	13次2号 遺構	残瓦	全長 (9.6)	厚さ 1.9	重量 290 g	「安」の押印あり	—	—	—	—	江戸時代後期	
	22	水戸城跡 (13・15次)	13次表土	残瓦	全長 (9.7)	厚さ 1.9	重量 243 g	「安」の押印あり	—	—	—	—	江戸時代後期	
	23	水戸城跡 (13・15次)	13次2号 遺構	残瓦	全長 (11.5)	厚さ 2.1	重量 532 g	「安」の押印あり	—	—	—	—	江戸時代後期	
	24	水戸城跡 (13・15次)	13次日層	残瓦	全長 (8.9)	厚さ 2.1	重量 167 g	「安」の押印あり	—	—	—	—	江戸時代後期	
	25	水戸城跡 (13・15次)	13次表土	残瓦	全長 (8.1)	厚さ 2.0	重量 225 g	「安」の押印あり	—	—	—	—	江戸時代後期	
	26	水戸城跡 (13・15次)	13次表土	残瓦	全長 (10.6)	厚さ 1.9	重量 352 g	「安」の押印あり	—	—	—	—	江戸時代後期	
	27	水戸城跡 (13・15次)	13次日層	残瓦	全長 (11.2)	厚さ 2.0	重量 331 g	「安」の押印あり	—	—	—	—	江戸時代後期	
	28	水戸城跡 (13・15次)	13次表土	残瓦	全長 (9.3)	厚さ 2.1	重量 276 g	「安」の押印あり	—	—	—	—	江戸時代後期	
	29	水戸城跡 (13・15次)	13次表土	残瓦	全長 (4.8)	厚さ 1.9	重量 84 g	「安」の押印あり	—	—	—	—	江戸時代後期	
	30	水戸城跡 (13・15次)	13次日層	残瓦	全長 (4.6)	厚さ 2.1	重量 66 g	「安」の押印あり	—	—	—	—	江戸時代後期	
	31	水戸城跡 (13・15次)	13次表土	残瓦	全長 (8.6)	厚さ 1.7	重量 100 g	「安」の押印あり	—	—	—	—	江戸時代後期	
	32	水戸城跡 (13・15次)	13次カク ラン	残瓦	全長 (3.2)	厚さ 1.9	重量 30 g	「安」の押印あり	—	—	—	—	江戸時代後期	
	33	水戸城跡 (13・15次)	13次2号 遺構	残瓦	全長 (5.1)	厚さ 2.1	重量 60 g	「安」の押印あり	—	—	—	—	江戸時代後期	
	34	水戸城跡 (13・15次)	13次日層	残瓦	全長 (3.4)	厚さ 1.9	重量 30 g	「安」の押印あり	—	—	—	—	江戸時代後期	
	35	水戸城跡 (13・15次)	13次2号 遺構	残瓦	全長 (2.9)	厚さ 1.9	重量 28 g	「安」の押印あり	—	—	—	—	江戸時代後期	
	36	水戸城跡 (13・15次)	13次2号 遺構	残瓦	全長 (2.5)	厚さ 2.2	重量 15 g	「安」の押印あり	—	—	—	—	江戸時代後期	
	37	水戸城跡 (13・15次)	13次日層	残瓦	全長 (3.0)	厚さ —	重量 21 g	「安」の押印あり	—	—	—	—	江戸時代後期	
	38	水戸城跡 (13・15次)	13次カク ラン	残瓦	全長 (5.4)	厚さ 2.1	重量 39 g	「安」の押印あり	—	—	—	—	江戸時代後期	
	94	1	大甲遺跡 (第8地点)	S101	土師器・甕	(14.4)	—	[3.9]	外面縦位刷毛・横位、 内面横位刷毛	口径15%	針刺・砂粒(白 多・黒多・透 多)	良好	にぶい・赤黒	古墳時代前期
		2	大甲遺跡 (第8地点)	S101	土師器	—	(8.4)	[2.6]	外面置削、内面刷毛	底径23%	砂粒(白多・ 黒・透)	良好	明赤黒・黒陶	古墳時代前期
		3	大甲遺跡 (第8地点)	S101	土師器	—	4.8	[6.2]	外面置削、内面刷毛・ 横位置削、内外面炭化 物付着	底径66%	砂粒(白・透)	良好	にぶい・黄黒・黒	古墳時代前期
		4	大甲遺跡 (第8地点)	S101	土師器・甕	—	(3.6)	[1.3]	外面置削・赤彩、内面 置削	底径40%	針刺・砂粒(白 多・透多)	良	黒・黄灰	古墳時代前期
		5	大甲遺跡 (第8地点)	S101	土師器・高坏	—	—	[8.6]	外面置削、内面刷毛	—	砂粒(白多・ 透多)	良	にぶい・黄黒	古墳時代前期
		6	大甲遺跡 (第8地点)	トレンチ3	縄文土器	—	—	—	沈線文	—	砂粒(白多・ 黒・透多)	良好	にぶい・黄黒・明 灰黒	縄文時代後期 中葉「加曾利 式」
		7	大甲遺跡 (第8地点)	トレンチ3	弥生土器	—	—	—	櫛歯状工具(3本)に よる漆灰文	—	砂粒(白)	良好	にぶい・黄黒・明 陶	縄文時代後期 前葉「東中組 式」
		8	大甲遺跡 (第8地点)	S101	弥生土器	—	—	—	Rを2巻き(軸不明)	—	砂粒(白・透)	良好	にぶい・黄黒・明 陶	弥生時代後期 前葉
		9	大甲遺跡 (第8地点)	S101	弥生土器	—	—	—	Rを2巻き(軸不明)	—	針刺・砂粒(白 多・透多)	良好	暗灰黒・黒	弥生時代後期 前葉
		10	大甲遺跡 (第8地点)	S101	弥生土器	—	—	—	Lを5巻き(軸不明)、 外面炭化物付着	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	灰黒陶	弥生時代後期 前葉
	99	1	大塚町遺跡 (第7地点)	トレンチ1	縄文土器	—	—	—	縄文R.L.、沈線文	—	砂粒(白・黒・ 透多)	良	にぶい・黄黒・暗 陶	縄文時代中期 後葉「加曾利 E2・3式」
		2	大塚町遺跡 (第7地点)	1号遺構下 層	縄文土器	—	—	—	縄文R.L.、沈線文	—	砂粒(白多・ 透)	良	灰黒陶	縄文時代中期 後葉「加曾利 E式」
		3	大塚町遺跡 (第7地点)	1号遺構上 層	縄文土器	—	—	—	縄文R.L.、沈線文	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	黒陶・にぶい・黄 黒・黒陶	縄文時代後期 前葉「堀之内 1式」
		4	大塚町遺跡 (第7地点)	1号遺構中 層	弥生土器	—	—	—	櫛歯状工具(3本)に よる彫形文	—	砂粒(透多)	良	にぶい・黄黒・赤 い・黄黒	弥生時代後期 中葉「東中組 E2・3式」

99	5	大塚町遺跡 (第7地点)	1号遺構下層	赤土土器	—	—	—	筒帯(指洞押捺)2条以上、Rを5巻き(軸不明)	—	砂粒(白多・透多)	良好	にふい・黄緑・黒	弥生時代後期 縄文「十王台式」	
	6	大塚町遺跡 (第7地点)	トレンチ1	赤土土器?	—	—	—	縄文LR、平截竹管状土器、2本同時並立文器による柱礎文	—	念、砂粒(白多・黒)	良好	黒・にふい・黄緑	弥生時代?	
	7	大塚町遺跡 (第7地点)	1号遺構上層	須恵器・無台坪層	(10.7)	(6.2)	3.9	ロウロ水挽き成形、或直面にへう記号あり	口径34% 底径48%	骨針、砂粒(白多・透)	良好	灰	9世紀前後	
	8	大塚町遺跡 (第7地点)	1号遺構上層	須恵器・無台坪層	—	7.2	[4.2]	ロウロ水挽き成形、或直面にへう記号あり	底径53%	骨針、砂粒(白多・透)	良好	灰オリーブ	9世紀前後	
	9	大塚町遺跡 (第7地点)	1号遺構上層	須恵器・無台坪層	—	(7.5)	[2.4]	ロウロ水挽き成形、或直面にへう記号あり	底径48%	骨針、砂粒(白・透)	良好	灰	9世紀	
	10	大塚町遺跡 (第7地点)	1号遺構上層	須恵器・無台坪層	—	(7.8)	[3.0]	ロウロ水挽き成形、或直面にへう記号あり	底径28%	砂粒(白)	良好	灰オリーブ	9世紀	
	11	大塚町遺跡 (第7地点)	1号遺構中層	須恵器・無台坪層	—	(8.0)	[1.7]	ロウロ水挽き成形、或直面にへう記号あり	底径18%	骨針、砂粒(白多・透)	良好	灰オリーブ	9世紀	
	12	大塚町遺跡 (第7地点)	1号遺構上層	須恵器・無台坪層	—	(10.0)	[1.3]	ロウロ水挽き成形、或直面にへう記号あり	底径26%	骨針、砂粒(白)	良好	灰・硝灰黄	8世紀	
	13	大塚町遺跡 (第7地点)	1号遺構上層	須恵器・無台坪層	—	(8.6)	[1.9]	ロウロ水挽き成形、或直面にへう記号あり	底径37%	骨針、砂粒(白)	良好	灰	9世紀	
	14	大塚町遺跡 (第7地点)	1号遺構上層	須恵器・有台坪層	—	(9.6)	[2.0]	ロウロ水挽き成形	底径21%	砂粒(白・黒多・透)	良好	硝灰黄	7世紀前後	
	15	大塚町遺跡 (第7地点)	1号遺構上層	須恵器・葦	—	—	[2.7]	ロウロ水挽き成形	—	骨針、砂粒(白)	良好	灰	8世紀後葉～9世紀前葉	
	16	大塚町遺跡 (第7地点)	1号遺構上層	須恵器・葦	(12.6)	—	[2.1]	ロウロ水挽き成形	口径14%	砂粒(白)	良好	灰	8世紀後葉～9世紀前葉	
	17	大塚町遺跡 (第7地点)	1号遺構下層	須恵器・長頸瓶類	—	—	[7.4]	ロウロ水挽き成形、内面に歯道(口蓋・輪軸痕あり)	—	砂粒(白多・黒多)	良好	灰・硝灰黄	8世紀	
	18	大塚町遺跡 (第7地点)	1号遺構中層	須恵器・甕・瓶類	—	(12.4)	(6.2)	ロウロ水挽き成形	底径20%	砂粒(白多・透)	良好	灰・黒・灰		
	19	大塚町遺跡 (第7地点)	—	須恵器・甕・瓶類	—	(13.8)	(5.4)	ロウロ水挽き成形	底径26%	砂粒(白・黒多・透)	良好	灰		
20	大塚町遺跡 (第7地点)	1号遺構上層	須恵器・甕・瓶類	—	(9.8)	(2.3)	ロウロ水挽き成形、内外面の一部に自然輪かかると	底径21%	砂粒(白多・透)	良好	灰黒～灰オリーブ			
21	大塚町遺跡 (第7地点)	1号遺構上層	須恵器・甕	—	(13.7)	(4.5)		底径31%	砂粒(白)	良好	灰黄			
22	大塚町遺跡 (第7地点)	1号遺構上層	須恵器・甕	—	—	—	外面格子目文印き、内面押捺文	—	砂粒(白)	良好	灰			
23	大塚町遺跡 (第7地点)	1号遺構上層	須恵器・甕	—	—	—	外面平行線文印き	—	砂粒(白・透)	良好	灰			
24	大塚町遺跡 (第7地点)	1号遺構上層	須恵器・甕	—	—	—	外面青布流文、内面格子目文印き	—	砂粒(白)	良好	灰			
25	大塚町遺跡 (第7地点)	1号遺構上層	須恵器・厚底鉢	—	(8.4)	(6.0)	外面横位置刺、内面貫通	底径43%	砂粒(白)	良好	灰黄緑・にふい	8世紀前後 前期		
26	大塚町遺跡 (第7地点)	1号遺構上層	土師器・瓶	—	—	—		—	骨針・砂粒(白・透)	良好	にふい・黄緑・黒	9世紀		
27	大塚町遺跡 (第7地点)	1号遺構上層	土師器・甕	—	—	—	外面に墨書あり、内面墨色処理	—	砂粒(白・黒・透・赤)	良好	にふい・黄緑・黒	9世紀		
28	大塚町遺跡 (第7地点)	1号遺構中層	青磁・碗	—	—	—	内面草花文	—	—	—	—	中世		
102	1	岡知外(縄東3-179)	—	磁器・鉢 コバルト染付鉢	(22.0)	9.8	7.7	輪軸成形/コバルト染付/骨付無軸、甕の目凹型高台・砂付乱、輪花、内面口縁部米梨粉花文、見込み「波輪」内に「雲に菊牡丹」、外面「梅に牡丹」、高台第一重圈線・二重圈線、高台部一重圈線	1/2以下	—	—	—	在地産か、1870年代～	
	2	岡知外(縄東3-179)	—	磁器・鉢	(6.6)	(3.2)		輪軸成形/染付/骨付無軸、焼痕あり、内面花草文、外面高台第一重圈線、高台部二重圈線	1/2以下	—	—	—	肥前産か	
	3	岡知外(縄東3-179)	—	陶器・土器 山水土版C	最大径(9.2)	受部径(7.2)	器高3.7		輪軸成形、溜み宝珠型胎付/白土化粧、緑釉・鉄釉/受部・内面無釉、上面「山水文」	1/2以下	—	—	—	益子か、1860年代
	4	岡知外(縄東3-179)	—	陶器・花瓶	(9.2)	—	(9.8)		輪軸成形/緑釉/肥子胎付、内面頸部以下無釉	1/2以下	—	—	—	

104	5	埋知外 (埋知3-179)	—	陶器・磁 土日茶碗	—	3.4	[1.8]	輪軸成形/削出高台/ 黒色の鉄軸/底部は胎 胎で鉄化痕	1/2以下			瀬戸・美濃。中 世第2段階第 7小期。18世 紀中葉
	6	埋知外 (埋知3-179)	—	料残瓦	全長 (12.9)	厚さ 1.9	重量 406g	江戸式	—			江戸時代後期
	1	水戸城跡 (14次)	高土	磁器・陶 丸碗	8.3	3.4	4.9	輪軸成形/染付/貫付 無軸。内面二重圈線。 外面区画文(花・人物)。 高台部二重圈線。高台 内一重圈線	1/2以上			瀬戸・美濃。19 世紀以降
	2	水戸城跡 (14次)	高土	磁器・磁 長皿	21.7	11.0	3.1	型打成形/染付。色絵 (赤・緑・黒・紺・金) /内面「区画文」(波文・ 雲に梅枝文・鳥文)。見 込み様に花鳥藻文。裏 文様「唐草文」。高台 部一重圈線。高台部二 重圈線	1/2以上			在産地か。19 世紀以降
3	水戸城跡 (14次)	高土	磁器・磁 長皿	(28.0)	13.2	3.9	型打成形/染付。色絵 (赤・緑・黒・紺・金) /内面「区画文」(花 唐草・梅枝・月に雲)。 見込み様に牡丹・竹文。 裏文様「草花文」。高 台部一重圈線。高台部 二重圈線。高台内一重 圈線	1/2以上			在産地か。19 世紀以降	
4	水戸城跡 (14次)	高土	陶器・鉢	(33.2)	(20.6)	18.6	輪軸成形/白土化痕に 口縁部緑釉流掛け/高 台部無軸/口縁残存2 箇所。貫入あり	1/2以下				管間。1770年 代～

・括弧内の数値は、復元された口径や底径、または残存高を示す。

<第7表 凡例>

※「出土位置」は、遺構を次のように記号化している。

「S1」仕切跡。「SD」溝跡

※「軸」の記号には、次の記号を使用する。

「金」金色を呈する酸化した黒雲母片(さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。)

「青針」白色針状物質とも表記される海緑青針(さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。)

「白」白色不透明で長石あるいは石英と考えられる粒子(さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。)

「黒」黒色で光沢を有し輝石あるいは角閃石と考えられる粒子(さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。)

「透」透明で石英と考えられる粒子(さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。)

第8表 石器観察表

図 版 号	遺跡名	出土位置	器 種	石 材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備 考
9	1 志保遺跡(第4地点)	トレンチ7	削片	硬質頁岩	41.0	28.0	14.0	9.0	
	2 志保遺跡(第4地点)	トレンチ7	削片	硬質頁岩	36.0	34.5	12.5	8.0	
	3 志保遺跡(第4地点)	トレンチ7	折断削片	硬質頁岩	33.5	24.5	12.0	6.0	
	4 志保遺跡(第4地点)	トレンチ7	折断削片	頁岩	15.5	12.5	4.0	1.0未満	
22	16 大淵町遺跡(第6地点)	トレンチ1	打製石片	易解岩	85.0	53.5	23.0	92.0	分製形
35	7 朝民取遺跡(第3地点)	トレンチ1・3層	磨石	安山岩	105.5	96.5	64.0	855.0	
63	3 西町古墳跡(第13地点)	古墳周溝内	削片	チャート	39.0	37.5	9.0	8.0	
100	29 大淵町遺跡(第7地点)	1号遺構上層	磨製石片	不明	119.0	54.0	34.5	324.0	突刃式

第9表 鉄器・鉄滓観察表

図 版 号	遺跡名	出土位置	器 種	材 質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備 考
100	30 大淵町遺跡(第7地点)	1号遺構上層	釘	鉄	62.5	27.5	9.5	160	
	31 大淵町遺跡(第7地点)	1号遺構上層	不明	鉄	25.0	41.5	18.0	12.0	
	32 大淵町遺跡(第7地点)	1号遺構上層	鉄滓	—	100.0	80.0	44.0	465.0	

・計測値は、残存する状態での最大値である。

引用・参考文献

- 有山径代・長井正秋・渥美賢吾 2009 『荷鞍坂遺跡（第1地点）—コンビニエンスストア建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』水戸市教育委員会
- 石丸敦史・渥美賢吾 2009 『大館町遺跡（第8地点）—宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』水戸市教育委員会
- 伊藤藤倫 1995 『茨城県水戸市 跡遺跡—住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』水戸市教育委員会
- 井上義安 1988 『水戸市大館町遺跡（仮称）元吉田第三住宅団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市大館町遺跡発掘調査会
- 1990 『葉王院東遺跡 千波中学校建設に伴う埋蔵文化財調査報告書』水戸市葉王院東遺跡発掘調査会
- 井上義安・藤沼香未由・仁平妙子・根本勝子 1999 『水戸市埋蔵文化財分布調査報告書 平成10年度版』水戸市教育委員会
- 茨城県教育委員会 2001 『茨城県遺跡地図』
- 大森信英 1952a 『渡里村大字堀字西原四号地下式墳』『茨城高等学校史学部紀要』第1号 茨城高等学校史学部
- 1952b 『渡里村大字堀字西原の地下式墳』『茨城高等学校史学部紀要』第1号 茨城高等学校史学部
- 小川和博・大淵淳志・川口武彦・松谷暁子 2006 『台渡里遺跡—集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』水戸市教育委員会
- 川口武彦 2008 『茨城県水戸市台渡里慶寺跡長者山地区・大串遺跡第7地点』『古代交通研究会第14回大会資料集 アヅマの国の道路と景観』古代交通研究会
- 川口武彦・色川順子・渥美賢吾・片平雅俊 2008 『元石川大草原遺跡—宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』水戸市教育委員会・水戸市大草原遺跡発掘調査会
- 川口武彦・色川順子・関口慶久・新垣清貴 2009 『平成18年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 斎藤 洋・新垣清貴 2005 『大館町遺跡 グランディヒルズ元吉田造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会・グランディハウス株式会社・株式会社地域文化財コンサルタント
- 佐々木藤雄・関口慶久・大橋 生・林 邦雄 2006 『大館町遺跡（第3地点）—市道浜田207号線側溝新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』水戸市教育委員会
- 佐々木藤雄・林 邦夫・川口武彦・関口慶久 2008 『台渡里遺跡（第39次調査）—公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』水戸市教育委員会
- 佐々木義則 2001 『茨城県における8・9世紀の須恵器概観』『婆良岐考古』第23号 婆良岐考古同人会
- 鈴木正博 1976 「『十王台式』理解のために（1）—分布圏西部地域を中心として—」『常総台地』第7号 常総台地研究会
- 1982 「『髭釜』研究抄」『婆良岐考古』第4号 婆良岐考古同人会
- 1999 「北関東弥生式後期「二軒屋式」の研究 —「二軒屋式」制定60年の清算と「土器型式」研究の再構築—」『日本考古学協会第65回総会 研究発表要旨』日本考古学協会
- 鈴木素行 2002 「仙湖の辺 —「武田式」以前の「十王台式」について—」『茨城県史研究』第86号 茨城県立歴史館
- 外山泰久 1983 『常陸赤塚—国道50号水戸バイパス道路建設に伴う発掘調査—』国道50号水戸バイパス埋蔵文化財発掘調査会
- 長谷川 聡 1998 『北関東自動車道（友部～水戸）建設地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 大作遺跡 大畑遺跡』第136集 財団法人茨城県教育財団
- 日沖剛史・石丸敦史・川口武彦・色川順子・新垣清貴・渥美賢吾 2008 『薄内遺跡（第1地点）—移動体通信基地局建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』水戸市教育委員会
- 細谷弘一・佐藤次男・川井正一・根本康弘・市毛美津子 1994 『内原町の遺跡—内原町遺跡分布調査報告書—』内原町史編さん委員会
- 南田法正・渥美賢吾 2009a 『町付遺跡（第1地点）—共同住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』水戸市教育委員会
- 2009b 『東組遺跡（第1地点）—物販店舗建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』水戸市教育委員会

報告書抄録

ふりがな	へいせいじゅうきゅうねんどみとしなにいせきはつくつちようさほうこくしょ							
書名	平成19年度水戸市内遺跡発掘調査報告書							
シリーズ名	水戸市埋蔵文化財調査報告 第35集							
編集者名	川口武彦・色川順子							
著者名	川口武彦・色川順子・関口慶久・瀧美賢吾・木本平周・新垣清貴							
編集・発行機関	水戸市教育委員会	所在地	〒310-8610 茨城県水戸市中央1-4-1 ☎029-224-1111 (代)					
発行年月日	2010(平成22)年3月19日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡 番号					
河和町遺跡 (第1地点)	河和町3丁目2542-1号	08201	042	36° 22' 22"	140° 24' 21"	1次 2007.12.18～ 12.19 2次 2008.01.15～ 01.16	177.0	宅地造成工事
溝内遺跡 (第1地点)	六反田町字溝内861-2	08201	185	36° 19' 02"	140° 20' 29"	2007.09.27	36.0	通信基地局建築
大塚遺跡 (第8地点)	塩崎町字塚1077-3	08201	176	36° 19' 59"	140° 32' 42"	試掘 2007.04.27 本調査 2007.05.21 ～05.25	試掘 33.15 本調査 5.0	個人住宅建築
大塚新地遺跡 (第2地点)	大塚町544-6	08201	222	36° 22' 54"	140° 23' 17"	2007.06.20	28.35	個人住宅建築
大塚新地遺跡 (第5地点)	大塚町544-1	08201	222	36° 22' 54"	140° 23' 17"	2007.06.20	9.5	個人住宅建築
大塚新地遺跡 (第6地点)	元吉田町2338-1	08201	011	36° 21' 18"	140° 29' 01"	2007.10.02～10.03	167.50	宅地造成工事
大塚新地遺跡 (第7地点)	元吉田町2350-2	08201	011	36° 21' 20"	140° 28' 59"	試掘 2007.11.19 本調査 2008.01.31 ～02.22	試掘 22.2 本調査 89.25	個人住宅建築
大塚新地遺跡 (第8地点)	元吉田町2349-1, 2350-1, 2351	08201	011	36° 19' 19"	140° 28' 58"	2008.02.25～02.26	116.8	宅地造成工事
加倉井原遺跡 (第4地点)	加倉井町1319-1	08201	165	36° 23' 47"	140° 20' 12"	2007.11.27	8.0	個人住宅建築
城山平野遺跡 (第2地点)	鹽瀬町字九ノ瀬6002-2	08201	062	36° 20' 26"	140° 21' 31"	2007.09.21	11.45	個人住宅建築
東民坂遺跡 (第3地点)	上須井町字新行3667-1	08201	046	26° 29' 29"	140° 26' 31"	2008.01.17～01.18	6.0	個人住宅建築
下長岡遺跡 (第4地点)	双葉台4丁目238	08201	066	36° 23' 46"	140° 24' 00"	2007.11.19	39.0	樹木の伐倒、盛土
下長岡遺跡 (第5地点)	双葉台4丁目243-02号	08201	066	36° 23' 46"	140° 24' 03"	2007.12.25	6.0	個人住宅建築
沼田内 (藤井町地内)	藤井町字新野1946	—	—	26° 57' 03"	140° 24' 03"	2007.09.28	24.0	通信基地局建設
沼田内 (城東3丁目地内)	城東3丁目177-1, 177-4, 178-1, 179	—	—	36° 22' 16"	140° 29' 54"	2007.04.28	176.0	宅地造成工事
新田遺跡 (第1地点)	全慶町1366-1	08201	212	36° 25' 18"	140° 22' 38"	2007.08.27～08.30	8.0	排水構造物
竹鹿生遺跡 (第34次)	鹿生町字節城敷3028	08201	276	36° 24' 32"	140° 26' 10"	2007.04.04～04.05	98.24	個人住宅建築
竹鹿生遺跡 (第35次)	鹿生町2812-1～3011	08201	276	36° 24' 30"	140° 26' 07"	2007.05.27～05.28	18.0	公共下水道管理施設
竹鹿生遺跡 (第40次)	鹿生町字親久保2771-12	08201	276	36° 24' 29"	140° 26' 01"	2008.03.19	24.71	個人住宅建築
東照宮地内遺跡 (第1地点)	宮町2-4	08201	076	36° 22' 24"	140° 28' 25"	1次 2007.09.14 2次 2007.10.17	99.5	マンション建築
長郷遺跡 (第2地点)	大友町1044-1号	08305	070	36° 23' 9"	140° 22' 18"	2008.02.21	45.0	個人住宅兼店舗建築
高橋坂遺跡 (第1地点)	西門町242-1	08201	162	36° 21' 11"	140° 29' 30"	2007.08.27～08.28	220.5	コンビニエンスストア建築
高橋坂遺跡 (第13地点)	高橋町字野木3370-6, 3370-7	08201	080	36° 24' 38"	140° 25' 27"	2008.02.28	21.88	個人住宅建築

東前遺跡 (第1地点)	元古田跡 379-1 伊	08201	290	36° 21' 38"	140° 28' 37"	1次 2008.02.19～ 02.20 2次 2008.03.12	497.0	物販店舗建築
関江前遺跡 (第1地点)	関江町字宮久保 1219-3	08201	153	36° 24' 19"	140° 23' 53"	2007.07.05	10.5	個人住宅建築
野中遺跡 (第4地点)	三浦町 86-2	08305	089	36° 22' 13"	140° 20' 59"	2007.09.28	21.25	通信基地局建設
野中遺跡 (第11地点)	霞野町 3293-1, 3294-1	08201	064	36° 24' 24"	140° 25' 32"	2007.06.15	23.0	個人住宅建築
野中遺跡 (第12地点)	霞野町 396-1	08201	064	36° 24' 25"	140° 25' 14"	2008.01.29	65.8	個人住宅建築
野中遺跡 (第1地点)	西門町 638-1	08201	235	36° 21' 01"	140° 29' 57"	2007.11.19～11.20	122.5	共同住宅建築
水戸城跡 (第10点)	三の丸 2-9-22 (水戸二中)	08201	172	36° 22' 33"	140° 28' 48"	1次 2007.08.20～ 08.22 2次 2007.09.12	106.0	受水槽埋設工事
水戸城跡 (第13・15次)	三の丸 1-6-29	08201	172	36° 22' 31"	140° 28' 38"	第13次 2007.08.31～09.04 第15次 2008.02.13	3.3	校舎改築工事・排水 管改修工事
水戸城跡 (第14点)	三の丸 2-1-315	08201	172	36° 22' 30"	140° 28' 41"	2007.12.14～ 2008.01.18	—	建物解体工事
元石川次谷倉遺跡 (第1地点)	元石川新字大谷倉 2265 外	08201	289	36° 19' 06"	140° 30' 11"	1次 2007.10.24・ 25・29・31 2次 2007.11.01・ 02・05	920.0	宅地造成工事
芳井遺跡 (第2地点)	見川 5 丁目 1232, 1233	08201	016	36° 22' 13"	140° 25' 26"	2007.04.09～04.10	87.0	共同住宅建築
黄甲町遺跡 (第4地点)	霞野町 2373-3	08201	121	36° 24' 31"	140° 26' 31"	2007.11.13, 12.10	17.0	個人住宅建築
黄甲町遺跡 (第7地点)	霞野町字八幡前 2598-4	08201	121	36° 24' 24"	140° 26' 19"	2008.03.24	2.0	個人住宅建築
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
高野遺跡 (第4地点)	集落跡	先土器・縄文 ・古墳・奈良 ・平安・近世	土器群 (縄文), 竇穴住居跡 3 (古墳中), 溝跡 1 (近世)		土器 (先土器), 縄 文土器 (中期・縄 (縄 文), 土器群 (古墳), 須恵器 (奈良・平安), 瓦・瓦葺 (近世)	遺 1 地点に続き, 先土器時代の遺物を 確認。		
海内遺跡 (第1地点)	集落跡	弥生・古墳・ 奈良・平安	竇穴住居跡 1 (古墳前)		弥生土器 (後期), 土 器群 (古墳前), 須 恵器 (奈良・平安)	当遺跡の土器層に埋まれている6枚 田古墳群 (方形周溝墓) と同時期の集 落を構築。		
大野遺跡 (第8地点)	集落跡	縄文・弥生・ 古墳・奈良・ 平安	竇穴住居跡 1 (古墳前), 掘立柱建物跡 1 (奈良・平安)		縄文土器 (前期), 弥 生土器 (後期), 土 器群 (古墳), 須恵器 (奈良・ 平安)	独自の調査で確認されていた古墳時代 前期の集落跡と遺 1 地点で確認され た竇穴建物跡・平屋型家屋に関する掘 立柱建物跡を構築。		
大塚跡地遺跡 (第2地点)	集落跡	古墳・奈良・ 平安・近世	なし。		土器群 (古墳)・須 恵器 (奈良・平安), 陶器 (古墳), 甕			
大塚跡地遺跡 (第3地点)	集落跡	奈良・平安	なし。		土器群 (奈良・平安)			
大塚跡地遺跡 (第6地点)	集落跡	弥生・古墳・ 奈良・平安・ 中世・近世	竇穴住居跡 3 (弥生後・古墳～奈良・平安), 溝跡 1 (中 世), 土坑・柱穴 3 (不明)		打割石葺 (縄文), 弥 生土器 (後期), 須 恵器 (奈良・平安), 内耳土器 (中世), 銅 器・炊器土器 (近世), 瓦 (不明)	弥生時代後期および古墳時代～奈良・ 平安時代の集落の一部と中世の古田城 跡に係る発跡を構築。溝跡は第 7・8 地点のものと同結すると思われる。		
大塚跡地遺跡 (第7地点)	集落跡	縄文・弥生・ 古墳・奈良・ 平安・中世・ 近世	溝跡 2 (中世), 土坑 6 (不明)		縄文土器 (中・後期), 打割石葺・割片 (縄 文), 弥生土器 (後 期), 土器群・須恵器, 灰釉陶器 (奈良・平 安), 鉄製品 (不明), 古器・土師質土器 (中 世), 陶磁器・瓦葺 土器 (近世)	中世の古田城跡に係る発跡を構築。第 6・8地点のものと同結すると思われる。		
大塚跡地遺跡 (第8地点)	集落跡	奈良・平安・ 中世・近世	竇穴住居跡 4 (奈良・平安), 大塚土坑 1 (中世～近世), 土坑 4 (奈良・平安・不明)・ピット 9 (不明), 溝跡 2 (中 世)		土器群・須恵器 (奈 良・平安)	奈良・平安時代の集落の一部と中世の 古田城跡に係る発跡を構築。溝跡は第 7・8地点のものと同結すると思われる。		
加倉行成遺跡 (第4地点)	集落跡	奈良・平安	なし。		土器群・須恵器 (奈 良・平安)			
歳田千軒遺跡 (第2地点)	集落跡	奈良・平安	竇穴住居跡 1 (奈良・平安), ピット 1 (奈良・平安)		土器群・須恵器 (奈 良・平安), 甕			
里長坂遺跡 (第3地点)	集落跡	縄文・弥生・ 奈良・平安・ 近世	ピット群		縄文土器 (中期)・越 石 (縄文), 弥生土器, 土器群・須恵器 (奈 良・平安), 瓦葺土器・ 銅器 (近世)	「河原」跡の罪首土器が出土した。		
下瓦与遺跡 (第4地点)	集落跡	近代	掘跡 1 (近代)		縄文土器 (中期)			

下島分遺跡 (第5地点)	集落跡	縄文	なし	縄文土器 (中期)	
開田外 (藤井町地内)	包蔵地	奈良・平安	なし	縄文土器、弥生土器 (前期)、土師器・須 置器 (奈良・平安)	
開田内 (城東3丁目地内)	包蔵地	近世～近代	なし	陶磁器 (近世)、瓦 (近 世)	
新田遺跡 (第1地点)	包蔵地	縄文	伊穴2 (縄文)、集石1 (縄文)	縄文土器	
竹渡里遺跡 (第35次)	集落跡 / 官衙跡	弥生・古墳・ 奈良・平安	伊穴住居跡1 (古墳 or 奈良・平安)、溝跡1 (奈良・平安)、 土坑2 (不明)、ピット群 (不明)	弥生土器、土師器・ 須置器 (奈良・平安)	「開二」路の須置土器が出土。
竹渡里遺跡 (第40次)	集落跡 / 官衙跡	古墳	溝跡1 (古墳群)	なし	後の本調査により予期後平安以前に置 かれた遺構区画もしくは評段跡に遡る 前期百舌谷域に係る溝跡であったことが 判明した。
東畑宮内遺跡 (第1地点)	集落跡	近世	なし	磁器 (近世)	
長崎遺跡 (第2地点)	集落跡	奈良・平安	なし	土師器・須置器 (奈 良・平安)	
荷取坂遺跡 (第1地点)	古墳 / 集 落跡	古墳・近世	溝溝1 (古墳後)、溝1 (不明)、道路状遺構 (近世)、 ピット・土坑 (不明)	円筒埴輪・形象埴輪・ 陶磁器	
内原古墳群 (第13地点)	古墳群	縄文・古墳・ 奈良・平安・ 近世	溝溝1	銅片 (縄文)・縄文土 器、須置片 (古墳)、 土師器・須置器 (奈 良・平安)、瓦 (近世)	円墳の周溝が1条確認され、溝内部分 から須置片が出土したことから、須 置片の甲石等を採用した横穴式石室を 持つ内容 16.0m、外形 21.0m であっ たことが判明した。
東前遺跡 (第1地点)	集落跡	弥生・奈良・ 平安・近世	伊穴住居跡7 (奈良・平安・不明)、土坑2 (近世)	土師器・須置器 (奈 良・平安)、陶磁器 (近 世)	
開田前遺跡 (第1地点)	集落跡	縄文	なし	縄文土器 (中期)	
舞台遺跡 (第4地点)	集落跡	古墳	伊穴住居跡1 (古墳)	土師器・須置器 (奈 良・平安)	古墳時代の集落の一部を初めて確認し た。
坂道跡 (第11地点)	集落跡	奈良・平安	伊穴住居跡2 (奈良・平安)	土師器・須置器 (奈 良・平安)	
坂道跡 (第12地点)	集落跡	縄文・奈良・ 平安・近世	土坑4 (奈良・平安)、竪1 (近世)	縄文土器・土師器 (奈 良・平安)	
町川遺跡 (第1地点)	集落跡	弥生・古墳・ 奈良・平安	伊穴住居跡3 (古前)、道路状遺構1 (奈良・平安)	弥生土器 (後期)、土 師器 (古前)	部置部帯と平埴野家を結ぶ絡道との可 能性が高い直線道路が確認された。
水戸城跡 (第10次)	城跡跡	中世・近世	伊穴状遺構2 (不明)、土坑3 (不明)、ピット37 (中世)	土師器・須置器 (奈 良・平安)、土師質 土器 (中世)、瓦質 土器 (近世)、鏝	ピットのうち3基については柱穴である ことが確認された。
水戸城跡 (旧名遺構) (第13・15次)	城跡跡	近世・近代	土坑4 (近世)、柱穴1 (近世)	陶磁器 (近世)、ガ ラス瓶 (近代)	
水戸城跡 (第14次)	城跡跡	近世	なし	陶磁器 (近世)	水戸城跡内では初見となる色鉛筆に花 苞蓮文瓦類が2個体出土した。
元石川谷屋敷遺跡 (第1地点)	集落跡	縄文・古墳・ 平安・近世	溝跡2 (不明)、道路状遺構1 (不明)、伊穴住居跡3 (古 後2、平安1)、竪穴柱建物跡1 (近世)	縄文土器 (後期)・土 師片群 (縄文)、土 師器 (古後・平安)、 須置器・瓦輪陶器・ 須置土器・不明瓦製 品 (古後・奈良・平 安)、青木遺宝 (近世)	古墳時代後期の集落は本遺跡の東側に 隣接する森が古墳群を形成した集落の 集落の一部であった可能性が高い。平 安時代の集落は、本遺跡の北西に隣接 する小中根遺跡と一連のものと思われる。
若林遺跡 (第2地点)	集落跡	縄文・近代	土坑1 (近代)	縄文土器 (中期)	
霞町遺跡 (第4地点)	集落跡	奈良・平安	土坑1 (奈良・平安)、ピット7 (奈良・平安・不明)	土師器・須置器 (奈 良・平安)	
霞町遺跡 (第7地点)	集落跡	奈良・平安	なし	土師器・須置器 (奈 良・平安)、鞍轡2	

※北緯・東経は世界測地系による。

水戸市埋蔵文化財調査報告

第1集	台渡里廃寺跡—範囲確認調査報告書—	2005年3月発行
第2集	台渡里廃寺跡 —市道常磐17号線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(1)—	2005年4月発行
第3集	大塚町遺跡 —グランディヒルズ元吉田造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2005年8月発行
第4集	台渡里廃寺跡 —市道常磐17号線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)—	2006年3月発行
第5集	台渡里遺跡—集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2006年3月発行
第6集	吉田古墳Ⅰ—史跡整備計画に伴う吉田古墳群第3次調査報告書—	2006年3月発行
第7集	大塚町遺跡(第3地点) —市道浜田207号線側溝新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2006年3月発行
第8集	坏遺跡(第3地点) —ヴィヴァンコート赤塚建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2007年3月発行
第9集	坏遺跡(第4地点) —プランタンコリーヌⅡ建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2007年3月発行
第10集	吉田古墳Ⅱ —史跡整備計画に伴う吉田古墳群第1号墳の第3次発掘調査報告書—	2007年3月発行
第11集	平成17年度水戸市内遺跡発掘調査報告書	2007年3月発行
第12集	アラヤ遺跡(第2地点) —市道常磐10号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2007年3月発行
第13集	米沢町遺跡(第5地点) —住宅展示場建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2007年3月発行
第14集	大串遺跡(第7地点) —介護老人保健施設建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2008年3月発行
第15集	台渡里遺跡(第39次調査) —公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2008年3月発行
第16集	渡里町遺跡(第5地点) —市道常磐31号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2008年6月発行
第17集	渡里町遺跡(第6地点) —市道常磐34、275号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2008年6月発行
第18集	薄内遺跡—移動体通信基地局建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2008年8月発行
第19集	堀遺跡(第9地点)—宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2008年9月発行
第20集	元石川大谷原遺跡—宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2008年12月発行
第21集	台渡里1—平成18年度長者山地区範囲確認調査概報—	2009年3月発行
第22集	平成18年度水戸市内遺跡発掘調査報告書	2009年3月発行
第23集	吉田古墳Ⅲ —史跡整備計画に伴う吉田古墳群第1号墳の第4・5次発掘調査報告書—	2009年3月発行
第24集	町付遺跡(第1地点)—共同住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009年3月発行
第25集	東組遺跡(第1地点)—物販店舗建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009年3月発行

第26集	荷鞍坂遺跡（第1地点） —コンビニエンスストア建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009年3月発行
第27集	大館町遺跡（第8地点）—宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009年3月発行
第28集	雁沢遺跡（第1地点）—工場建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009年3月発行
第29集	渡里町遺跡（第7地点） —市道常磐23, 31, 307号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009年6月発行
第30集	台渡里2 —市道常磐283号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（台渡里第51次）—	2009年6月発行
第31集	若林遺跡（第1地点）—宅地分譲工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009年8月発行
第32集	堀遺跡（第16地点） —市道渡里48号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（1）—	2009年10月発行
第33集	堀遺跡（第18地点） —市道渡里31, 41号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009年11月発行
第34集	堀遺跡（第17地点） —市道渡里35号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009年12月発行
第35集	平成19年度水戸市内遺跡発掘調査報告書	2010年3月発行

水戸城跡	三の丸土塁および堀の復旧に伴う工事・調査報告書	2006年9月発行
------	-------------------------	-----------

水戸市埋蔵文化財調査報告 第35集

平成19年度水戸市内遺跡発掘調査報告書

印刷 平成22年3月19日

発行 平成22年3月19日

編集 水戸市教育委員会

発行 水戸市教育委員会

印刷 株式会社光和印刷

水戸市元吉田町1823-22

TEL 029-247-4362